

大正13年絵専騒動 附『大正13年業務日誌』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松尾, 芳樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0002000068

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



大正 13 年絵専騒動

附『大正 13 年業務日誌』

松尾 芳樹

【抄録】

明治 42 年に開校した京都市立絵画専門学校において、大正 13 年に「絵専騒動」と新聞に報じられる事件が発生した。時の校長藤代禎輔と竹内栖鳳をはじめとする教員との間に対立が生じ、学生生徒による盟休に発展したものである。その結果、校長藤代・教授竹内とともに教授山元春拳が辞職し、学校運営に大きな影響を与えた。当時作成された資料を検討すると、絵専騒動は、絵画における専門教育に生まれたひずみを修正するために生じた出来事であり、校長、教員、学生の三者がそれぞれの立場で善意を以て行動したことが結果として騒動に発展したものと考えられる。

1 はじめに

明治42年に吉田町の京都市立美術工芸学校（以下「美術工芸学校」という）の校舎内に京都市立絵画専門学校（以下「絵画専門学校」という）が開校した。明治36年の専門学校令の公布を受けて、美術工芸学校の上級学校として設置されたものである。絵画専門学校は、昭和14年に図案科が設置されるまで絵画専攻のみの学校であったため、主要な教員は当初大半が日本画の教員であった。

大正13年にこの絵画専門学校に起きた事件は、「絵専騒動」として新聞に報じられ、学校運営に大きな影響を与えたとされる。しかし、この事件については公式の記録が見当たらず、事件後数年して評論家の神崎憲一が「大正十三年、時の校長藤代禎輔博士と教授竹内栖鳳との間に意見の阻隔を生じ、その結果藤代・竹内・山元三巨頭の引退を見るに到り、内容に於て一大刷新をなすに至った」⁽¹⁾とする認識が、外部から見た事件の輪郭であったと思われる。新聞記事を除いてはこの事件の情報は限られており、いまひとつ実態が把握し難いところがあったが、当時作成された資料にこの事件を詳細に記録するものが見つかり、経緯が比較的明らかになったため、その概要をまとめる。

2 絵専騒動の経緯

絵画専門学校の記録『明四十二年以後沿革史』⁽²⁾（以下『沿革史』という）には、次のように事件の経緯が記されている。

^(三月廿五日)
「同日 之ヨリ先両校職員幹部会ニ於テ同会内規ヲ立案シ数回ノ協議ヲ重ネタルモ円満ニ纏ラス

遂ニ多数決ヲ以テ原案ヲ議決セシガ藤代校長ハ之ニ同意セラレズ本日決議無効ヲ申渡サル」

「五月十日 美術工芸学校教諭兼本校教授荒木矩願ニヨリ退職ヲ命セラル」

「同十四日 去ル三月廿五日教授会内規案不成立ノ結果教授間ニ不満ノ声アリ終ニ四月十二日教授竹内恒吉、中井宗太郎、西山卯三郎、及美術工芸学校教諭辻宇之助、西村源次郎ノ五氏連袂辞職願ヲ提出シ同十六日教授菊池完爾、助教授入江幾次郎ノ二氏又辞職願ヲ提出セラル

右ニ付本日午前生徒大会ヲ校内ニ開キ留任嘆願書ヲ作製シテ市長及校長ヘ提出シ其ノ目的ヲ貫徹スヘク生徒一同ハ結束休校ノ決議セリ」

「同十六日 生徒保証人ヲ召集シ生徒休校ノ顛末ヲ説明シ出校方ニツキ協議ス」

「同二十九日 本日午後本校生徒一同並美術工芸学校第五学年生徒及先般来辞表提出中ノ教授助教授教諭ヲ召集シ市長代理多久助役ヨリ一場ノ訓示アリテ先般来ノ問題無事解決セラル」

「同 三十一日 本校長兼美術工芸学校長藤代禎輔本職並兼職ヲ免セラレ京都市助役多久安信両校長事務扱ヲ命セラル」

「同日 教授竹内恒吉、同山元金右衛門願ニヨリ本職ヲ免セラル」

出来事としては大正 13 年 3 月 25 日にはじまり、5 月 31 日に終息したとしている。5 月 14 日から始まる学生運動によって事態が急展開しており、『百年史』⁽³⁾の年表においては、『沿革史』と『二葉』⁽⁴⁾に収録された両校の記事を組み合わせてもう少し詳細にこの動向を伝えようとしている。そして、今回新たに提示する資料として『大正 13 年業務日誌』⁽⁵⁾と仮称する複写物がある。これは、大学が『百年史』を編纂する際に収集した資料と思われるが、現存が確認できない原本からの複写物であり、来歴が不明であったため、これまで資料として積極的に利用されてはこなかった⁽⁶⁾。書き起こしてみると、筆者を高い確度で同定できる資料として信頼性は高く⁽⁷⁾、なおかつ内容の重要性から見て十分に利用可能な資料と考えている。取材による貴重な内容を含む『日出新聞』の記事も、この新たな資料による補完で、一層価値のあるもの⁽⁸⁾となっている。

大正 13 年の 3 月初頭時点での絵画専門学校の教育体制を見ると、実習の教員として教授に西山翠嶂 (1881-1958)、竹内栖鳳 (1864-1942)、山元春舉 (1871-1933)、菊池契月 (1879-1955)、川村曼舟 (1880-1942)、木島桜谷 (1877-1938)、助教授に合田一峰、猪飼嘯谷 (1881-1939)、入江波光 (1887-1948)、嘱託教員に徳田隣斎 (1880-1947)、二宮一鳩 (1888-?)、太田喜二郎 (1883-1951)、千熊章祿 (1883-1965) という顔ぶれである。洋画家の太田は素描の教員であり、美術工芸学校の図案科の教員である千熊は予備科の図案を担当したと思われる。学科教員としては教授として荒木矩 (1865-1941) と中井宗太郎 (1879-1966) がいたが、他は嘱託教員であった。絵画専門学校専従となっていたのは国語の猪熊浅麻呂 (1870-1945) と教育学の伊藤猷典 (1889-1970) の 2 人で、他は美術工芸学校との兼務である。風俗史の江馬務 (1884-1979)、解剖の八木絹助 (1870-?)、体操の前田喜市、図学の種子島時彦、外国語の島崎得道がいた。教授 8 名、助教授 3 名、嘱託教員 11 名の 22 名の体制であった。

この騒動で 11 名の教授助教授のうち荒木、竹内、中井、西山、菊池、入江、山元の 7 名が辞表を提出し、うち荒木、竹内、山元の 3 名が退任した。荒木は美術工芸学校の教員でもあり、美術工芸学校の教員にも辞表を出したものがいるため、絵専騒動とはいうものの、当初から問題は学校全体に関わるものである。

同時期の美術工芸学校の状況を確認すると、実習の教員として、絵画科に川北霞峰 (1875-1940)、

柴原希祥（1885-1854）、西村五雲（1877-1938）、徳田隣齋（1880-1947）、都路華香（1870-1931）、助教諭として二宮一鳩、川本参江（1889-?）、柴田晩葉（1885-1942）、嘱託教員に佐野一星（1894-?）がおり、図案科には教諭として岐美竹涯（1878-1939）、神坂雪佳（1866-1942）、猪飼嘯谷、千熊章禄、助教諭に青木蘚石がいた。他の実習教員としては、彫刻科に助教諭心得の上野守三（1885-?）と助手国安稻香（1872-?）、漆工科に教諭の岩村光眞（1885-1945）、江馬長閑（1860-1940）がいた。学科教員には、教諭として数学の堀十五郎、解剖の八木絹助、国語の荒木矩、西海福之助、平野久吉（1882-1946）、歴史の江馬務、体操の前田喜市がおり、嘱託教員に英語の片山春一、島崎得道、図学の種子島時彦がいた。教諭 18 名、助教諭等 6 名、嘱託 4 名という 28 名の体制である。このうち絵画専門学校の教員を兼務していたのは徳田、二宮、猪飼、千熊、荒木、前田、八木、江馬、島崎、種子島の 10 名であり、荒木の辞職後、竹内栖鳳とともに辞表を提出したのは都路と西村である。都路は栖鳳と榎嶺塾の同門であり、西村は美術工芸学校の教員における栖鳳の弟子中最年長者である。

5 騒動の発端

大正 12 年の年末に、京都市から美術工芸学校、絵画専門学校の校舎移転の計画が提示された。これは、吉田校地の狭小問題を解消するための移転である。移転候補地は、今熊野と二条城西北の二つがあり、今熊野は商業実修校と敷地を折半するものであった⁽⁹⁾。教員は今熊野校地の狭小なことで環境問題があつて不適格とし、現状維持を提案した。しかし、京都市長側から移転のための妥協案として今熊野の敷地を全て両校に当てることが提案され、再度検討することになり、鉄道による震動、粉塵などの調査を急遽行つた。このとき、校長は確かに学校側に立っていたのだが、一刻を争う事態でありながらも、積極的に動かないことが問題となつた。そして環境調査の結果、震動、粉塵ともに大きな影響はないことが報告され、菊池など反対の意見を述べる教員もいたが、竹内が、現状の校舎が不十分なことは事実であり、今熊野の校地の環境問題は、建築設備によって補うこととして、移転に賛成すべきではないかと提案し、全体として賛成する方向にまとまつた。この間、校長の存在感は希薄であり、このあたりから、教員と藤代校長の間に不穏な気配があつたらしい。

『沿革史』にも記されているとおり、3 月 25 日の教授会において、校長の要求が拒絶されたため、校長は職権を以て教授会の決議を破棄している。この校長の要求というのは 3 月 12 日の教授会で審議された同会内規の再検討である。この教授会内規問題は、当時絵画専門学校の嘱託教員であつた徳田隣齋、二宮一鳩ですら人に聞かれてもよくわからないため困っていると述べていること⁽¹⁰⁾から、かなり微妙な内容であつたらしく、内規案そのものはおろか関係する記録も現在確認できない。ただ、後に『日出新聞』に掲載された荒木矩の発言を見ると、人事方針に関わるものであつた可能性が高い⁽¹¹⁾。先の移転問題における教員の校長に対する不信感もここにきて顕在化したものと思われる。

決議破棄の直後 28 日に校長と荒木が一度会談をしているが、その後の交渉はわからないまま、4 月 8 日の入学式直後に、校長は荒木の論旨退職を勧告するのである。しかも、辞表の提出を翌日の正午までに限ると極めて厳しい態度で臨んでおり、これが騒動の直接の引き金となつた。論旨退職は懲罰的な性格の退職勧告で、辞表を提出しなければ、懲戒解雇に進む厳しい処分である。

荒木はこれを受け入れ、病気を理由に辞表を提出しているが、当然この処遇を承服しかねる教員

は多く、4月10日に開かれた教授会で総辞職も審議されたが、まとまらなかったという。これが、4月12日の5教員辞表提出につながったものと考えられ、校長の辞職が辞表撤回の条件であつたらしい。この5教員とは竹内栖鳳とその弟子西山翠嶂そして美学者の中井宗太郎という絵画専門学校の3教員と、美術工芸学校の都路華香、西村五雲の2教諭である。都路は竹内と幸野楳嶺塾の同門であり、西村は竹内の弟子である。学校の記録では荒木の退職をその1ヶ月後の5月10日としているが、これは規定により定められた公的な退職期日である。絵専騒動の発端はこの荒木への退職勧告にあり、これを受けて5教員辞表提出の事態となったのである。従って、騒動の口火は専横ともいえる藤代校長の決定にある。5教員と校長との交渉が膠着するなか、16日、さらに絵画専門学校の菊池と入江が辞表を提出し、事態は拡大した。菊池と入江は竹内と同門の菊池芳文の門流であり、7名のうち画家6名は全員四条派を受ける幸野楳嶺の門流といえる。当時の絵画専門学校の教員11名のうちすでに辞表を受理された荒木を除くと半数の教員が辞表を提出したことになる。辞表を提出しなかった教員は菊池芳文の弟子合田一峰、谷口香嶠の弟子猪飼嘯谷、山元春舉とその弟子川村曼舟、今尾景年の弟子木島桜谷である。

事件の始まりは、藤代校長による絵画専門学校教授会決議の破棄にあるが、荒木への退職勧告によって、問題は美術工芸学校にも拡大した。辞表提出後の教授教諭は出校せず、両校の生徒たちは、いやおうなく騒動の当事者となったのである。生徒にしてみれば、新学期の開始早々、主要な教員が不在となる非常事態であるが、当初は静観していた。それが5教員辞表提出について、4月28日付け大阪朝日新聞の夕刊記事により、衆人の知るところとなり、静観を許されない状況となったのである。その動きのひとつが絵画専門学校在校生と美術工芸学校5年生による盟休決議であつた。

6 同盟休校

この4月28日付大阪朝日新聞夕刊の記事は今回確認できなかつたが⁽¹²⁾、翌29日の大阪朝日新聞京都付録に掲載された続報⁽¹³⁾によってある程度推測することができる。記事は校長に取材しながらも、内容に不正確な部分のあるものであつたらしく、藤代校長は、28日の記事は取材を受けて語る事実が含まれるが、29日の記事は全く関知していないと語つたという。当時の「日出新聞」の記事や業務日誌と比較しても、29日記事が竹内栖鳳に対する誹謗を含む恣意的な偏向を見せていることは明らかであり、学校はこうした風評が事態収束の障害となることを憂慮した。藤代校長自身は、学校崩壊につながる教員辞職を認める気は無く、一方で教員の要求を受けて自身が進んで辞職する気もなかつたらしく、結果として、無責任ではあるが、教員の争議については裁定を京都市長にゆだねることになった。当時の馬淵鋭太郎市長は竹内ら教員の意見を尊重したかつたらしいが、京都大学を後ろに持つ藤代に一方的に責任を負わせることは、議会内の反市長派に追及の材料を与えることになりかねず、即断の難しい問題となつた。こうして事態は膠着し、学生生徒の中に動揺が生まれ、当時全国的にさまざまな学校で発生していた学校運動が結びついたと考えられる。

5月14日絵画専門学校の学生大会と卒業生大会がそれぞれ同日のうちに開催され、学生によって「辞表提出中ノ七教授留任ヲ切望ス」と目的を定め、そのための行動として同盟休校が採択されると、卒業生らも一旦は動揺する。しかし、5月18日改めて開催した卒業生大会では、第一期生である土田麦僊や村上華岳らが中心となって意見の集約にあたり、在校生の盟休決議を支援する立場をとっている。学生の運動に対しては学校がその沈静化にあたり、保証人会の召集によって父兄らか

ら学生に対し盟休中止の働きかけを促進するとともに、一部教員による学生の切り崩しが行われた。学生大会によって決議された絵画専門学校在校生の同盟休校は、5月16日から吉田神社近くの旧智福院跡にあった料亭「東洋花壇」において開始され、警察の監視対象となったのである。ただ、その盟休は示威行動のない極めて穏やかなもので、朝定時に集まり、午後定時に解散し、手分けして辞表を提出した教員の説得にあたるというものである。

美術工芸学校5年生は、ややおくれて5月19日から盟休に入る。これは絵画専門学校と連携して行われた運動ではなく、教員の辞表撤回を求める絵画専門学校の学生運動を見て、独自に学校への授業改善を求める要求を行うことを決議したものである。美術工芸学校は大正12年の規則改正でそれまで4年となっていた修業年限が従来の5年に戻されたため、5年生は、当初美術工芸学校と絵画専門学校の教程の中間におかれて、やや特異な位置づけとなっていた。そのため、4年以下の美術工芸学校生徒と絵画専門学校学生と異なる行動をとりやすかったものと見られる。美術工芸学校の4年以下の生徒は結局のところ盟休に関わっていない。彼等の目的は「一、吾人ハ此際校長ノ辞任ヲ慮リ理由ノ如何ヲ論セス本校ニ留マラン事ヲ希望ス」「一、吾人ハ多年情実ニ流レ退廢セル本校ノ改革ヲ敢行セラレン事ヲ希望ス」「一、吾人ハ本校ノタメニ三教諭ノ留任セラレン事ヲ希望ス」の三つで、教員のみならず校長の辞職にも反対している。ここで彼等のいう三教諭とは美術工芸学校教諭の西村、都路に絵画専門学校教諭ながら美術工芸学校教諭を兼務した中井を加えたものを指している。「退廢セル」教育と学生が伝えるものは、実技のみならず、学科に対しても指摘があり、実は、騒動が終息したあと絵画専門学校の学生に対する聞き取りからも同様の声があがっている⁽¹⁴⁾。

学校からの盟休対策としては生徒代表との直接交渉のほか、保護者会への協力依頼があったが、後に問題となったのは、美術工芸学校教員による生徒の切り崩し工作であった。個別の説得は教師と友人の板挟みとなる状況を作り出し、一部の生徒に心労を与えるものとなった⁽¹⁵⁾。

5月26日に開催された美術工芸学校の保証人会は生徒を同道するものであった。この会議において校長が5年生の要望に沿うよう努力することで、盟休の終了が確認され、28日から出席することになった。一方、絵画専門学校は27日に校長と竹内の辞職によって事態を終息させることが伝えられ、翌28日に東山花壇において盟休の解散が決議された。

7 絵専騒動の構造

絵専騒動が当時深く印象づけられたのは、学生の盟休運動があったためで、実際に学校で発生したことは、校長の専横の結果、一人の教員を罷免したことに反発し、校長辞職を求めて多数教員が連袂して辞表を提出したことに尽きる。それ自体は充分騒動といってよい内容だが、関係者からの発言はなく、きわめて内部的な問題として推移した。授業は、出勤教員が代理で行っていたらしく、学校そのものが休業していたわけでもない。従って、28日、29日の新聞記事が事態を混乱させたことは間違いない。

藤代校長が教授会の決議を拒絶した真意については、いまその内規が残らず、記録も確認できないため不明であるが、校長が学校の校内規律の改善を試みていると見られていることから、古い体質を温存する内容と見なされた可能性がある。おそらく、藤代校長にとって古い体質とは、竹内や山元ら画壇の重鎮が学校教育に大きな影響を維持するところから発生するものと考えているのであろう。藤代は、どちらかという、工芸に対し理解共感を示していたらしく、実際神坂雪佳をはじめ

めとする図案科の教員とは、近い関係があったらしい⁽¹⁶⁾。これは、先の校長松本亦太郎が絵画に深く関心をよせていたことと対照的である。また、藤代校長は教条主義的などころがあったらしく、自身の信念に対して融通のきかないところが見受けられる⁽¹⁷⁾。その性質がこの専横的な行動に反映したのであろう。調停を行った京都市長は、問題の発端となった内規改正案を提出させて確認しており、落としどころを探ったものと思われる。ただ、校長に対する教員からの苦言として、学校移転が決まり、これから予算折衝がはじまるという時点で、こうした一種の改革を押しつけてくる手法に、学校移転にあたる校長としての資質を問う要素もあった⁽¹⁸⁾。学校で混乱が起これば、当然のことながら予算獲得には不利に働くと考えたためである。

従って、絵専騒動は校長と教員間の争議と、この争議に起因する学生と学校との争議という二つの争議が複合したものである。しかも学生が学校に要求したものの中には、校長と教員間の対立の解消とともに、教育の内容に対する改善要求が含まれており、後者は当時全国的に広まっていた学生運動の立場に近いものであった。そのため、彼等の盟休の動きは警察の介入を招き、一層の緊張を生んだ。

藤代校長にしても、学校教員にしても、学生にしても、それぞれの希求するものは、よりよい学校教育の姿であったと考えてよい。その意味で目的の方向は一致している。ただ、その方法は必ずしも一致しておらず、ズレを修正するために強引な手法が選ばれてしまったというのが、絵専騒動の性質と思われる。絶対的な悪者が居るわけではないが、開校後十数年を経て、教育課程にひずみが生じはじめていたのも事実であったのだろう。今日のような定年制がないなかで、教育者および教育をどのように更新していくのかということは、教育を行う側にとっても、受ける側にとっても重要な関心事となっていた。

8 絵専騒動の終息

5月29日に確認された京都市長の調停内容とは、校長の辞職と竹内・山元の辞職のみを以て事態を終息させることであり、6教員の辞表についてはこれを返却して慰留することになった。校長の退職を理由に慰留したのである。竹内は当初から辞職する意向であったが、他の教員には慰留を勧めたものとする。山元は体調不良もあり、あまりこの騒動に関与しておらず、当初辞表を提出していなかったが、教員の世代交代を考える竹内の意見には同調しており、調停者である市長の提案を受けたものと見られる⁽¹⁹⁾。藤代校長にしても、教員の世代交代は、校紀改善という目的には適っており、自らの辞職は騒動の原因を発生させた当事者の責任として受け入れられる内容であったと考える。この事件に関する学生達の評価としては、教員側に傾いており、竹内、山元、荒木の3教授の送別会は学校に於いて学生の余興も含めて五百数十名の参加をみて行われた一方で、藤代校長の送別会は、大津において、美術工芸学校の教職員18名のみで行われたこと⁽²⁰⁾を見れば、やはり混乱の責任は重く見られたのであろう。

絵画専門学校生徒の決議は単純に辞表提出の7教員の留任を求めるものであり、そのための盟休であったため、教員が慰留に従えば解決した。一方、美術工芸学校5年生からの要求は教員の慰留の他、学校教育の改善を求めるものであったため、教員留任後も課題が残された。そうした事件の後処理は、藤代の後を受けた京都市助役多久安心校長事務取扱によって行われた。美術工芸学校5年生の要望の中に校長の留任も含まれているのは、校長の行う校紀改善に期待があったためである。

実際に、学生の声の中に学科の内容に対する批判は強く、騒動の終結後、11月に江馬務が辞職しているのは、この学生からの批判を受けて教育改善の動きに対応した処置であったと思われる⁽²¹⁾。

絵専騒動終結後、6月6日に合田一蜂が辞表を提出したのは、竹内と同門である菊池芳文の弟子として絵専開校時から在職しながら静観していた合田が、栖鳳が辞職したことに対し、自らにけじめを課したものである⁽²²⁾。学校側はこれを憂慮し、合田を市立小学校の図画指導員として異動することを提案し、学校を離れることを認めた。この合田の異動は、当時から絵専騒動の一環と見なされている⁽²³⁾。また、竹内と同門の谷口香嶠の弟子として美術工芸学校と絵画専門学校の教員を兼務していた猪飼も当初から静観していたが、翌年8月に両校を辞職し、今尾景年門下の木島桜谷も翌年4月に辞職する。結果として騒動において辞表を提出しなかった教員の大半が一年余りのうちに学校を去ることになった。竹内、山元、木島と絵画専門学校の年長者3名が後進に道を譲ったかたちとなり、生まれた欠員を美術工芸学校からの異動と新たな採用によって補ったのである。美術工芸学校の辞表提出者である都路華香と西村五雲を新たな教師に迎え入れてはいるが、宇田荻邨、中村大三郎、山口華楊といった若手の登用、画塾に属さない福田平八郎の採用など世代交代を意識した工夫が見られる。馬淵市長は騒動終結後、任期満了を待たず同年9月19日に辞任しており、藤代はその後、岩波書店から刊行された独逸文学叢書の監修を務めた後、がんとの闘病の末、昭和2年に亡くなっている。

7 おわりに

絵専騒動は約二ヶ月にわたり学校に混乱をもたらした。それも、急遽提示された学校の移転問題に、緊急的対応をしなければならぬ状況下で発生したのである。これまで、曖昧な輪郭しか把握できなかった絵専騒動は、堀十五郎が記録したと思われる業務日誌によって、事件の構造をかなり具体的に理解することが可能となった。騒動の意義を考察するためには十分な基盤が得られたと考えている。

事件が発生したのは近代的な学校組織で絵画の専門教育を行うようになって、すでにかかなりの年数を経た時期にあたる。教える側にも教えられる側にも、それぞれの立場から教育の最善を模索する意識が高まっていた。学生が主張するような、「間に合わせ」⁽²⁴⁾の授業に対する不満は、切実な問題であったに違いない。一方で、定年制度がなかった時代、高い水準の教員の配置と適切な期間での交替を実現するためには、自律的な個別の判断を求めざるをえず、試行錯誤は避けられなかった。絵画専門学校が、当時の京都の日本画壇に大きな影響を持ったことは、事実として理解されるが、その背景には多くの葛藤と選択があったことを忘れてはならないのである。

出来事のみを概観すると藤代校長の行動に原因があるように思われるが、それほど一方的な問題ではなかったと考えている。関東の出身でドイツに学んだという点では先に校長を務めた松本亦太郎も藤代禎輔も同様である。しかし、勃興期の松本に比較すれば、安定期に入った藤代の時代は、思い通りにならないことも増していた。また、日本画の世界も国画創作協会の設立など、新しい動きを受けて複雑さを増しており、学校にもその影響が及んでいた可能性が高い。絵専騒動は、そうした環境の中に生まれたひずみを修正するための出来事のひとつと思われる。校長、教員、学生の三者がそれぞれに自身の立場で善意を以て行動したことが結果として騒動に発展したものと考えることが現実的であろう。

【注】

- 1 神崎憲一『京都に於ける日本画史』（京都精版印刷社、1929年9月）p.233。
- 2 『明四十二年以後／沿革史／京都市立絵画専門学校』と表題のあるB5版電子複写101枚が残る。原本の所在は不明。
- 3 『百年史』(1981年3月、京都市立芸術大学)
- 4 『二葉』は美術工芸学校、絵画専門学校の両校校友会の刊行物。本来は文芸誌としての役割があったが、年次報告と住所録を主な内容とするようになった。大正13年の記録は大正14年号に収録される。
- 5 B4版電子複写49枚。原本の所在及び所有者不明。大正13年2月13日から起筆され、同年8月31日まで記録されている。表題はなく、内容は学校事務室の業務日誌であるが、個人的に記していたらしく、筆者が出張などで不在であれば、記録がない。同日誌については、今熊野校地移転問題についての記述もあり、今日ではうかがい知ることのできない学校の日常を伝える興味深い資料である。本資料については、未公開のため今回翻刻を付した。
- 6 『百年史』「略史編」の「美術学部編」の記述には、この日誌が利用されたと覚しき記述が見られるが、凡例中の参考文献には特に記述されていない。
- 7 図書館の資料の受入出納の記録が見られること、美工会に関係する記事が散見すること。数学など理系科目の教科書に関する記述を含むこと、絵画専門学校の教授会には出席していないが、職員会には参加していること、堀の出張および休暇の日は記述がないことなどから、美術工芸学校の教諭で、数学など理系科目を担当した堀十五郎による記録と見るのが妥当である。堀は美工会の幹事をつとめ、図書管理にも携わっていた人物である。
- 8 絵専の卒業生の発言が新聞に掲載されているが、彼等と騒動の関係が本資料により理解される。
- 9 二条城西北は現在の京都市立二条中学校の場所。かつて京都市立第二高等女学校が置かれた。商業実修校は明治34年に府から移管された京都市立簡易商業学校にはじまる京都市立商業実修学校のこと。
- 10 『業務日誌』5月12日の項。
- 11 5月から6月にかけて「日出新聞」に、「問題の人 荒木矩氏在職廿五年 絵専今昔物語」の連載があり、6月8日付の「出身画家のいろゝゝ」の記事の中に「絵専創立当時、教員組織について、栖鳳先生の意見を聞きますと「これは余程大切な事ですからお互いに十分考慮して置かぬと後日に大禍根を遺す処があります」と前提して「先づ私の考では実技の教員は三年毎に銓衡して進退せしむる必要があると思ひます、学者でも何年も同じ事を講義せられては学生は困ります特に芸術を生命とする我学校で技術が停滞したり墮落したりして居る教員に永く勤続せられては学校が頽廢して仕舞ます、力士が腕を折り声楽家が喉を傷めては役に立たぬと同様です、恩給とか人権蹂躪とか些細な事に拘泥して情実に流れては学校が台無しになる、又助手も少くも文展三等賞以上の実力ある者でなければ採用せぬ事に定めては如何です」と云はれた、至極道理であると思ひましたが其の当時実行しにくい事情がありましたので一先づともかく組織して後日徐に大成を期したいと申しますと「とかく世の中は理想通りには往かぬものですから私は強ひてとは申しませぬが君が後悔する時が来るでせう」といはれました、三年経ち五年十年十五年と経過して遂に今回の大紛擾となり斯人あるが為め学校をして九鼎大呂より重からしめた絶世の大画伯をして学校を去らしむるに至りし其の源が僕の此説を用ゐざりし不明に基くかと思へば卒業生に対し在校生に対し何とも申訳がありませぬ、実に死して余罪ありと申すべきだと今更臍を嘔む次第です、」と述べる部分がある。
- 12 現時点で朝日新聞のデータベース（朝日新聞クロスサーチ for Library）に見えない。
- 13 記事の全文は以下のとおり。

【見出し】

久しく画策された栖鳳一派の陰謀愈よ現れ終に藤代校長追ひ出しまで漕ぎつく
軟弱なる市長の態度に対し注視を怠らぬ京大側と硬骨市議
京都絵専美工乗取り的一幕

【本文】

久しく問題となつてゐた京都美術工芸学校、絵画専門学校の内紛は遂に二十八日竹内栖鳳氏一派から校長藤代文学博士に対して辞職勧告の最後通牒を發したることによつて破裂してしまつた、同校乗

取りの一派は久しい前から同志の結束に努めてゐたがたまたま昨年十二月両校移転問題が京都市参事会に提案さるゝや二月九日同志は先づ職員会議を開き移転反対の氣勢を昂め愈両校乗取の鋒鋦を現はした然るにその会議の組織が甚だしく乱雑なので藤代博士は「先づ高等官級を会員とする職員会議を組織しては如何」と勧めたので栖鳳氏の参謀たる中井宗太郎氏は新に職員会議の内規を制定したがその内規が校内一般の事を多数決で決定するとあるのに肝腎の議長が存在を認めぬ奇怪至極なものなので、一派の陰謀を見て取つた藤代校長は故意に隠忍してこれを黙視してゐた、然るに愈職員会議に提出される議案を見ると人事に亘つて栖鳳派以外のものには多数決で辞職勧告をすといふ乱暴極まるものなので、校長も遂に心棒が出来ず職員任免は校長の権限にあり、新内規に依る職員会議は認めぬと云ひ出したので栖鳳氏の一派は藤代校長が二枚舌を使ふとて両者は爰に戦端を開始した、藤代博士は事態爰に至れば最早躊躇すべきでないとし積年の問題たる同校改革に指を染め栖鳳氏の股肱で事実上の校長といはれる荒木教諭に退職を迫つたので校長と栖鳳派との葛藤となり本紙所法の如く栖鳳、翠嶂、五雲、華香、中井宗太郎五氏は辞表を纏めて三度提出して三度却下され、遂に二十八日校長に辞職勧告的一幕まで漕ぎ着けた

今後事件の發展は固より判断に苦しむが中井宗太郎、栖鳳氏の令息なる竹内逸三両氏が主として暗中に飛躍し、同志を糾合し卒業生に渡りをつけ排斥運動に加盟させると同時に一面馬淵市長を牽制して藤代博士を追ひ出し竹内栖鳳氏を校長たらしめんと画策してゐる

一方馬淵市長は栖鳳氏を学校より去らしめてはならぬと藤代校長に詰腹を勧告する位だから戦ひは栖鳳派に有利と見られるが、市會議員中の硬骨漢は市長の態度を軟弱なりと憤慨し栖鳳一派にして同校に留らば結束して立ち是非を天下に問ふべく芸術家としての生命を断たんと目下秘密に策動してをる、京大文学部の教授たる藤代博士が名利離れて学校改革に指を染めたのに若し馬淵市長がこれを犬死にさすような態度を執るとすれば京都大学は挙げて市長の敵となるべく問題は意外の方面に波及して京都市政の大問題に飛火するらしい成行である

14 『業務日誌』7月2日の項。

15 『業務日誌』5月18日および20日の項。

16 藤代禎輔が雅号素人の名で出版した随筆『鷺筆余滴』（弘文堂書房、1927年6月）には「美術工芸座談」の一章があり、神坂雪佳と思われる人物が登場している。

17 校長擁護の立場をとっていた5年生に対しても、責任者の処罰に至らなかつた点を遺憾としている。

18 『業務日誌』5月1日の項。学生が聴取した中井宗太郎の意見。

19 5月30日付「日出新聞」

20 『業務日誌』7月19日の項。

21 『業務日誌』7月3日の項。

22 荒木矩が竹内栖鳳の言葉として伝えるように絵専教員にふさわしい資質を求めるならば、画壇における合田の評価は決して十分なものではないため、恐らく最初の教授会においても、問題とされた可能性がある。絵専騒動の収束後、合田が直接進退を迫られることはなかつたと思われるが、本人としてはやはり責任を感じるころがあつた可能性がある。

23 『大毎美術』3巻8号（大正13）に以下のような記事が見られる。「美術界消息／絵専校刷新／藤代校長、竹内、山元、荒木三教授の退隱により京都絵画専門学校の指導者は都路華香、西村五雲両氏が美術工芸学校教諭より同校教授に任ぜられ福田平八郎氏の教授心得任命と共に左の如く各階指導者の顔触れを見るに至つた△予科一年 川村曼舟、案本一洋△予科二年 木島桜谷、徳田隣齋△本科一年 菊池契月、入江波光△本科二年 西山翠嶂、福田平八郎△本科三年 都路華香、西村五雲同校出身案本一洋、中村大三郎両氏は何れも美工校教諭に任ぜられた、また従前有名無実であつた研究科をも充実せしむべく旧予科一年の指導者合田一峰氏は依願退職、京都市教員養成所囑託となつた」。

24 5月26日の5年生の保証人会において、生徒が主張した授業に対する不満を表した語。学校の都合で、適切な教員が当てられていないとした。学校の対応として、2科目の授業が休講とされた。

”

『大正 13 年業務日誌』

【解題】

原本は B5 版冊子体の資料と見られ、見開きの状態を B4 版に電子複写したものである。複写枚数は 49 枚で、原本の 96 ページ分となる。落丁はない。記事は大正 13 年 2 月 13 日から始まり 8 月 31 日で終わっている、特に記事が途切れた様子は見られず、記録としてはまとまっている。

本資料の筆者は明記されていないが、絵画専門学校の教授会には出ていないにもかかわらず職員会に出席していること、美工会の幹事をしていること、図書や資料の購入や修理に関わっていること、理系の授業を担当していると思われることなどから、美術工芸学校の教員で、学校の事務も担当していた堀十五郎と考えてよい。資料中は筆者を「予」と表記するケースが多いが、参加者などの名を列挙する際に堀が参加している場合は末尾に堀の名を加えている。堀が欠勤や出張の場合は日誌が欠けているため、業務日誌ではあるが、組織的に作成したものとは考えにくい。堀は明治 38 年から美術工芸学校の数学・物理・化学の教員として着任し、大正 8 年から事務を兼任するようになり、絵専騒動収束後、大正 15 年から昭和 11 年まで事務に専従した。堀が日常的に業務日誌をつけていたのか、特定の期間だけのものではあったのかは不明である。

内容は多岐にわたり詳細である。かなり高い頻度で記述しており、特に、大正 12 年の年末に持ち上がったとされる学校校舎新築移転に関する記事と絵専騒動の顛末およびその後の処理に関する記事については豊富な内容を記録する。全体の半分近くが絵専騒動に関わる内容といってよい。校舎移転について、学校側は当初今熊野の地を不可とし、二条城西北を移転地として検討すべしと考えていたことや、校舎の建築にあたっては、京都市建築課長の安立紘があたったことなど、貴重な記述が見られる。安立紘は福井県出身で、名古屋高等工業学校を卒業した建築家である。京都市役所の建築に関わり、京都南座の設計にあたったことで知られている。また、この時移転候補地である今熊野校地で行われた環境調査は、堀自身が従事したため、極めて詳細に記録されている。加えて絵専騒動とその後の処理に関する部分が最も多く、当時の「日出新聞」の記事とも対応している。他に図書の購入、修理の記録、生徒の品行に関わる記録、生徒の就職の斡旋や、来客者の記録、所蔵品の展覧の内容など、学校の庶務に関わる記録が残され、短い期間ではあるものの、学校の日常を窺わせる貴重な記録となっている。

記事に見られる人名は、多数にのぼる。しかし、氏名は丁寧に記述され、少なくとも、教職員、生徒、卒業生についていえば、そのほとんどを同窓生名簿から確認することができる。筆者が備忘録として記録したことが推測される。

【凡例】

- 一 翻刻は原本の改行に従っており、各行の行頭に紙数と行数と月次を付している。抹消線で消された字句は割愛している。行数は語句のある行のみを数えた。
- 二 表記は原本に従ったが、必ずしも正字にこだわらない。アラビア数字を使用する場合は原本に従ったものである。記事の行頭に「一、」の符号を付すものが多いが、割愛されているものに対しては「・」を付して読みやすさを補った。
- 三 原本には読点が打たれる場合があるが、それも含めて、読みやすいように改めて句読点を付した。また、語を列記する場合、原本では読点を使用しているが、読みやすさのため中黒を使用した。
- 四 絵専騒動に関わる部分を赤文字で、校舎移転に関わる部分を青文字で示している。

頁	行	月	記事
p01	1		大正十三年
p01	2	2月	二月十三日 ・ 上田竹泉堂ヲ召喚シ、四季繁盛絵巻三枚(善峰寺)ヲ渡ス。又日野法界
p01	3	2月	寺壁画天人図五枚仏像図四枚ヲ渡ス。前者ヲ巻物一卷ニ、後者ヲ掛物三幅ニ仕立シム。
p01	4	2月	(六月廿四日出来受取)
p01	5	2月	同 ・ 安原雲煙堂ヲ(電話)召喚ス。明日正午来校スル事ヲ口達ス。絵専卒業製作表装ヲ命ス
p01	6	2月	ル為ナリ。佐野教師ニ職人屏風片双ヲ貸ス。本館階上ニテ手本用模本ヲ作ル為ナリ。
p01	7	2月	同 ・ 美二月号原稿ヲ持タセ遣ハス。
p01	8	2月	同 ・ 美工会展覧会委員会召喚ノ為メ、沢田・川畑・中原・馬島・田村・布施・平野・井上重義へ手紙ヲ出ス。
p01	9	2月	同 ・ 学校移転案市長ニヨリテ提出セラル。賛否紛糾ス。職員一同不可ヲ唱フ。昨夕目片市参事会員来
p01	10	2月	校。市長案に多少ノ修正ヲ加ヘテ賛成ナリ度ト求メラル。第一案日吉山地所全部ヲ絵専美工兩校ニ
p01	11	2月	提供スル事、二、二条離宮西北ノ地(第二女学校移転予定地)ニ移転スル事ノ二案ヲ示サル。
p01	12	2月	同夜荒木教授ハ竹内教授ヲ訪ヒ意見ヲ求ム。日ク第一案ハ不可、第二案ニシテ市参事会ニ容ラレ、
p01	13	2月	見込アラハ先ツ教授会ノ実地踏査ノ上其賛否ヲ定メタル後ニ本会議ニ上程セラレタシト。
p01	14	2月	本日ハ市参事会ニ於テ最後ノ確定ヲナス日ナリ、依テ教授会ハ現位置ニアル事ヲ主張スルモノナル事
p01	15	2月	ヲ言明シ、市参事会ヲシテ市長提案ヲ否決セラレン事ヲ具陳スヘク、校長出頭説明スヘキ方法
p01	16	2月	ヲ目片氏ニ依頼セリ。
p01	17	2月	十四日 ・ 昨日午後四時頃藤代校長ハ市参事会へ出頭。移転地ノ不適當ナル理由ヲ説明シ、原案
p01	18	2月	維持説ノ議員等モ大ニ諒解シ、持論ヲ緩和セル傾アリト。
p01	19	2月	・ 若林書店員来リ幾何学教科書ハ十七日ニ発送ノ送信(電報)ヲ示セリ。
p01	20	2月	同店員へ教科書参考献本ヲ渡セリ。
p02	1	2月	一、 田村谿陽氏ヨリ美工会(十七日)出席不能(風邪ノ為)ノ通知来ル。
p02	2	2月	一、 江馬努氏ヨリ風俗研究第四十五号寄贈セラル。
p02	3	2月	一、 辻宇佐雄・竹原信三郎へ額縁小二面ツ、ヲ譲渡ス。辻氏ヨリハ金貳円六拾銭受取ル竹原氏ハ明日納入ノ筈。 (十六日受取)
p02	4	2月	一、 小使塩谷ヲ橋本関雪方へ遣ハシ歸リテ後、小使斎藤ヲ村上文芽氏へ遣ハス
p02	5	2月	一、 表具師安原雲煙堂来ル卒業製作三点(吉田鋤牛・木下洋舟・三浦理観ノ三枚)ノ表装ヲ命ス。
p02	6	2月	二週間後出来ノ筈。七月十日出来。
p02	7	2月	一、 風俗研究第19号27・34・36ノ四冊紛失セルヲ知ル。依テ19号ハ山田芸艸堂へ、他三冊ハ内外出版会社へ注文ス。
p02	8	2月	十五日 ・ 昨日ノ市参事会ニテ本校移転案ハ大ニ諒解ヲ得タル結果、本校及商業実習ノ兩校ハ其俣トシテ
p02	9	2月	移転案ヲ撤回セシメ、改メテ日吉ノ地へハ第二工業学校新設ノ案ヲ提出スル様市長ニ交渉セリト。
p02	10	2月	併シ市長ノ同意ヲ得ルヤ否ヤ疑ハシト。
p02	11	2月	一、 類從雜要抄四卷代金貳百拾円ハ内三卷ヲ本年度費ニテ残一卷ハ来年度トスル事ニ交渉セリ。
p02	12	2月	別ニ加茂祭草子二卷アリ同宮ニ納ムト依テ之ヲ同書店ヨリ取寄セ預リ置ク。
p02	13	2月	類從雜要抄ハ四卷アリ(本巻蔵)之ト右本トヲ比較スルニ第三卷ヲ欠キ第四卷ヲ分チテ二巻トス
p02	14	2月	且ツ第一巻上半ヲ第一巻トシ下半ヲ欠ク故ニ右本ハ第一巻初・第二巻・第四巻初・末以上ノ四巻
p02	15	2月	ナリ○本校旧蔵類從雜要抄ノ奥書次ノ如シ。
p02	16	2月	第一巻 右以新院御本親長卿筆校合 委細卷未了
p02	17	2月	第二巻 右以逍遙院筆御本校合了 寛文第十二残臘廿三夜 献納逃人判
p02	18	2月	第三巻 右以廣光卿御本一校合了 寛文第十二冬廿三日 光禄大夫判
p02	19	2月	第四巻 此抄四巻以新院御本(第一親長卿 第二逍遙院内府ノ第三廣光卿 第四宣胤卿) 書写校合了第四自本所持也(先考御筆ノ所々祖父被
p02	20	2月	御筆)
p02	21	2月	全部数年雖(?)有望不得之今蒙恩許觀悅無極深蔵箱底不可再乞矣
p02	22	2月	寛文第十三孟春社日 献納教人判 被極深蔵箱底不可再乞矣
p02	23	2月	此抄(徑初巻ノ至四巻)以或人本如本書写一校了 元禄第九 初秋九 権中納言藤原基勝判
p02	24	2月	一、 山田芸艸堂ヨリ風俗研究第19号送來ル。
p02	25	2月	十六日 ・ 移転案ハ市参事会ニ於テ九人ノ反対ニヨツテ否決セルガ、市長ハ折衷説ヲ固持ス。其説ハ全敷地ヲ絵
p02	26	2月	専美工ノ兩校ニ提供シ商業実修校ノ移転ヲ見合ス事是ナリ。参事会員一部ノ主張スル
p02	27	2月	説ナリ。併シ絵専校教授ノ不賛成アル以上ハ此説ヲ捨テ移転案ヲ否決セルナリ。之ニ対シテ
p02	28	2月	市長ハ其折衷案ヲ固持シテ曰ク。教授諸氏ト熟議シ諒解ヲ得バ市会ニ提出スヘシ
p02	29	2月	然ルトキハ市参事会ノ賛成ト報告スヘシ、若シ教授諸氏ノ諒解ヲ得サレハ市参事会ハ
p02	30	2月	否決セル事ヲ市会ニ報告シテ此説ヲ撤回スル事トセン。
p02	31	2月	・ 右ニツキ高山與三吉(市参事会員)氏ハ校長ニ電話ヲ通セシニ「今入浴中ナレハ二十分後ニ再ヒ電話ヲ
p02	32	2月	掛ケラレタシ」トノ答ニ大ニ憤慨シテ荒木教授ヲ電話口ニ喚ビ大ニ其不都合ヲ告ケ校長ノ反省ヲ

p02	33	2月	促サレタシト申込メラル。高山氏ハ、急ニ教授会ヲ開キ市長ノ教授訪問ニ対シテ強硬ナル態度ヲ維持スル様
p02	34	2月	予メ相談ヲ纏メ置カルヘシト注意セラル。
p02	35	2月	・ 本日ハ第四年生ノ幾何試験(学年末)ヲ行ヘリ。
p02	36	2月	一、今夜美工会展覧会準備委員会ヲ開クニ付鑑屋へ「もなか」老門五十銭ヲ注文ス。
p02	37	2月	一、午後同志社□□□中井宗太郎教授ノ紹介ニテ図書館へ来ラル。支那画(東洋美術大観)ヲ閲覧セラル。
p02	38	2月	
p02	39	2月	一、伊藤聚英館へ会報二葉印刷ヲ催促セルナリ信次郎氏不在トテ要領ヲ得ス。
p02	40	2月	一、夜美工会委員会ヲ開ク。沢田、馬島等十数名来会、荒木、堀両教諭出席ス。十一時帰ル。
p03	1	2月	二月十八日
p03	2	2月	・ 山田芸艸堂ヨリ請求書来ル。
p03	3	2月	一、鑑屋へもなか二十五個注文。(美工会)
p03	3	2月	一、野村正次郎氏ヨリ預レル女官服購入スル事ニ決シ江馬努君此旨ヲ通ス。
p03	4	2月	一、類從雜要抄三卷代貳百円ノ見積書提出ヲ命ス。残一卷ハ四月ニ至リ六十円(合計二百六十円)ニテ購入ヲ約ス。加茂祭草子貳巻ハ九拾円ナラハ猪飼嘯谷君ハ希望セラル、併シ山本文華堂ハ百二十円乃至百四十円ヲ主張ス。
p03	5	2月	
p03	6	2月	
p03	7	2月	一、絵画科生徒教室内ニテ賭博ヲナストノ匿名書去ル十五日ニ到達ス。取調ノ結果、絵画
p03	8	2月	二年生津田周平ノ所為ナル事判明ス。同人ハ散髪屋ニテ見覚ヘ教室室内ニテ数回
p03	9	2月	金銭ヲ賭シテ遊セリ。同級生中一円乃至五円加入セルモノ十数(四)名アリ。之ヲ戒飭シ主犯
p03	10	2月	津田周平ヲ無期停学ニ処ス。
p03	11	2月	一、額縁大二小一ヲ辻字佐雄ニ、大三小ニヲ伊藤徳造ニ売渡ス。
p03	12	2月	一、今夜美工会幹事会開ク。荒木教諭出席。自分ハ欠席ス。
p03	13	2月	一、若林書店ヨリ字源一部到達。
p03	14	2月	一、三浦理観・木下哲三氏両氏ニ卒業製作買上料金ヲ渡サント告ク印形携帯セス次日トス。
p03	15	2月	一、福田翠光氏来校。図案協会陳列会(十九、二十両日図書館ニテ開会)ニ付左ノ巻物ヲ貸ス。
p03	16	2月	一、扇面写経下絵一卷、訥言六ノ玉川一卷。(廿一日返納済)
p03	17	2月	一、市勧業課平尾佐吉氏ヨリ依田緑水(画家)ノ伝ヲ照会セラル、取調フレトモ此ノ如キ画家無シ。
p03	18	2月	同 十九日
p03	19	2月	一、木下哲造氏へ金参拾円、三浦理観氏へ金参拾老円ヲ渡ス卒業製作買上料金四拾円ノ内
p03	20	2月	ヨリ表装料ヲ差引ケル金ナリ。
p03	21	2月	一、校友会電球一箇破損ニ付棄却ス。
p03	22	2月	一、木島桜谷君出勤ニ付関戸氏入門ノ事ヲ依頼ス。豊田茂久蔵氏ヨリ礼状到来。
p03	22	2月	一、前田教諭本日午後府庁へ出頭ス皇太子殿下京都市行啓ニ付奉送迎ニ関スル打合せナリ。
p03	23	2月	一、昨日ノ市参事会ニテ絵専美工両校移転問題ハ煙害震動等ノ調査未了ノ故ヲ以テ延期
p03	24	2月	ノ決議ヲナセリ。併シ市長ハ該案ヲ固持シテ市会ニ提出スヘシト。
p03	25	2月	一、東書記ヨリ新恩給令解釈一冊購入ヲ申込マル同意ス。
p03	26	2月	同 廿日
p03	27	2月	・ 荒木教授大阪ニ赴ク歴史画研究会第一回展覧会ノ用件ナリ。
p03	27	2月	一、昨日ノ府庁ニテ開カレタル校長会ニ於テ打合せタル奉送迎ハ次ノ通。
p03	28	2月	廿五日午後両校生徒鳥丸仏光寺ニテ奉迎、廿八日午前同所ニテ奉送。(両校)
p03	29	2月	廿六日午前絵専校。同日午後美工校。
p03	30	2月	一、絵画科第二学年松尾隆夫ノ写生上部ハ赤下部ハ黒色ノ強烈ナル色彩ヲ配合シ中央ハ
p03	31	2月	「社会主義」ト題セル書籍ヲ配セリ之ヲ取調フレハ同人兄ハ大阪ノ某工場勤務スル者ニシテ
p03	32	2月	此書ハ同人ノ持帰レルモノニシテ隆夫氏ハ一読ヲモセサルナリト辯疏ス。同人ノ父ハ京都書家松尾鶴洞ナリ。
p03	33	2月	一、市役所ヨリ電話、本日復興院ノ吏員視察ニ赴ク筈ト。午後「都合ニヨリ取消ス」旨電話アリ。
p03	34	2月	一、午後三時山元教授ヨリ電話アリ。今夜竹内教授来宅。学校移転地ノ件ニツキ協議スヘキニ付
p03	35	2月	午後六時荒木教授ノ来会ヲ乞フト。依テ荒木教授ニ電話ス。(上田竹泉堂ニ之ヨリ山田耕雲ニ)
p03	36	2月	廿一日
p03	37	2月	・ 昨夜山元教授邸ニ於ケル協議ノ要領次ノ如シ。一、馬淵市長ト対談ノ結果市長ノ修正案ニ同
p04	1	2月	意スル事、修正案ハ日吉ノ敷地全部ヲ絵美両校ノ敷地トスル案ナリ。一、菊池都路ノ両教
p04	2	2月	授ト交渉ハ竹内教授ヨリ協議シテ同意ヲ求ムル事、教授会ニ報告ノ資料トシテ煙害及震動ノ
p04	3	2月	実地検査ヲナサレ度キ事、等ナリ。
p04	3	2月	・ 右ニツキ午前十一時自分及川本教師ノ兩名衛生試験場ニ赴キ実験ス。其模様次ノ如シ。
p04	4	2月	白草稿用紙二枚ヲ南側ノ適當ノ地ニ又二枚ヲ北側ノ適當ノ地ニ赴キ絶ヘス「ドウサ」ヲ以テ湿ホシ
p04	5	2月	煤煙ノ落下ヲ検スル事。一枚ハ約三時間斗リ、一枚ハ一時間毎ニ取換エル事。
p04	6	2月	震動検査ハ同試験場ノ化学天秤ヲ借用シテ観測スル事。
p04	7	2月	南側正午ヨリ午後三時半迄、北側ハ午後零時三十五分ヨリ午後四時十分迄検査ス。
p04	8	2月	正午南側瓦焼窯ハ黒煙ヲ揚ケツ、アリ、零時四十分ニ止ム。暫クシテ又煙ヲ揚ク。西微風ナリ。
p04	9	2月	午後一時二十分風稍北ニ廻ハル風力少シ加ハル、午後一時五十分風力益加ハリ風位西北トナル。
p04	10	2月	煤煙ノ結果、北側ノ検査紙(全時間ノ分)ハ事務室暖炉ノ煤煙ノ為メニ数点ノ煤ヲ留ム。

p04	11	2月	同第一号、第二号、第三号紙（1時間ツ、取換）ハ煤煙ノ跡殆ントナシ。
p04	12	2月	南側ノ検査紙（全時間1分）ハ最初ノ時間中ニ煤煙ヲ留ムル事多ク、後ニハ風位西北ニ廻ハ
p04	13	2月	レルヲ以テ煙ハ鉄道線路ニ沿フテ走ル。依テ検査紙ニ煤ヲ留メス。第一号紙ハ煤煙数点
p04	14	2月	第二、第三号紙ハ殆ント煤ヲ留メス。
p04	15	2月	此日快晴（午前中ハ時々曇リ）、風亦少シ。故ニ煙害モ大ナラス。且「ドウサ」直接日光ニテ
p04	16	2月	乾キ度々ドウサヲ塗ル事ノ要セリ。噴霧器ヲ使用スル方宜シカランモ今回ハ刷毛ニテ
p04	17	2月	塗レリ。故ニ紙面ノ煤煙ハ刷毛ニ附キテ除去セラル、モノ多カリシナラン。
p04	18	2月	場所。南側ハ病室ノ外、西端ノ屋ノ上。北側ハ事務室ノ北、窓外ノ地上。（東ニ毎時
p04	19	2月	試験、西ニ全時間試験ノ紙ヲ置ク）
p04	20	2月	震動観測。午後一時三十分ヨリ同三時三十分まで化学天秤室ニアリテ天秤ノ針ノ動揺ヲ
p04	21	2月	検分セリ。当日西隣室ニハ瓦斯ヲ以テ水槽ノ水ヲ煮沸セシメツ、アリ。其瓦斯ノ音煮沸
p04	22	2月	ノ音シテ窓外ノ音側セハ風ノ音ナドハ耳ニ達セス。又鉄道線路迄ノ間ニ旧病舎二棟
p04	23	2月	アリテ汽車進行ノ音聞キ難シ。午後二時三十分瓦斯煮沸ヲ止メシムヨリ以後ハ汽車
p04	24	2月	進行ノ音ハ稍々聞ユ、併シ聞キ取り難ク却テ京都駅付近ノ音轟々タルヲ聞ク。
p04	25	2月	観測中汽笛ヲ聴取セル時間、即チ汽車ノ隧道ヲ出入スル時間次ノ如シ。
p04	26	2月	一時四十六分 一時五十二分 二時〇四分 二時〇七分 二時十六分 二時四十六分
p04	27	2月	二時五十六分 三時〇三分 三時十分 三時廿九分 三時四十二分
p04	28	2月	以上ノ間ニ天秤ノ針ハ少シモ振動スル事無シ。（三時五十分荒木教授電話アリ以上ノ結果ヲ報告）
p04	29	2月	試験室内ノ技師ノ話ス、特急汽車ノ時ハ窓硝子ノ顫動スルヲ認ム、又、天秤秤量中
p04	30	2月	汽車震動ノ影響ヲ感シ天秤ノ針左右ニ振レ秤量ヲ不可能ナラシムル事間々アリト。
p04	31	2月	右ノ観測ハ地盤ノ震動セサルヲ確認スルモノナリ。（併シ建物ノ震動ハアラン）是レ一ハ
p04	32	2月	線路ハ敷地表面ヨリ三十尺斗リノ底ニアルヲ以テ地盤ニ振動ヲ伝フル事少キニヨルナランカ。
p04	33	2月	一、試験場中西書記ノ周旋大ニ感謝スヘシ。小使某又慇懃。予ハ天秤室ニアルヤ中西書記ハ使丁
p04	34	2月	ニ命シテ火鉢、茶等ヲ運バシメ又菓子ヲモ寄セラル。使丁某（丸顔ニシテ肥ヘタル男）紫檀
p04	35	2月	盆ニ支那摸ノ急須茶碗ヲ載セテ運ヒ来ル。茶ヲ喫スレハ豈凶ラン自分宅使用ノ「無双」ニ劣ラス、
p04	36	2月	依テ訝リテ之ヲ問ヘハ、答テ曰ク、私ハ茶ヲ喫ム道楽アリト。「仕丁ノ風流愛スヘシ」トハ亦是ヲモ謂フヘキ
p05	1	2月	カ。金志門ヲ与フ。多謝容易ニ受ケサリシモ強テ之ヲ取メシム。
p05	2	2月	一、絵画科二年津田周平・武田博・山田彦次郎・深井豪司等戸島光雄方ヲ往訪スル事度々アリ
p05	3	2月	テ其妹菊枝ヲ知ル。津田ハ此頃艶書ヲ同女ニ送り武田等五人ノ恋慕ヲモ書
p05	4	2月	キ送レリト。戸島氏ノ母荒木教授宅ヲ訪フテ密告セリト。
p05	5	2月	一、福田翠光氏来校。扇面写経下絵一卷六ノ玉川一卷以上返済ニ付、給仕ヨリ仮請取証ヲ渡セリト。
p05	6	2月	二月廿二日・類從雜要抄三卷代貳百円ノ見積書（文華堂ヨリ提出）ヲ東書記ニ渡ス。
p05	7	2月	・山田芸草堂ヨリ支那名画選ノ請求書到来。風俗研究19号代金五拾銭校友
p05	8	2月	会ヨリ支出シテ渡ス。
p05	9	2月	一、午前十一時半頃宅ヨリ電話アリ。二郎帰宅セリト。村上文芽君ニ電話ス。昨日午后同君ヨリ電話
p05	10	2月	アリシトノ事ニテ其用件ヲ聞ケルナリ。昨日五雲君へ岸駒堂寄附画催促ヲナセル事ヲ告ク。
p05	11	2月	午前九時神坂教諭ニ電話。豊岡子爵依頼ノ献上品ノ出来期ヲ問フ。曰ク茶托ハ昨日出来、
p05	12	2月	早速箱ノ調製ヲ命スヘシ。廿四日ニハ納入スルヲ得ント。
p05	13	2月	一、市立工業学校教諭川那部澄氏図書閲覧ニ来室。
p05	14	2月	一、本日モ亦衛生試験場ニテ煤煙検査ヲナス筈ナリシモ十時頃ヨリ雨トナリ中止スル。
p05	15	2月	同廿三日・午前九時二宮一鳩氏ト同道。園丁ヲ召連レ衛生試験所ニ赴キ煤煙ノ実験ヲナス。
p05	16	2月	振動観測 午前十時三十七分上リ汽車特急三等及同十時二十一分特急二三等
p05	17	2月	列車ノ進行ハ天秤ノ指針ニ何等ノ振動ヲ与ヘス。
p05	18	2月	煤煙観測 本日ハ曇又晴。折々飛雪ニ三片舞ヒ霰又飛ブ。午後三時五十分霰
p05	19	2月	降ル事劇シ。風位丑寅ナリ。時々強烈ナル北風襲来ス。
p05	20	2月	南側実験位置前日ト同シ、但シ二三間東ノ方ヘ移ス。前日ノ位置ハ
p05	21	2月	建物ノ西端ナルヲ以テ風速強ク、煤煙ハ下降セスシテ北ニ飛フ虞アルヲ以
p05	22	2月	テナリ。南側ノ煙突終日黒煙ヲ吐キ其稍西ニ旧式窯（多分鋳物
p05	23	2月	ノ窯ナラント）又黒煙ヲ揚ク。此位置ニ於ケル丑寅ノ風并北風ハ北側ノ
p05	24	2月	日吉山ニ遮ラレ西折シテ西風トナル傾アリ。故ニ本日ノ風位ニテハ烟突
p05	25	2月	并窯ノ煤烟ハ凡テ建物ニ並行ノ方向ヲ取り試験場ノ区域ヘ飛来
p05	26	2月	セス。北側ノ実験位置ハ門側北ノ建物ノ東坂路ノ北ヲ撰ヘリ。之レハ
p05	27	2月	試験所事務室暖炉ノ煤煙ヲ疑フ且ツ北風ノ影響ノ明ナル所ヲ撰
p05	28	2月	ヒシナリ。此ノ日時々北ノ強風アリシモ概シテ西西北風ニシテ此位置ニハ煤煙
p05	29	2月	ノ飛来スルモノ殆ント無シ。然シテ其付近ノ杉楠ノ葉上ニ留レル煤煙

p05	30	2月		或ハ煤煙ノ為メニ黒クナレル塵埃ハ少ナカラス落下シ来ル。
p05	31	2月		南側試験ハ、午前十時三十五分ヨリ午後四時五分迄ノ実験一枚、
p05	32	2月		及每一時間ノモノ一号ヨリ五号迄五枚。
p05	33	2月		北側試験ハ、午前十時二十分開始午後四時迄ノ実験一枚、及ヒ
p05	34	2月		每一時毎ノモノ一号ヨリ五号迄五枚。
p05	35	2月		午後二時荒木教授来場。衛生試験所々員ニ前日来ノ礼ヲ述ヘラル。所長
p05	36	2月		病氣欠勤中ナリ。大仏餅ヲ買ヒ所員及予等一行ヲ慰メラル。
p05	37	2月		午後五時頃迄囲碁アリ。之ヨリ東山一休庵ニテ晚餐ヲ喫シテ帰ル。
p06	1	2月	二月廿五日	・ 午前八時半、神坂教諭豊岡子爵へ電話ス。依頼品昨夜出来、神坂氏宅ニアリ。依テ自分
p06	2	2月		神坂教諭宅ニ赴キ之ヲ受取り、帰路華族会館ニ持参ス。十時半帰校。
p06	3	2月		・ 十一時教授会アリ。学校移転問題ニ付、市長ノ第二案（全敷地ヲ本校ニ提供トスルモノ）ニツキ
p06	4	2月		協議シ、前二回ノ煤煙実検ノ報告ヲナス。菊池教授ハ同地所ハ直覺ニ陰鬱ナル気分
p06	5	2月		ノ位置ニシテ芸術ニ親ムノ地ニアラス、又煤煙ノ微粒子ハ必スヤ空气中ニ散満スル事多量ナ
p06	6	2月		ラン、故ニ学生ヲシテ毎日長時間此悪空气中ニアラシムル事ハ大ニ考フヘキ事ナリトノ反対
p06	7	2月		論アリ。都路教諭モ同感、併シ前回ノ時ニモ「若シ全敷地ヲ本校ヘ与ヘラル、モノナラハ猶一考
p06	8	2月		スルノ余地アルヘシト考ヘタリ」。然ルニ今日ハ其提案ニテノ御相談ナレハ、市長ノ誠意ヲ諒トシ
p06	9	2月		竹内教授ノ説「不完全ナル現校舍ヨリモ完全ナル設備ノ校舍ヲ切望ス。然ルニ今回
p06	10	2月		市長提案ヲ拒否スレハ当分校舍ノ完全ヲ望ムヘカラス。故ニ建築上ニ於テ精々煤煙ノ害ヲ
p06	11	2月		防キ、室内暖炉モ蒸気暖房ニトノ要求等ヲ条件トシテ第二案ニ同意セン」ニ同意スヘ
p06	12	2月		シト。其他木島教授モ枉ケテ同意セラル。
p06	13	2月		依テ、明日職員会ヲ開キテ決定ノ上市長ニ返答スル事トシ散会。（午後一時）
p06	14	2月		・ 本日、皇太子殿下并同妃殿下御入洛ニ付両校生徒ハ烏丸仏光寺ニテ奉迎セリ。
p06	15	2月		御着車午後二時二十分。
p06	16	2月	同 廿六日	・ 青木桂之助氏へ文嘉筆山水一幅ヲ貸ス。手本製作ノ為ナリ。
p06	17	2月		・ 安田光雲氏午前来校。午後0時半ヨリ職員会ヲ開キ前日ノ案ヲ議決ス。
p06	18	2月		・ 午前九時。両殿下敵傍神武御陵へ行啓ニ付、絵専校生徒ハ烏丸通ニ奉送。
p06	19	2月		午後三時五十分両殿下御着車御還啓ニ付、美工生徒烏丸竹屋町ニテ奉迎ス。
p06	20	2月		本日ハ公式函簿ナリ。
p06	21	2月		・ 豊岡子爵ヨリ電話アリ「依頼品昨日拝見大満悦。午後仏光寺裏方様華族会館
p06	22	2月		御来車御渡シ申セリ。是又大ニ御満悦。目録ノ書方「美工校案赤磁牡丹唐草
p06	23	2月		茶碗清水六兵衛純銀茶托古市卯之助」トスル事。代金ハ一両日中ニ又其受取書
p06	24	2月		清水六兵衛ヨリ差出ス事ニ承諾ヲ得タリ。
p06	25	2月		・ 伊藤信次郎へ電話ニテ二葉校正ヲ催促ス。日ク、二三日ノ時ニ第一回ヲ持参以下二三回トスル事、
p06	26	2月		出来ハ三月八日頃ト。美二月号校正到来ス。
p06	27	2月	同 廿七日	・ 清水六兵衛氏ヨリ豊岡子爵依頼ノ茶器代金請求書及領収証到来。
p06	28	2月		一、 福島県立工業学校教諭常木新蔵氏来校。（新蔵）
p06	29	2月		一、 仏光寺家々從石田千代之輔氏来校。金百円及菓子料ヲ受取ル。金百円ハ小使ニ
p06	30	2月		六兵衛氏宅へ為持、金壺封菓子料ハ神坂教諭宅へ為持遣ハス。
p06	31	2月		一、 福田政之助氏ヨリ 皇太子殿下御外遊紀一冊 皇太子殿下御成婚記念トシテ寄贈。
p06	32	2月		一、 職員録到達、請求書進達。
p06	33	2月		一、 吉田彦四郎氏ニ卒業製作買上料金参拾円五拾銭渡ス。
p07	1	2月	同廿八日	・ 午前七時烏丸通仏光寺ニ於テ両殿下御歸東ヲ奉送ス。（前田・西海・江馬・河上ノ四氏）
p07	2	2月		一、 福田政之助氏へ寄贈書ノ礼状ヲ出ス。一、神戸市花隈町高橋忠次郎へ返事ヲ出ス。（雑誌ニ付照会）
p07	3	2月		一、 美工会展覧会ニ付、出品勧誘状作製。一、美雑誌校正ヲ渡ス。
p07	4	2月		一、 都路華香氏ノ岸駒堂寄付画出来、白石小使ニ取来ラシメ、之ヲ村上文芽氏宅へ送ラシム。
p07	5	2月		函ハ尺三絹本墨画雨中山水ナリ。
p07	6	2月	同廿九日	・ 山田江秀氏ヨリ電話アリ。新家久氏ノ嚴父死亡セラル、依テ只今ヨリ赴キ弔セントスト、依テ美工会ヨリ弔詞ヲ供
p07	7	2月		フル事ヲ托セリ。一、美工会展覧会ノ件全会員へ通知書ヲ発ス。（葉書一五二、書状二五通）
p07	8	2月		一、 卒業清水浅次郎（入営中）一日ノ休暇ヲ得タリトテ来校ス。卒業記念写真ヲ渡ス、代金受取ラズ。他日必
				要ノ時受取ルヘク話セリ。
p07	9	2月		一、 本日ニテ本科第二、第三学年学科試験終了。一、文展第一回以来ノ京都出品数ヲ取調ブ。
p07	10	2月		一、 藤代校長勲二等ニ陞叙セラル。慶賀々々。一、新家久氏へ手紙ヲ出ス。
p07	11	2月		一、 類從雜要抄三卷購入許可ニ付、山本文華堂へ電話ニテ通知ス。
p07	12	3月	三月一日	・ 伊藤聚英館ヨリ二葉（一六頁迄）校正持参。直ニ校正シ原稿ト共ニ返附ス。
p07	13	3月		一、 卒業生安田梅兆氏図書室へ閲覧ニ来ル。一、鈴鹿書記ヨリ校友会収入予算書受取。

p07 14 3月		一、丸善へ「サゼッション」一冊ノ見積書及請求書提出ヲ電話ス。
p07 15 3月		一、田村翁郷氏ヨリ葉書到来。一、川本参江氏ヨリ春日現記模写手本一枚受取。
p07 16 3月	三月三日	・昨日二葉校正第二回分ヲ送り来ル内原稿不足ノ分アリテ一部分校正スルヲ得ス。校正済ノ上渡ス。
p07 17 3月		一、卒業生中津川涼風氏来室。美工会員松本久、牧房四郎ノ郵便物返戻シ来ル。
p07 18 3月		一、井上敏雄氏ノ父来校面会ス。岡山聖虚氏ヨリ返信到達ス。川本氏ニ伝フ。
p07 19 3月		一、来ル六日校友会委員会ヲ開キ予算案ヲ議スル事ヲ水野千代三氏ニ通告ス。
p07 20 3月		一、樋原潤郎氏ニ電話ス。岩本政造氏代リテ出ラル。松本久氏ノ住所ヲ尋ス。牧義雄氏ト同町ナリ
p07 21 3月		ト。依テ牧氏ニ依頼シテ「松本久氏二十五日集会ノ件」ヲ伝言セシム。
p07 22 3月		一、岡山聖虚氏舞鶴へ転任希望セス。(月給ノ点ニ取テ) 依テ荒木教諭ヨリ佐藤好道氏ヲ推
p07 23 3月		挙ス。其交渉ニハ川本氏ヲ止メテ八木教諭トセリ。同教諭ハ鴨志田校長ヨリ依頼ヲ
p07 24 3月		受ケラレタルニヨル。一、数学会雑誌第五巻第六号到来。
p07 25 3月	同 四日	・詔勅集昨日到達、本日生徒ニ配布ハ。(代金ハ校友会ニテ支払フ)
p07 26 3月		一、朝鮮総督府ヨリ「併合の由来と朝鮮の現状」一冊寄贈。
p07 27 3月		一、十六師団長ヨリ本月十日日露戦捷記念日ニ爆破并空中戦ノ模擬演習
p07 28 3月		ヲ挙行スヘキニヨリ成ルヘク学生生徒ノ来観ヲ希望スト通知アリ。
p07 29 3月		一、岡山聖虚氏へ返事ヲ出ス。一、嵐野孝太郎氏来室。安田千代太郎氏来室。
p07 30 3月		一、野村正二郎ヨリ預レル官女ノ衣(箱共)返ス 一、小杉翠坡外二名来室。
p07 31 3月		一、来年度校友会役員 文芸部(大島竹松) 技芸部(毛利二郎) 運動部(戸田真次郎) (太田敏雄) (毛利二郎) (東谷秀次)
p07 32 3月		ニ当選ス。
p07 33 3月		一、毛織物並絨毯図案一冊購入稟議ス。一、佐野一星氏ヨリ唐画叭々鳥、若冲貝ノ図模写手本
p07 34 3月		各一枚受取。
p07 35 3月		一、中外出版社より法然上人行状絵伝(写真版) 壺函到達ス。
p07 36 3月		一、十六師団ノ通知ニ対シ全校生徒見学ノ旨回答ヲ発セリ。
p08 1 3月	三月五日	・中外出版株式会社代表者小谷徳水ヨリ国宝法然上人行状絵図第輯請求書到達ニ付
p08 2 3月		進達ス。一、山本文華堂へ請求書ノ書改ヲ命ス。一、美三月号原稿ヲ渡ス。
p08 3 3月		一、安田千代太郎来室。一、明日ノ校友会役員会ニ付かきヤニ菓子(一箱一円)十一箱注文。
p08 4 3月	同六日	・午後一時校友会役員会ヲ開キ明年度経費予算案ヲ議シ、後展覽会ニツキ協議ス。
p08 5 3月		一、道具屋竹島氏より時代這子ヲ持参ス。預リ置ク、代価貳拾円。
p08 6 3月		一、絵専校ニ於テ昨年四月京都中学出身者二名ノ本科生トシテ予科入学ヲ許可セルハ違法ナルヲ発
p08 7 3月		見セリ。一、午后富田幸次郎氏夫妻来校、ボストン博物館出版書二冊寄贈セラル。
p08 8 3月		ポर्टフォリオ、オブ、インディアンアート一冊。アメリカンピクチャーアース、エンド、ゼーア、ペインターズ一冊。
p08 9 3月		一、午後二時竹岡君ヨリ電話ニ付、小使ヲ長谷川履屋へ遣ス。
p08 10 3月	七日	・二葉校正第三回分到来。直ニ取調ノ上小使ニ為持遣ハス。
p08 11 3月	同七日	一、京都中学出身者二名ニツキ取調へ協議ス其概要左ノ如シ。
p08 12 3月		徴兵令十三条ハ改正セラレ官立学校、中学校トアリテ公私立ノ区别、文部省
p08 13 3月		認定ノ文字等ナシ。故ニ文部省ノ認定ヲ受ケサル中学校ト雖モ徴兵令第十三
p08 14 3月		条ノ取扱ヲ受クル事ト考フ。
p08 15 3月		一、絵専校規則ヲ改正シ「入学資格ハ一、中学校卒業生、四、実業学校卒業生」
p08 16 3月		トスル事ヲ教授会ニ付議スル事。
p08 17 3月		一、菊池契月ヨリ松本氏へ寄贈ノ短冊「牡丹」受取ル之ニテ預リ分総計ハ
p08 18 3月		松本君ノ分菊池・山元・都路・竹内・合田・徳田・木島・柴田・入江、ズ九
p08 19 3月		高島君ヘノ分合田・柴田・入江、ズ三
p08 20 3月		一、平泉、会津地方出張許可アリ。
p08 21 3月	同 八日	・午前九時半松本亦太郎博士来校セラル。渡欧ノ途神戸ヨリ上陸入洛セラル、ナリ。
p08 22 3月		一、卒業生小早川好古氏来室。一、東北地方出張旅費ヲ受取ル。
p08 23 3月		一、東書記明日夜行ニテ東上ノ筈。一、竹島信吉ヨリ這子ノ見積書提出ニ付鈴鹿書記へ渡ス。
p08 24 3月		一、松本亦太郎博士夫人へ蓆送付ヲ通知ス。一、金子篤壽氏へ参観ヲ申入ル。
p08 25 3月	同 十日	・陸軍記念日第十六師団ノ催ニ係ル各兵科ノ練習ヲ見学スヘク、午前八時半
p08 26 3月		神社前に参集シテ深草練兵場ニ至ル。
p08 27 3月	自十一日到十九日	・東北地方へ旅行。三月十九日、葛西千秋氏来校。明人無款聖像一幅、孫文完公梅卷一卷
p08 28 3月		ズ二点ヲ渡ス。(大正九年七月三橋潜氏ヨリ預リタル分)
p08 29 3月	十五日	・夜美工会ヲ開ク。
p08 30 3月	一同廿日	・荒木教諭ヨリ去十二日ノ教授会ノ模様ヲ内談セラル。一、仙台土産ヲ頒ツ。
p08 31 3月		一、心城院来訪。一、越森氏来訪。一、松本亦太郎博士夫人ヨリ礼状到来。

p08 32 3月	二同廿一日	・	春季皇霊祭日ナルモ荒木、平野、前田、等諸氏出校、正午退出セラル。
p08 33 3月		一、	大工竹原ヲ喚ヒ展覽會設備ヲ命ス。大工手伝約廿五人ヲ要スヘシト。
p08 34 3月		一、	貸物屋林屋を呼び卒業式午後ノ余興場裝飾トシテ水引幕、黒バック、
p08 35 3月			朱子緞帳、上敷ヲ注文ス。損料金拾五円。
p08 36 3月		・	東谷生の件ニ付八木教諭来校。
p08 37 3月		一、	東周橋氏昨日死去（胃癌）ノ通知アリ。明日葬儀ニ付弔詞ヲ三宅
p08 38 3月			義一氏ニ依托ス。
p09 1 3月	三月廿二日	・	昨夜聚英堂ヨリ「二葉」千弍百五十部ヲ納入ス。
p09 2 3月		一、	田中平安堂ヨリ「西洋ノ影響ヲ受ケタル日本画」一冊持参。
p09 3 3月		一、	丸善ヨリ「ゼー、ウォーターカラー、ドロウイングス、オプ、ジョンゼル、コットマン」一冊持参。
p09 4 3月		一、	午前十時ヨリ美工職員會、午後一時ヨリ絵専職員會ヲ開キ学年末成績
p09 5 3月			ニツキ審議ス。後教授會ヲ開ク。開會劈頭校長ハ「先回ノ教授會ニ於ケル規則ハ穩カナラ
p09 6 3月			サル箇条アレハ同意スル能ハス、依テ再考アリタシ、尚其再考中ハ別室ニ控ヘテ其結果ヲ
p09 7 3月			俟ツ」ト宣言セラル、。扱其再考協議ハ議論多クナリシ由、併シ大体ニ於テ該規則ノ
p09 8 3月			撤回ヲ拒絶スルモノト見ラル。
p09 9 3月	同 廿三日	・	展覽會準備ノ為昨日ヨリ大工手伝ヲ備入ル。
p09 10 3月		一、	社会教育課ヨリ海老茶幕大中三中巾物三百間、萌黄裂五十間ヲ借入ル。
p09 11 3月		一、	記念写真撮影ノ事ヲ河上氏ニ依頼ス。
p09 12 3月		一、	成績考査保留ノモノ三名東谷秀次（用器画答案白紙且ツ第三学期中一枚モ
p09 13 3月			製作セス）小倉、福富（実習未了）ヲ訓戒ス。
p09 14 3月		一、	午後一時兩校学年成績ヲ発表ス。
p09 15 3月		一、	東書記ヨリ展覽會ニ用ユル仮張一切釘ヲ打ツヘカラス。折釘ニテ押ユル事
p09 16 3月			并ニ其貸渡ノ責任ヲ重スル職員ニ貸渡スヘシト申シ入ラル。
p09 17 3月		一、	美工校生徒成績表ヲ郵便ニ付ス。
p09 18 3月		一、	鎗屋へ卒業生送別會ノ菓子ヲ注文ス。卒業生七十八人（一人五錢）在校生四百人分（一人十錢）。
p09 19 3月	同 廿四日	・	卒業式及展覽會ノ準備ニ候ハン。
p09 20 3月		一、	午前図書室ニヨリテ展覽會場設備事務ヲ執ル。
p09 21 3月		一、	優待室ニハ楊鯤拳筆紫檀双喜・葉元徳筆春雨訪友・為恭筆延年舞図・
p09 22 3月			模本廐図・版画セサス等山水及人物図・アンゼリコ筆お告図ノ天使
p09 23 3月			ヲ掲ケ廣江霞舟筆屏風赤い実一双ヲ以テ裝飾ス。
p09 24 3月		一、	茶菓室ニハ大村廣陽筆水牛・山田星村筆涙雨・間島正夫筆キンバラノ屏風
p09 25 3月			ヲ飾ル。
p09 26 3月		一、	講堂ニハいろは餅ヨリ「コーヒ」「しる粉」店ヲ出ス事ニス。
p09 27 3月		一、	夜九時半一同帰宅ス。記念品ハ栖鳳・春拳・華香・五雲・翠嶂・契月ノ六氏
p09 28 3月			ノ下絵盆ヲ用意シ（其數百枚）玄関ニテ案内状ト引換ニ渡ス事トセリ。
p09 29 3月		一、	来賓用菓子ハ五百個ノ饅頭（一個二錢五厘）ヲ命ス。
p09 30 3月		一、	大工夜業一人手伝二人是等うどんヲ与ヘント伝ヘシニ、うとんにテハ空腹ヲ
p09 31 3月			充タスニ足ラスト申出テ、之ニヨリうどんヲ与ヘサル事トシ九時ニ退出セリ。
p09 32 3月	廿五日	一、	午前十時半式ヲ挙ク市長代理糟谷氏臨場来賓四十五名斗リ。保証人
p09 33 3月			約 名。職員ハ校長・栖鳳・春拳・華香・雪佳等多數出席。十一時半写真
p09 34 3月			ヲ撮ル。代価増焼一枚金壹円写真師ハ
p09 35 3月		一、	午後教授會アリ校長列席セス。午後校長出校。教授會規約ノ撤回ヲ要求
p10 1 3月			シ若シ応セサレハ職權ヲ以テ破毀スヘシト申入ラル。之ニ對シテ教授會ハ評議ノ上
p10 2 3月			拒絶ト決シ、此旨書面ヲ以テ校長ヘ通知セリ。
p10 3 3月		一、	午後卒業生送別會アリ。余興演劇數番夕六時半終ル。生徒ヘ与ヘシ
p10 4 3月			菓子一袋代金拾錢ナリ、甚タ不廉ナリ。注文數四百ハ多分ニ剩余ヲ生セリ。
p10 5 3月			之レ美工校生徒ノ出席意外ニ少ナク、絵専校生徒意外ニ多キヲ認ム。
p10 6 3月			三浦恒介氏モ来觀セラル。一、卒業生ニ記念写真代価金壹円ト通知ス。
p10 7 3月	廿六日	・	午前九時ヨリ開會。十時頃檢定委員廣瀬東猷来校午後二時退出。
p10 8 3月		一、	北垣男爵午后来觀。優待券百枚贈呈。本日ハ曇天又雨。
p10 9 3月		一、	來觀人 四千五百六十七人。三日間來觀人合計一万六千二百七十八人
p10 10 3月	廿七日	・	晴 一、來觀人五千四百九十二人。廿八日来觀人六千二百十九人。
p10 11 3月	廿八日	・	雪降ル西風強ク吹雪烈シ午後三時頃ヨリ晴ル、一、校長来校荒木教諭ヨリ懇談セラル。
p10 12 3月		一、	午後三時府知事來觀セラル。一、六時陳列品ヲ生徒ニ交付シ各自持歸ラシム。卒業製
p10 13 3月			作ノミハ明日撮影ノ上持歸ルヘク注意ス。一、東洋花壇主人本年卒業製作一点讓受度ク申入ラス。

p10	14	3月	一、	栗本一郎作顔・西山弥次郎作風景ノ二点紛失ス。
p10	15	3月		絵専卒業生ハ江馬務河上書記ノ引率ノ下、御所及二条離宮ヲ拝観ス。
p10	16	3月	一、	卒業製作ヲ撮影ス。美工校卒業生ニハ随時持帰ラシム。
p10	17	3月	一、	学校買上ノ製作田中正夫・林司馬(梟一枚ノミ)・中川正次・大西仁三郎・
p10	18	3月		荒木和一・西村泰一・南辰次ノ各製作ハ承諾ニ付受取置ク。
p10	19	3月		水田氏製ハ大阪美術展ニ出品ノ希望ニテ出陳後ニ於テ学校ヘ納ムル事ヲ申出ラル。
p10	20	3月		中岡氏ハ製作思ハシカラス甚タ緒顔ノ至リナリト辞セラル。
p10	21	3月	一、	香川龍三作「家」ハ預リ置キ、鈴鹿書記ニ渡ス。買受人アルナリ。報酬トシテ
p10	22	3月		金貳拾円作者ニ贈ラレ度旨申入置ケリ。
p10	23	3月	一、	卒業製作撮影中矢田部敬三氏ノ作紙本「山水」ヲ破損ス。午后同人来校ニ付釈明シ
p10	24	3月		テ諒承ヲ得タリ。作品ハ上田竹泉堂ニ命シテ修理セシム。四月十日出来。
p10	25	3月	一、	沢田実ノ作「御苑内」ハ未成(膠不十分ニ付)ニ付持帰り出来ノ上校納スヘシト
p10	26	3月		テ、仮張ノ俣持帰ル事ヲ許セリ。
p10	27	3月	三十日	・
p10	28	3月	一、	日曜日ニ付一同休業ス。
p10	29	3月	三十一日	・
p10	30	3月	一、	卒業製作、沢田実・三輪信郎・清水敬義・上村信太郎氏ノ分受取ル。
p10	31	3月	一、	美雑誌、原稿調左ノ通。
p10	32	3月		中井氏三十九枚、千熊、江馬各二十八枚、木鳥氏十三枚。
p10	33	3月	一、	卒業製作ノ校納ヲ求ムルヘク湯浅源三・高井誠二氏ヘ端書ヲ出ス。
p10	34	3月	一、	午後五時ヨリ東洋花壇ニテ慰勞晚餐会ヲ開ク。出席者荒木・八木・前田・
p10	35	3月		平野・鈴鹿・東・河上・堀ノ八人ナリ。九時退散。
p11	1	4月	四月一日	・
p11	2	4月	二日	・
p11	3	4月	三日	・
p11	4	4月	一、	島津製作所ヘ顕微鏡目録ヲ請求ス。一、湯浅源三氏ヨリ卒業製作買上承諾ノ返事到来。
p11	5	4月	一、	千熊、江馬両氏ヘ金貳拾五円、中井氏ヘ金參拾円、鈴鹿氏ヘ金拾円、贈呈
p11	6	4月		ノ件、荒木副会長(校友会)ヘ申告ス。木鳥氏ヘハ物品贈呈ノ予定。
p11	7	4月	一、	松本亦太郎博士ヘ贈呈ノ萇篋代金拾円ハ平館氏ヘ支払済。(廿八日)
p11	8	4月	四日	・
p11	9	4月		専門学校予科并美工校本科一年ノ入学試験ヲ開始ス。本日ハ口頭試問及
p11	10	4月	五日	・
p11	11	4月	六日	・
p11	12	4月		午前専門学校予科入学合格者ヲ発表ス本科生一二名、予科生二〇名。
p11	13	4月		美工校本科二年四名(出願者四名)本科一年七〇名内絵画科三五名図案科二八彫六名漆一名。
p11	14	4月		美工校入学試験調次ノ如シ。
p11	15	4月		出願者一三〇 受験者一〇八名 合格者 不合格三四内色盲一名
p11	16	4月		一年一二六 一〇四 七〇 三四
p11	17	4月	同日	一、
p11	18	4月	一、	午後二時美術倶楽部ニ赴キ井口照文氏ノ展観ヲ見ル。
p11	19	4月	七日	・
p11	20	4月		夜、市公会堂ニ赴キ美工会展覧会ノ準備ヲ見ル。
p11	21	4月		絵専本科第一学年生入学試験審査ヲ執行ス。試験委員菊池、木鳥、
p11	22	4月		西村五雲ノ三氏ニシテ其結果次ノ如シ
p11	23	4月		出願者 受験者 合格者 予科二年編入者 不合格者
p11	24	4月		本科一、 四七 内無試験20 二四 内一名中止 一二 九 二
p11	25	4月		別科一、 二三 内欠三 二〇 七 一三
p11	26	4月		≒44 ≒19 ≒15
p11	27	4月		但シ内一名ハ本科ニモ出願合格セリ
p11	28	4月		故ニ実数ハ六名入学トナル
p11	29	4月		予科一、 四三 内欠一三 三〇 一二 一八
p11	30	4月		別科一、 八七 内欠一九 六八 二〇 四八
p11	31	4月		≒98 ≒32 ≒66
p11	32	4月	一、	美工会展覧会ヲ岡崎公園公会堂東館ニテ開催ス。(自午前九時ノ至午後四時) 夜樹之枝席ニテ
p11	33	4月	同八日	・
p11	34	4月	一、	午前八時半始業式ヲ挙ケ、同十時半入学式ヲ挙行ス。
p11	35	4月		特待生十四名ニ辞令書ヲ交付セラル。一、授業料左ノ通り通知アリ。

p11	34	4月		絵専 市内 四十五円 市外五十七円 別科生 市内三十五円、市外四十五円
p11	35	4月		美工 市内 市外
p12	1	4月	同 八日	・ 会報二葉ヲ発送ス。市外二五六通 市内二四巻通 外ニ托送七四通。
p12	2	4月		一、 芸艸堂ヨリ青写真（卒業製作）七十四枚持参。
p12	3	4月		一、 北京美術学校学生三名（内二名女子）ハ張正成氏引率ノ下ニ日華学会高橋君平
p12	4	4月		氏案内ニテ来校、生徒製作品并参考書ヲ一覽セラル。（自午后三時約一時間半）
p12	5	4月		一、 安原表具師へ美工卒業製作ノ仕立ヲ命ズ。即、南（二曲屏風）、猪田（同上）、
p12	6	4月		中川（四曲屏風）、大西・林・沢田（以上軸物仕立）、荒木・西村（以上軸物仕立）、
p12	7	4月		田中（巻物仕立）其仕立費合計九拾八円五十銭、以上ノ品ヲ渡ス。九月廿日受取。
p12	8	4月		水田ノ製作ハ当分仕立テズ。（水田氏ハ大阪美術展覧会ニ出品ノ希望アルニヨル） 其仕立
p12	9	4月		賃見積金拾参円（軸物仕立）。
p12	10	4月		一、 入学式後藤代校長ヨリ荒木教授ニ論旨退職ヲ申渡サル。且ツ附言シテ明日正午
p12	11	4月		ヲ限ルト。
p12	12	4月	同 九日	・ 校長ヨリノ電話ニ「昨日荒木教授ニ申渡セル書類ハ正午迄ニ提出アル様并ニ時間勵行ノ旨を荒木教
p12	13	4月		授へ注意アリタシト、依テ同君宅ニ赴キ此旨ヲ通ス。嗚呼三十年來ノ交誼今日此ノ
p12	14	4月		電話ヲ伝達スル胸中ノ苦慮実ニ断腸ノ思アリ。昨夜來是カ対策ニ焦慮ス。
p12	15	4月		偏ニ双方ノ面目ヲ保全スルノ結果ヲ祈ル。
p12	16	4月		・ 午後一時藤代校長出校セラル。自分ノ不在、荒木教授宅ニアルヲ聞カレ直ニ來ラル。
p12	17	4月		昨日申渡セル書類ヲ受取ルヘキヤ否ヤト。荒木教授答ヘテ曰ク「先刻堀教
p12	18	4月		諭ニ手交セリト。校長之ヲ受取り、直ニ市長ヲ往訪セラル。
p12	19	4月		・ 午後三時頃校長ヨリ電話アリ。荒木教授ノ受持時間数等ニツキ尋ネ度ニ付來邸
p12	20	4月		アリタシト。直ニ往訪ス。校長ノ話ニ荒木教諭ノ退職許可ノ日迄同氏ノ出勤ヲ希望
p12	21	4月		セシモ市学務課ノ意見ニテハ、病氣退職ノモノ出勤スルトセハ或ハ物議ヲ惹カントノ
p12	22	4月		事、依テ同氏ノ出勤ヲ遠慮セラル事トセリ、就テハ当分教務主任トシテ執務セラレ
p12	23	4月		タシト。依テ答フ、予不肖敢テ當ラス、然レトモ当分ノヲ受ケント。
p12	24	4月		校長又曰ク、荒木教授退職ノ上ハ精々出來得ル限り優遇ノ方法ヲ講スヘシト。
p12	25	4月		右荒木教授ニ伝達アリタシトノ事ニ付、退校ノ途次同教授宅ニ立寄り之ヲ伝言シ且ツ
p12	26	4月		診断書正ニ受領セリ。尚退職ノ件ニツキ同医師ニ他言ナキ様注意ヲ請ハレタシトノ旨ヲモ
p12	27	4月		伝ヘリ。
p12	28	4月	十日	・ 美術工芸新聞京都支社主任徳田東光氏來校。
p12	29	4月		一、 美工会ノ支払い19円公会堂使用料、3円供花、16.4円枠三十枚代支払ス。
p12	30	4月		一、 下阪英夫氏ヨリ小学専科教員免許状下付願ノ件照会。
p12	31	4月		一、 矢田部敬三氏ノ卒業製作破損修補出來受取。
p12	32	4月		一、 湯浅源三氏ニ卒業製作ノ額縁并枠ヲ渡ス。
p12	33	4月		一、 荒木教諭モ訪問シ退職願并診断書ノ書式訂正ヲ求ム。
p12	34	4月		一、 午後教授会アリ。西山教授ノ外全員出席。（校長ハ出席セス）教授会総辞職ヲ議セシガ
p12	35	4月		纏マラサリシト。
p13	1	4月	十日	一、 丸善書店ヨリ支那陶磁図二帙（五〇〇円、一五〇円）持参ニ付預置ク。
p13	2	4月		一、 法然上人絵伝第三輯到來ス。
p13	3	4月	十一日	・ 風俗研究46・47寄贈セラル。
p13	4	4月		一、 本館階上南側東第一室入口ノ所ニ痰ヲ吐ケルモノアリ。四学年生ニ取調ヲ命セリ。
p13	5	4月		一、 漆工科西小室ニ於テ水内・高橋ノ二生食事ス。（午前十一時十五分） 此時東方ハ喫煙ノ疑あり。
p13	6	4月		一、 芸艸堂へ四月号ノ（美）挿画及江馬君ヨリ借リタル朝鮮絵はがき一、写真一ヲ持タセ遣ハス。
p13	7	4月		一、 松岡新一郎氏來室、福田氏ノ消息ヲ話サル。來月中旬東京ニテ個人展覧会ヲ開キ引続
p13	8	4月		キ郷里ニ於ケル後援会展観ヲ開クヘシト。
p13	9	4月	十二日	一、 午後四時西村五雲君ヨリ電話アリ。自分ノ在否ヲ問ハル。在校ノ旨ヲ告ケシニ「然ラハ來校面会
p13	10	4月		スヘケレハ夫迄御待ヲ乞フ」ト。五時同君來リ一封ノ書類ヲ渡サル。「書類五通在中至急
p13	11	4月		親展、藤代校長宛」ナリ。之カ伝達ヲ乞ハル。
p13	12	4月	十四日	・ 欠勤ス。（神戸へ赴ク）
p13	13	4月	十五日	・ 綾錦第九巻、西陣織物館ヨリ到達預リ置ク。（代金五十円）
p13	14	4月		一、 長沢確三郎來校、卒業生採用ニ付申入ラル。瀧、高橋、稲生ノ三名
p13	15	4月		交渉スヘク岐美教諭ト協議ス。
p13	16	4月		一、 五葉堂樋口英虎（号叡湖）來校。面会セサリシモ当校奉職志望ノ旨
p13	17	4月		記載セル紙片ヲ置キ歸ラル。
p13	18	4月		一、 入江波光君ヨリ内證アリ。望月君及波光君退職願ヲ托サル。午後四時校長私宅

p13	19	4月		ヲ訪問シテ御渡セリ。今夜望月氏ヲ往訪シテ返戻スル積リト承ハル。
p13	20	4月	一、	昨日菊池契月君ヨリ校内会基本金千四百〇七円五十三銭使ヲ以テ
p13	21	4月		持タセラル。鈴鹿君受取り預リ置カル。本日藤代校長ニ報告シ第一銀行ニ定期
p13	22	4月		預金トシテ預入スル事ト定メタリ。
p13	23	4月	十六日	・ 有田工業学校教諭二名生徒若干名来校巡覧。(午前八時)
p13	24	4月	一、	書類五通修正案一通入ノ一封校長ヨリ渡サル。西村五雲氏ヘ手交スヘク命セラル。
p13	25	4月		依テ午後五時同氏ニ渡ス。同夜十一時受取書ヲ接手ス。本日朝竹内栖鳳君東上
p13	26	4月		明日ノ帝国美術院会議ニ臨席セラルト山元春拳君モ東上ノ由。
p13	27	4月	一、	長沢確七郎氏来校ニ付、星製薬会社図案技手採用ニ付内交渉ヲ
p13	28	4月		結ビタリ。依テ改メテ公文書ヲ以テ任用申込アリタク依頼セリ。
p13	29	4月	一、	瀧旅陽氏来校、星製薬会社入社希望ノ旨返事アリタリ。高橋徳三郎氏
p13	30	4月		病氣ニ付希望セサル旨返事アリタリ。依テ伊保木謹二氏ニ葉書ヲ出シ来校ヲ
p13	31	4月		求メ置ケリ。
p13	32	4月	一、	藤代剛氏ニ訓諭ス。一、来ル土曜日全生徒桃山御陵参拜ノ事ニ協定ス。
p13	33	4月	十七日	一、 昨夜西村五雲君ヨリ受取レル領収所ヲ校長ニ手渡ス。八木君ヨリ校長ヘ請求ノ件
p13	34	4月		ニツキ校長ヨリ内相談アリ。依テ同意ノ旨答ヘタリ。
p13	35	4月	一、	川上拙以氏来校。同氏作品他ヘ売却ノ儀承諾ヲ得タリ。依テ之ヲ鈴鹿君ヘ伝フ。
p13	36	4月	一、	専門学校本科一年別科生泉喜一氏ハ同級生坂田田中両氏ニ毆打セラル。同人ノ友人ヨリ
p13	37	4月		荒木教授ニ訴ヘ出テタリト。
p14	1	4月	十七日	・ 本郷政次郎、安田千代吉郎来校。
p14	2	4月	一、	荒木教諭ヨリノ招ニヨリ前田君往訪。談ハ同君ノ身上ニツキ注意ナリシト。
p14	3	4月	一、	八木教諭ハ昇格(自己)ノ件ヲ校長ニ懇望セリト。一、雑誌美四月号ノ原稿ヲ送ル。
p14	4	4月	十八日	一、 伊保木謹二氏就職ニツキ交渉セシモ、当分現在ノ俸研究ニ没頭スヘシト。
p14	5	4月	十九日	・ 桃山陵ニ参拜ス。午前八時半大仏正面ニ集合前田、平野、西海、八木ノ諸君ト
p14	6	4月		美工校生徒約二百二十名徒歩桃山ニ参拜ス。自分ハ藤森神社境内ニテ一同ニ会シテ
p14	7	4月		同行ス。午前十一時参拜ヲ了ヘ、御香宮境内ニテ昼食シ解散ス。幼生徒ハ
p14	8	4月		小使ニ付添ヘ京都ニ帰ル。
p14	9	4月	廿一日	・ 長沢青衣氏ヨリ星製薬株式会社ヘ図案部員採用ニツキ公文書ヲ以テ申込
p14	10	4月		スル。沢田誠一郎氏ニ電話ス、不在ナリ。
p14	11	4月	一、	府社会課打尾忠治氏ヨリ、五月十五日ヨリ十日間赤十字社京都支部ニ於テ
p14	12	4月		児童福利増進会開催ニ付出品方依頼アリタリ。
p14	13	4月	・	上田万次郎ヨリ卒業製作之買入費ノ請求書及特別賞ノ請求書到達。手続ス。
p14	14	4月	一、	若林書店ヨリ七十一番歌合絵巻三巻到来預置ク。
p14	15	4月	一、	同店ヨリ請求書到達。
p14	16	4月	一、	卒業生三浦理観氏来室。
p14	17	4月	一、	水田栄蔵氏ヨリ卒業製作ハ今秋ノ国展ニ出品シタキ旨申入レラル。
p14	18	4月	廿二日	・ 唐画帖三枚并横本二枚川本参江氏ヨリ受取ル。
p14	19	4月	一、	絵専本科一年生田中信太郎同坂田隆賢氏ニ論旨退学セシム。
p14	20	4月	一、	伊藤鷲城氏来室。一、沢田誠一郎氏ヨリ電話アリ。荒木教諭退職ノ伝ニ付同教諭ニ
p14	21	4月		面会シテ善後策ヲ講セントテ予ノ意見ヲ求メラル。電話ニテハ述フル事能ハサルヲ以テ来談ヲ
p14	22	4月		求メ置ケリ。且又星製薬会社ヘ就職希望者推挙ニ関シ、一応沢田氏
p14	23	4月		ト協議ヲ遂ケラルヘク長沢青衣氏ヨリノ通知アリシニヨリ此件ニ関シ打合せリ。
p14	24	4月	一、	岐美教諭ト協議シ星製薬会社ヘ佐竹・荒木両氏ヲ薦ムル為本人ノ意向ヲ
p14	25	4月		聞ク事ニセリ。 一、午前十時半頃鐘紡社宅ノ若者?堀ヲ越ヘテ「グラウンド」ニ入りシモノカ、堀ヲ越
				ヘテ逃ルヲ見テ誰何セリ。
p14	26	4月	一、	佐野一星氏ヨリ唐画模寫二枚受取ル。
p14	27	4月	廿三日	一、 沢田氏ニ面会ノ為博覧会場ニ至ル。瀧旅陽氏ヲ呼寄セ、沢田氏ニ会見セシム。
p14	28	4月	一、	瀧旅陽ヲ推挙スル為メ星製薬会社社長沢確三郎ヘ手紙ヲ送ル。
p14	29	4月	一、	午后田中信太郎ノ保証人代理来校。退学ヲ緩和セラレン事ヲ嘆願セリト、
p14	30	4月		前田教諭ヨリ伝承。
p14	31	4月	一、	中央美術四月号紛失。
p14	32	4月	廿四日	一、 荒木和一氏来ル。依テ星製薬会社就職ノ希望アルヤ否ヲ問フ。熟考ノ上トノ事。
p14	33	4月	一、	美工二年生柴田可寿馬ハ昨日吉田山ニテ同級生木村清一ト遊ヒ石ヲ投ケテ木村氏
p14	34	4月		ノ顔面(目ノ直下)ニ中ツ。本日木村氏出校セルモ痛ニ堪ヘス帰宅セリ。
p14	35	4月		柴田氏保証人ヲ呼出シ木村氏ヲ慰問セシム。

p14	36	4月	一、	漆工科一年天野六郎絵画科へ転科ノ願出ヲ不許可ニ協定ス。
p14	37	4月	一、	柴田可壽馬ヲ譴責ニ処スル事ニ決ス。田中信太郎ノ論旨退学ハ緩和セサル事ニ校長ヨリ
p14	38	4月		話サル。
p15	1	4月	廿五日	一、
p15	2	4月		絵専三年生大島竹松・登内微笑・鐘ヶ江辰一ノ三氏校長ニ内談シタキニ付面会ノ時間ヲ問ハル。依テ電話ニテ
p15	3	4月		尋ネ明日午後会見ノ事ヲ告ク。山元春挙君来校、昨夜右三氏同君ヲ訪問セリト語ラル。
p15	4	4月	一、	文部省ヨリ社会教育叢書第一輯職業指導ト学校教育、同第三輯成人教育ノ二部
p15	5	4月		寄贈セラル。
p15	6	4月	一、	吉川観方氏来室、大西久章氏来室。吉川氏ハ嵯峨ニ居ヲ移セリト。其位置ハ嵯峨駅ヨリ天竜寺前
p15	7	4月	廿六日	・
p15	8	4月		昨夜西村五雲君ヨリ托サレタル一封ノ書類ヲ校長ニ伝達ス。(午前八時)校長ヨリ受取レル
p15	9	4月		書類ヲ西村五雲君ニ伝達ス。(正午)
p15	10	4月	一、	伴野綾之助氏(死亡)ノ作品二品(一点ハ方四尺斗リノモノ一点ハ二曲屏風)遺族
p15	11	4月		ノモノヨリ受取方申出タルニヨリ、同級生大島竹松、鐘ヶ江辰一等ニ問合せ其間違ナ
p15	12	4月	一、	キヲ認メタルニヨリ、明日受取書ヲ徴シテ渡ス事ニセリ。
p15	13	4月		美工二年生富森幸次郎ハ自己ノ写生ヲひき裂キ或ハ自暴的行為少ナカラサリシヲ
p15	14	4月		テ柴原教諭ヨリ訓戒ヲ加ヘシニ、其復習の行為?同教諭ノ椅子卓ニ松脂ヲ
p15	15	4月		塗リテ使用ニ堪ヘサル様ノ悪戯ヲナセリ。又本日学科教室ニ於テ教師ノ面前ニテ
p15	16	4月		入口ノ引戸ヲ乱暴ニ閉チ一同ヲシテ其乱暴ニ喫驚然タラシメタリ。依テ午後柴
p15	17	4月	一、	原教諭ノ申出ニヨリ帰宅ヲ命シ保証人ヲ召喚(月曜日)セリ。
p15	18	4月	一、	漆工科三年生東方康雄氏ノ停学ヲ解ク。
p15	19	4月	一、	絵専生坂田、田中両氏退学願書ヲ提出セサルニヨリ之ヲ督促ス。
p15	20	4月	廿八日	一、
p15	21	4月		美原稿校正来ル。校正ノ上渡ス。一、河上書記辞職ノ内意ヲ漏サル。
p15	22	4月		午前九時出校。直ニ帰宅ス。午後一時出校四時退出ス。形勢不穩。
p15	23	4月		朝鮮文化史大全(十五円)ニ付朝鮮研究会安在義英来校、江馬君面会。
p15	24	4月		青木生沖氏ノ紹介ニテ国際美術社井谷豊次郎氏来校。高野山金石図説
p15	25	4月		ヲ推奨セラル。江馬君面会。
p15	26	4月	廿九日	一、
p15	27	4月		大阪朝日新聞夕刊ニ本校ノ職員退職願ニ関スル事件ノ内容ヲ
p15	28	4月		記載セラル。
p15	29	4月		・
p15	30	4月		中井宗太郎氏ヨリ明日放課後生徒ニ挨拶致シ度トノ申込(同妻君ヨリ電話
p15	31	4月		ニテ申入ラル)アリ。江馬君ト協議ノ上、時機尚早キヲ以暫ク延期アリ
p15	32	4月		タシト小使ニ書面ヲ持タセテ返事ス。
p15	33	4月	一、	藤代校長ハ明朝九時絵専生徒ニ訓示スヘク申出アリ。午前九時ト定ム。
p15	34	4月	一、	午後一時ヨリ体格検査執行。
p15	35	4月	一、	山本文華堂店員来ル。加茂祭巻物二巻及支那工芸資料ヲ返ス。
p15	36	4月		類従雑要抄の請求書ヲ提出スヘク命ス。
p16	1	4月	一、	職員一同ヲ集メテ新聞記事(本校職員退職問題)ニ迷ハサレ軽挙
p16	2	4月		首動セザル事、学校内部を督励シテ遺憾ナカラシムル事、各自ノ推測
p16	3	4月		談或ハ風雪ナドヲ語ルニハ十分注意ヲ以テセラレ度、成ルヘクハ本校職
p16	4	4月		員ハ此事件ニ関シテハ語ル事ヲ避クル事ヲ希望ス。
p16	5	4月	一、	小使ヲ集メテ上記同様ノ意味及火ノ用心、門衛勤務ノ注意等ヲ戒ム。
p16	6	4月	三十日	・
p16	7	4月		午前九時二十分ヨリ藤代校長ノ訓示アリ。絵専生徒全部ヲ食堂ニ集メ今回ノ校長ト
p16	8	4月		教授トノ間ニ意思ノ阻隔ヲ見タル頗末ヲ日誌のニ述ヘラレ、何等ノ批評ヲ加ヘス
p16	9	4月		是非曲直ハ諸君ノ判断ニ任ストテ最後ニ
p16	10	4月		生徒ハ落着テ課業ヲ励マレタシ若シ不安ノ心ヲ抱クモノ
p16	11	4月		アラハ之ヲ鎮撫スル事ニ尽力セラレン事ヲ乞フト結ハル。(約二十分間)
p16	12	4月	一、	大阪毎日記者小倉三男来校、三分間面会ス。穩健ナル態度ヲ見ル。
p16	13	4月	一、	日出記者藤本京一生来校。江馬君ト会谈セラル。自分ニ新聞ニ記スヘキ談話ア
p16	14	4月		ラハ学校ノ希望通り正直ニ記載スヘケレハ其材料ヲ提供セラレタシトノ
p16	15	4月		事ナリシモ、自分ハ此際何ノ希望モ申上クル事能ハス、直接ニ校長及竹内教授ニ
p16	16	4月		会谈サレタシ、但シ本日ノ記者ハ実ニ不都合ナル無稽ノ記事ナリシ
p16	17	4月		ヲ咎メシニ氏ハ之ヲ謝シテ曰ク、自分ノ筆ニアラス、以後ヲ注意スヘシト。
p16	18	4月	一、	大阪都新聞記者工藤三鴻氏来校面会ス。今朝校長ノ生徒ニ示サレタル要約ヲ話ス。
p16	19	4月	一、	大阪朝日記者松本龍太郎、同時事新報記者松井豊両氏来校。今朝ノ校長訓示ニツキテ
p16	20	4月		大要ヲ聞ク為メナリ。
p16	21	4月	一、	岩村教諭ニ金百円(華族会館ヨリ預リ居ル金残り全部)ヲ渡シ、外ニ金百円校友会ヨリ

p16	22	4月		一時借入レ貸渡セリ。同会館依頼卓ノ金具代支払ノ為ナリ。五月中ニ全部出来
p16	23	4月		ノ上製品代受取ル時ニ返済ノ約束ナリ。
p16	24	4月	一、	校長ヨリ電話アリ。「先刻市長ニ面会、調停ノ勞ヲ依頼ス。市長ハ快諾シ、
p16	25	4月		日ク十分ニ斡旋スヘシ。」大慶々々。
p16	26	4月	一、	中井教授ヨリ電話アリ。「絵専生徒等ハ自分ニ今回ノ件ニツキ説明セヨトノ依頼
p16	27	4月		アリシモ、自分ハ目下謹慎シテ沈黙ヲ守ルニ付生徒ニ此旨ヲ伝ヘ度シ、依テ大
p16	28	4月		島竹松、橋史両氏ヲ喚フ事ヲ求メラル。」大島氏不在橋氏出テ電話ヲ聞
p16	29	4月		ケリ。依テ自分ハ橋氏ニ問フ。「然ラハ中井教授私宅ヲ訪問シテ説明ヲ求ムル意カ」ト。
p16	30	4月		氏曰ク「何レ生徒一同ニ謀リテノ上ニスヘシ。」自分曰ク「中井教授ハ謹慎沈黙ヲ守ルト
p16	31	4月		ノ意ナレハ成ルヘクハ同教授ノ謹慎ヲ妨ケサル様ノ私宅訪問ヲ見合ハス方宜シカランカ
p16	32	4月		ト思フ。併シ自分ハ其私宅訪問ヲ不穩当ト云フニアラス。依テ若シ訪問聴取ノ上
p16	33	4月		生徒一同ヘ報告ノ際ハ自分及江馬努両氏ヘモ傍聴スル様御知ラセ有リ度ハ
p16	34	4月		希望」ノ旨ヲ告ケ且ツ曰ク「生徒ハ其本分ヲ守リテ研究ニ没頭スヘシ。今回ノ事
p16	35	4月		件ハ必ス本日円満解決ノ途アルヘシト。樂觀スルヲ良トス云々。
p17	2	5月	五月一日	・ 昨夜絵専生徒十名来リ、総代トシテ伏見ニ赴キ中井宗太郎ヲ訪ヒ其主張ヲ聴取セリ
p17	3	5月		トテ午前十時頃ヨリ教室内ニ於テ報告会ヲ聞ケリト江馬努君ヨリ知ラセアリ。依テ
p17	4	5月		大島・橋ノ両氏ヲ喚ヒテ昨日注意ヲ与ヘ具依頼セル約束ニ背ク事ヲ告ク。彼等曰ク
p17	5	5月		昨日ノ御話ハ其意味ニ解セサリシト。斯クテ押問答スルモ益ナケレハ、午后其聴取セル要
p17	6	5月		点ヲ語り聞カセラレン事ヲ申入ル。午后二時大島・橋・竹原ノ三氏来リ。江馬・八木・種子
p17	7	5月		島等諸君ト共ニ校長室ニ会シテ彼等ヨリ報告ヲ受ク。曰ク荒木教諭論旨退
p17	8	5月		職ノ惨酷ニシテ無情ナル事、廿八日最後ノ通牒ニ対シ午後二時尚再考ヲ望ムト
p17	9	5月		返事ヲ送ルト同時ニ新聞紙上ニ掲載セルハ其誠意ナキ態度ノ一証ナリトテ
p17	10	5月		之非難シ、又校長訓示中ニ教授会ノ内規ヲ不都合ト知りツ、移転新築ノ予
p17	11	5月		算議決ニ到ラサル間ニ紛擾ヲ起スノ不利ナルヲ知り枉ケテ之ヲ認容シ、次回未タ
p17	12	5月		予算議決セルニ拘ハラス之ヲ拒斥セルハ前後矛盾ナリ云々ト。
p17	13	5月		又生徒一同ハ栖鳳先生他四氏ヲ学校ニ招キ各其意見ヲ聴取シタキ希望
p17	14	5月		アレハ学校ニ於テ之ヲ認許セラレン事ヲト。之ニ対シ江馬努君ヨリノ注意ニ、
p17	15	5月		公開席上ノ講演等ハ数人ト膝組ミ合セ以語ルヨリモ粗ニシテ且中心点
p17	16	5月		ニ触ル、事ノ避クルヲ常トス。若シ真ニ双方ノ主張ヲ聞キ之ヲ公正ニ批判セ
p17	17	5月		ントセハ膝組合ハセテ談合スルヲ提案トスト。
p17	18	5月		依テ彼等三氏ハ生徒一同ニ此理由ヲ示サレン事ヲ乞フト。依テ在校生徒此ノ席ニ
p17	19	5月		導キテ訓戒シ、四時半漸クニシテ明日午後六時藤代校長ニ面会スル事ニ相談
p17	20	5月		一決ス。五時歸ル。一、午后体格検査執行。
p17	21	5月		・ 夜東京星製薬会社長沢氏ヨリ入電、瀧氏ノ出勤ヲ申来ル。
p17	22	5月	二日	・ 田中平安堂ヘ図書修理。四冊ヲ渡ス。
p17	23	5月	一、	矢田部敬三氏ニ校友会展覧会出品画ノ破損修理セルモノヲ渡ス。
p17	24	5月	一、	長沢確三郎氏ヨリ書留郵便ニテ瀧旅陽氏採用確定ノ旨ヲ通知シ来リ。急赴任アリ
p17	25	5月		タシトテ旅費全式拾円為替券同封。依テ直ニ瀧氏ヘ伝達ス。
p17	26	5月	三日	・ 午前校長出校。之ヨリ大学ニ赴キ市視学吉村氏ト会見ノ予定ナリト。
p17	27	5月	一、	昨夜生徒総代五人来ル。荒木教諭退職ノ理由ヲ問ハル、モ今ハ其時期ニアラス却テ
p17	28	5月		円満解決ノ妨トナルニヨリ暫ク説明スル事ヲ得スト。校長ハ又廿八日夕刊所報ノ
p17	29	5月		一部ハ自分語レル所ナル事実ナルモ、翌日京都附録ハ全ク関知セスト。生徒総代
				五人ノ氏名、橋・竹原・橋本・河野。
p17	30	5月	一、	大坂都新聞記者工藤氏来ル。曰ク事局ハ急転直下セリ。校長ノ話ハ如何ト。
p17	31	5月		予答テ曰ク今朝校長出勤約一時間ニシテ大学ヘ出勤セラルル何等ノ新ラシキ話
p17	32	5月		ヲ聞カスト。氏曰ク、市長ハ校内ノ事ハ校長ヘ、營造物ハ市長ヘ、学校教育ノ監
p17	33	5月		督ハ知事ノ責ナリ。故ニ校内ニ起レル事件ニ関シテハ校長ノ処理スヘキ所ナリ。
p18	1	5月		市長タル自分ノ知ラサル所ナリ。況ンヤ此事件ヲ起セシ時、校長ハ今日ノ結果ヲ予知シ
p18	2	5月		之ガ対策ハ予メ考慮セラレシ事ナラント思フト云々。
p18	3	5月		之ヲ推察スルニ校長ニ辞職ヲ勸説セルニアラスヤ。去リナガラ若シ校長ノミ退職セハ
p18	4	5月		市会議員中半数以上ノモノハ、市長ノ不信任案ヲ提出スルナラント考ヘラルト。
p18	5	5月	一、	午後校長又出校。自分ノ待遇問題ハ又行脳シトナレリト告ラル。
p18	6	5月	五日	一、 猪飼嘯谷君父君昨日死去、七日葬儀ノ通知アリタリ。
p18	7	5月	一、	桐生高等工業高校図書課ヨリ絵専校宛図書館ニ関スル取調材料送附
p18	8	5月		依頼シ来ル。一、沢田誠一郎氏ヨリ電話。卒業生運動ノ模様如何ト。

p18	9	5月	一、	井上達雄・小早川好古来室。
p18	10	5月	一、	午後二時半、金山刑務所授業手亀谷利一氏本校彫刻科実習参観申出シモ、放課后ナリシヲ以テ明日午后再ヒ来観ノ事トセリ。
p18	11	5月		
p18	12	5月	六日	一、
p18	13	5月		江馬務君ヨリ歴世風俗印画集第一輯、第二輯（各五枚）ヲ受取ル。代金毎輯金一円参拾銭毎月一冊ツ、発行。
p18	14	5月	一、	岩村真次郎君ヨリ校長ノ杖修理出来受取。同君宅へ持参ス。
p18	15	5月	一、	明日猪飼君父君ノ葬ナルニヨリ校友会ヨリ花一對ヲ送り、図案科二三年生徒ヲ参列セシムル事ニス。
p18	16	5月		
p18	17	5月	一、	木島桜谷君ニ助手手当増額ノ儀ヲ話ス。鈴鹿君ヨリノ依頼ナリ。
p18	18	5月	一、	午後修学旅行ノ相談ヲナス。一、校長ノ招喚アリ往訪ス。校友会後援会ノ相談アリ。
p18	19	5月	一、	喜多村明次郎・大西久章来室。
p18	20	5月	一、	漆工科江馬長閑君ヨリノ内報ニ日ク、二週間斗リ前ニ二葉園ノ作品、香合二個紛失セルニ
p18	21	5月		気付キ、生徒ニ告ケテ無断借出セルモノハ速ニ返戻セヨト命セシニ、一兩日ノ後一個ハ人知レス返戻アリシニ、又一兩日ヲ経テ三個トモ紛失、其後茶棗一個紛失シ内々犯人ヲ物色シツ、
p18	22	5月		アリシニ、今日又巻苜蓿一個ノ紛失ヲ見ル。
p18	23	5月		
p18	24	5月		戸締、錠前ハ修繕ヲ加フルモ直ニ破壊セラル、事慶ナリト。
p18	25	5月		依テ戸締まり、錠前ハ本日修繕ヲ命スル事、紛失物ハ内々取調フル法ヲ協議セリ。
p18	26	5月	七日	・
p18	27	5月		市長ヨリ電話アリ。教授会内規及修正案至急一見致度ト。依テ校長ニ電話シ受取り、校長ヨリ親展書トシテ市長ニ提出セラル。
p18	29	5月	一、	入江波光君ヨリ同君并菊池契月君ノ辞職願込達ヲ申入ラル。校長出校中ニ付
p18	30	5月		直接提出セラレシ事ヲ告グ。依テ同君ヨリ校長ニ面談セラル。
p18	33	5月	八日	一、
p18	34	5月		市長ヨリ電話アリ。会談シタシ時間ト場所ハ後ヨリト。
p18	35	5月		入江波光君ヨリ種々意見ヲ話サル。且ツ校長ニ会見シテ昨日ノ足ラサル所ヲ述ヘタシト。依テ校長宅ニ電話ス、只今ヨリ御入来ヲ待ツト。
p19	3	5月	九日	一、
p19	4	5月		昨夜中井辰蔵君来校。荒木教諭保管ノ「教授会記事」ヲ借帰ラル。中井教授ノ使ナリ。本日正午返済セラル。
p19	5	5月	一、	松元道夫氏へ金貳百七拾円（内拾円博物館員へ心付）渡ス。摸写料ナリ。外ニ金拾円ハ善峯寺へ謝礼ノ自分分預ル。明日江馬務君ト相談ノ予定。松元氏ノ受取書ハ鈴鹿君へ
p19	6	5月		渡ス。荒木教授退職許可ノ辞令発セラル。（五月十日附）
p19	7	5月		
p19	8	5月	十日	・
p19	9	5月		昨日預リシ金拾円ヲ江馬務君ニ托ス。一、衆議院議員総選挙当日ナリ。
p19	10	5月	一、	夜、入江波光氏私宅ヲ訪ハル。去月廿九日朝ノ新聞記事ハ円満解決ニ障害ヲ与フルモノナレハ何等ノ方法ニテ学校ヨリ之ヲ否定スル方法ナキヤ。生徒全体トシテ五教授ノ退職ヲ翻シ留任アル事ヲ切望スルノ意志ヲ表明スル方法ヲ探リタキ旨モ語ラル。
p19	11	5月		
p19	12	5月	一、	夜、沢田誠一郎・辻辰之助・川畑敬男ノ三氏私宅ニ来訪。十四日午後三時母校卒業生大会ヲ開キタシト。其通知文次ノ如シ。
p19	13	5月		
p19	14	5月		拝啓 母校ノ紛擾ハ遺憾ノ極デス。我々ハ世ノ常ノ学校瞬キノ轍ヲ踏マナイヤウニ暫ク慎重ナ態度
p19	15	5月		テ傍觀シテ居リマシタガ、今ヤ其経過ハ此俟黙視スルニ忍ヒナイノデス。
p19	16	5月		茲ニ意ヲ決シテ卒業生大会ヲ開キタイ思ヒマス。而シテ其理非曲直ヲ超越シテ卒業生トシテ誠
p19	17	5月		心誠意母校ノ為ニ最善ノ策ヲ劃シタイノデス。
p19	18	5月		母校ヲ憶ヒ血ト涙トヲ有スル諸君ハ万難ヲ拜シテ左記ノ日時ニ奮ツテ母校へ参集シ高見ヲ披露セ
p19	19	5月		ラレン事ヲ望ミマス。敬白 同五月十四日午後三時 於母校開會 発起人 絵専美工卒業生有志
p19	23	5月	十二日	一、
p19	24	5月		一、放課后徳田・二宮両氏来校。日ク「校外ニアリテハ
p19	25	5月		卒業生等ハ学校ノ善後策ニツキ此処彼所ニ評議スル風聞アル折柄、自分等ガ其問題ニ関シテ
p19	26	5月		対岸ノ火災視スル態度ヲ非難スルモノ少ナカラス。乍去自分等ハ教授会
p19	27	5月		ノ真相モ亦其後ノ事情ヲモ詳知セス、何トモ身ヲ処スル方法ヲ考フル能ハス云々」トノ話アリ。
p19	28	5月		且ツ「明後日卒業生大会開催ニツキ不穩ノ決議ナキヤヲ憂慮スルモノナリト。
p19	29	5月		依テ自分ノ意見ヲ語ゲ後告クルニ、今一応校長ヨリ直接其事情ヲ聴取セラレタシト。
p19	32	5月	十三日	二氏之ヲ諒トシテ校長ノ都合ヲ電話ニテ問ヒ、直ニ校長私宅ヲ往訪セラル。
p19	33	5月	一、	午後柴原・二宮等ノ諸氏ヨリ学校問題ニ関ス職員ノ態度ヲ定メ度ニ付、一同
p19	34	5月		協議会ヲ開キ度旨申出アリ。依テ出勤職員ヲ集メテ評議ス。江馬努・川北霞峯・
p19	35	5月		柴原・二宮・川本・千熊・伊吹・柴田・八木・平野・前田・徳田・国安・岩村・堀ノ十五人ナリ。
p19	36	5月	一、	我等ハ市長ノ裁定ヲ待チ其正否ヲ見タル上ニテ態度ヲ明ニスル事ト協定セリ。
p19	37	5月		尚明日午后ノ卒業生大会ニツキ、職員中ノ柴原・二宮・川本・千熊・国安・岩村等ノ諸氏
p19	38	5月		ハ出席スヘキヤ否ヤトノ質問ニ対シテ「昨日校長ニ話セシニ、諸君ハ出席セラレテ
				差支ナシト。且ツ校長ノ希望トシテハ、目下市長ノ斡旋解決ニ尽力セラル、折柄ナレハ

p20	1	5月	卒業生トシテハ今暫ク静カニ市長ノ裁定ヲ待タレン事ヲ乞フ。先日市長ヨリノ注意ニモ此
p20	2	5月	在校生及卒業生ニ静カニ落付ク様呉タモ頼ム、若シ彼等ニシテ運動ヲ起ス時ハ円満解
p20	3	5月	決ノ妨トナルヲ憂フルナリトノ話アレハ、是等ヲ御考慮アリテ精々穩健ナル協
p20	4	5月	議ヲ遂グル様御尽力アリタシ」トノ事ヲ伝ヘ置ケリ。
p20	5	5月	一、明日ノ卒業生大会ハ沢田・辻・川畑及榊原紫峰・村上華岳等ヲ発起人トスルモノ、如シト。
p20	8	5月	十四日 一、絵専本科二年三年ハ一室ニ集リ現下ノ問題ニ対シテ方法ヲ協議スル為加藤講師
p20	9	5月	ノ内諾ヲ得テ授業ヲ休ミ理化室ニテ集會セリ。発起人ハ本科二年ナルモノ、如シ。
p20	13	5月	一、東京国民新聞京都通信部記者□□来校。
p20	14	5月	一、午後二時絵専生徒ハ朝来ノ評決ノ結果左ノ嘆願書ヲ校長（小使ヲ使トシ）及市長
p20	15	5月	（橋本順忠氏携帯）ニ差出セリ（此會ハ別科生ヲ除ケル全生徒ナリト聞ク）
p20	16	5月	嘆願書
p20	17	5月	生等紛擾以來混沌トシテ其帰趨速フ此不安ヲ持續スルニ堪エス茲ニ学生大会ヲ
p20	18	5月	開キ真摯熟慮ノ結果此決議ニ帰着セリ冀クハ此決議ノ真意アル処ヲ諒ト
p20	19	5月	シテ速ニ解決セラレン事ヲ嘆願スルモノナリ
p20	20	5月	決議
p20	21	5月	一、目的 辞表提出中ノ七教授留任ヲ切望ス
p20	22	5月	一、行動 此目的ヲ貫徹ノ為熟慮審議茲ニ生徒一同ハ結束以テ休校ヲ決ス
p20	23	5月	モノナリ
p20	24	5月	大正十三年五月十四日 市立絵画専門学校学生一同
p20	25	5月	市長、校長 殿
p20	26	5月	一、右ニ対シ校長ノ命ニヨリ明後日（十六日）午後二時三十分職員會議ヲ開ク事ヲ通知セリ。
p20	27	5月	一、校長ヨリ電話アリ。「只今市長ヨリ同盟休校ヲ緩和スル様取斗ハレタシ、若シ必要アラハ
p20	28	5月	自分出席訓諭シテモ宜シ」ト。就之自分ノ考ニテハ至急保証人ヲ召集シ各生徒ニ
p20	29	5月	心得違ヲ説諭セシメント思フ。時日ハ明日午後四時トシテハ如何ト。
p20	30	5月	明日中ニハ郵便物ノ通達覺束ナキモノアラン。殊ニ午後四時前ニ入手スルモノ少数
p20	31	5月	ナルヘケレハ、明後日トセハ如何ト校長ヘ申入ル。依テ
p20	32	5月	明後十六日午後四時保証人会ヲ開クコトニシテ主々通知ヲ発セリ。
p20	33	5月	一、卒業生大会ハ午後三時ヨリ開會ナリ。之ニ先ツ約半時間入江波光氏ヨリ電話アリ。
p20	34	5月	本日ノ卒業生大会発起人中絵専側ニテハ国画創作会同人ノ二三ナリト側聞セルニヨリ
p20	35	5月	本人ニツキ聞糺セシニ全くク關係ナシ無シトノ事ナレハ発起人ノ三氏ヘ此事ヲ明ニ伝ヘラレタシト。
p20	36	5月	一、開會ニ先タチ辻・沢田・川畑三氏ヨリ申出ニ日ク「本日參會者ニ諮ルヘキ第一項ハ先ツ校
p20	37	5月	長ト一教授トノ出席ヲ請ヒ両者ノ説明ヲ聞キ、第二ニ是ヲ基礎トシテ善後策ヲ
p20	38	5月	協議セン考ナレハ、早急ノ事トテ御迷惑ナガラ本日午後三時半頃ヨリ校長ニ出席ヲ
p21	1	5月	請ヒ度キニヨリ宜敷御取斗ヲ乞フト。之ニ対シ自分ハ校長ハ出席ヲ辞セラルヘシト告ケシニ、然ラ
p21	2	5月	ハ中井教授ノ都合ヲ聞カント申出テラル。之ニ対シ自分ハ一方ノミヲ聴取スルハ公平ナル判断ヲ作
p21	3	5月	ルニ支障アルヘシ、寧ろ沢田氏ヨリ双方ノ申分ヲ全員ニ説明セラルヘシ。同氏ハ既ニ校長・中井
p21	4	5月	教授・市長ノ三者ト會見セラレタル事ナレハ最モ適任ナルベシト告ケシモ、発起人等ハ同意セス
p21	5	5月	中井氏ニ電話ス。不在ナリト。依テ後刻大会ノ希望アラハ更ニ電話ヲ通スル事トシテ會
p21	6	5月	場ニ入ラル。会場要点左ノ如シ。
p21	7	5月	一、開會ノ理由（辻辰之助） 一、議長沢田誠一郎（辻氏ヨリ指名シー同異議ナシトシテ）
p21	8	5月	一、校長及一教授ノ説明ヲ求ムル予定ナリシモ校長ハ公用事ニテ（自分ハ市長ノ希望アレハ此
p21	9	5月	際出席シテ説明スルハ不穩當ト考ヘテ出席ヲ肯ゼラレサルヘシト告ゲタルニモ拘ハス）
p21	10	5月	出席不可能ナルヘシトノ事ナレトモ、中井教授ヲ此席ニ招キテハ如何ト。（賛成者ナシ。
p21	11	5月	會員日く、発起人ハ何等カノ基礎有スルナラン先ス之ヲ説述セヨト） 一、沢田氏ハ
p21	12	5月	校長及中井氏ノ會見ノ模様ヲ語ル。一、発起人ヨリ決議案ヲ提出ス。左ノ如シ。
p21	13	5月	一、我々ハ母校ノ紛擾ヲ耳ニシ憂スル事久シ、一切モ早ク整備セン事ヲ熱望ス。
p21	14	5月	二、母校ノ芸術教育ノ為メ速ニ其完全セン事ニ全カヲ挙ケテ尽カス。
p21	15	5月	右ニ対シ卒業生カ起チテ是等ノ運動ヲ為スハ不穩當ナリト（岡文涛氏）極論ス。又
p21	16	5月	目下市長ハ円満解決ノ衝ニ当ル事ヲ引受ケラル。且市長ニ此際、生徒・卒業生等ガ
p21	17	5月	起チテ運動カマシキ騒ヲ起サハ却テ円満解決ヲ困難ナラシムレハ、暫ク沈静ナラン
p21	18	5月	事ヲ希望スル旨校長ヘ申入ラル。校長モ亦此意ヲ尊重シテ其希望ニ副ハン事ヲ
p21	19	5月	努メラル。故ニ此際卒業生自身ノ運動ハ穩カナラスト。（柴原魏象）
p21	20	5月	一、修正案ハ次ノ如ク決セリ。
p21	21	5月	我々ハ母校ノ紛擾ヲ耳ニシテ憂フル事久シ、芸術教育ノ為メニ速ニ整備セラ
p21	22	5月	レン事ヲ熱望ス。

p21	23	5月	一、	右ノ決議案ハ委員ヲ挙ケテ市長ニ提出スル事トシ、先ツ沢田誠一郎ヲ選フ。(諾セラル)
p21	24	5月		次ニ今一人岡文涛氏ヲ選出ス。(辞セラル) 次ニ平井樞仙氏ヲ推ス、亦辞セラル。
p21	25	5月		依テ沢田誠一郎・岡文涛・平井樞仙氏ニ承諾ヲ強ヒ、且ツ附言シテ曰ク。右決議
p21	26	5月		文ヲ市長ニ手交シ、簡單ニ「何分宜敷御願致シマス」ト述フルニ止メラレタシ
p21	27	5月		ト。時ニ午後七時過ナリ。
p21	30	5月	※[L27の後へ] 一、	十四日卒業生大会中ニ絵専在學生(美工卒業生)ノ一人述ヘテ曰ク。「本日我
p21	31	5月		ター同ハ結束休校ヲ協議セリト。」
p21	32	5月		絵専卒業生曰ク。「其レハ甚タ不穩ナリ。同盟休校トハ甚遣
p21	33	5月		憾ナレハ自分等ハ之カ説論ニ尽力セント。」一生又曰ク、「決議セルト否ヤトハ
p21	34	5月		言明テ憚ル云々。是ニ就テ議場稍混乱セシモ合田一蜂氏起テ鎮撫シテ
p21	35	5月		曰ク。絵専卒業生ト在學生トハ本会閉会後此席ニテ此問題ヲ協議セント。
p22	1	5月	(十四日の続) ・	斯クテ七時過、大会ヲ了ヘテ此会議ニ入ルヤ、在校生三宅義一等ハ退席
p22	2	5月		ヲ申出テ、曰ク。結束休校云々ノ儀ニツキテハ自分等ハ何事ヲ申出ツル事ヲ避ケタシ。又
p22	3	5月		卒業生諸君ヨリノ忠告トカ勧誘トカヲモ受クル事モ出来ス、依テ之ヨリ退席スヘシト。
p22	4	5月		之ニヨリ卒業生不動・人見・柴田・佐野一星・二宮・井村等二十人余ト合田一蜂
p22	5	5月		氏ト協議ス。(退席セル在校生ハ二十五六人ナランカ) 併シ同盟休校ヲ決議セシヤ
p22	6	5月		否ハ明確ナラサレハ、暫ク直接手段ニ出ツル事ヲ止メ、各自精々緩和スル
p22	7	5月		ヨリ勸説セント申合セリト。
p21	28	5月	十五日	・
p21	29	5月		葵祭当日ニテ学校休日ナリ。沢田・岡・平井三氏市長ニ面会シテ前日ノ卒業
p22	8	5月	十五日	・
p22	9	5月		夜、盟休生等集合シテ昨日ノ決議ニ欠席セルモノヲ召集シテ同盟ニ加入スル事ヲ
p22	10	5月		約束セシムル為メ、時間外電報「十六日朝八時吉田山来イ」ト同文電報ヲ発
p22	11	5月	十六日	・
p22	12	5月		盟休生ハ吉田山東洋花壇ニ集ル事店主電話ニテ学校ヘ照会セリ。
p22	13	5月	一、	午後三時職員会を開ク。辞表提出セン七氏及山元教授(腎盂炎ニテ病養にあり)
p22	14	5月		欠席、他ハ全員出席。(囑託講師島崎氏モ欠席) 校長ヨリ去月三十日市長ニ幹
p22	15	5月		旋ヲ依頼セル事ヨリ述ヘラレ、一昨日卒業生大会及在校生盟休決議迄ノ大要ヲ
p22	16	5月		語ラレ、留任希望ノ件ハ今何トモ申出様ナシ。(全然市長ニ一任セル以上ハ)、第二ノ一同結
p22	17	5月		束休校ハ事体穩カナラス、其市長ノ希望モアレハ此同盟ヲ解キテ罪人ヲ造ラサル
p22	18	5月		様ニ努メ度シト相談アリ。此際各自不安ノ為メ落付キテ学習ヲ強ユルハ勿論
p22	19	5月		無理ナル事ナレハ、任意ニ欠席シテ一週一二回ナリトモ出校セハ大目ニ見ルヘシ。
p22	20	5月		之ニ對シテ一同協議ノ結果、首謀者ト認ムヘキ三宅義一ハ神坂教諭ヨリ、
p22	21	5月		戸田真次郎ハ川村曼舟氏ヨリ、河野正利ハ八木教諭ヨリ、橋本順忠ハ
p22	22	5月		東書記ヨリ説論スル事ノ手筈ヲ定メ、尚各員モ精々緩和ノ策ヲ考慮ス
p22	23	5月	一、	ル事ヲ約シ四時閉会。
p22	24	5月		午後四時半保証人会ヲ開ク。来会者約六七人、校長ハ教授会ノ創立ヨリ盟
p22	25	5月		休ニ至ル迄ノ大要ヲ述ヘ、此際市長ノ尽力ニ支障ヲ来ス事アリテハ却テ不利ナレハ
p22	26	5月		一同結束休校ノ約ヲ解キテ出校スル様御配慮ヲ乞フ旨ヲ述ヘラレ、次ニ懇談
p22	27	5月	一、	ヲ交換シ同五時半閉会ス。
p22	28	5月		盟休生ハ今朝東洋花壇ニテ来会生徒ニ盟休加入ノ承諾ヲ求メ、次ニ本日ノ保
p22	29	5月		証人会ニ對シ各保証人ニ一種ノ「パンフレット」ヲ配布スヘク門前ニテ幹旋
p22	30	5月		セリ。其氏名次ノ如シ。一年中川正次・二年森忠雄・三年増田千代松・橋
p22	31	5月		史・清水頭三以上。パンフレットノ要点左ノ如シ。
p22	32	5月		此行動タルヤ即チ解決ヲ促進スルニ効アル事ヲ信スレハナリ。サレド毫末モ
p22	33	5月		其他ニ校長ニ對シ糺弾或ハ問責ノ意ノ存スルモノニ非サル事ヤ論ヲ待タス。
p22	34	5月		……最モ尊信スル七教授ヲ我々ヨリ失ヒ去ルニ忍ヒサレバナリ。……
p23	1	5月		ナレバ教授ナキ学校ニ登校スヘキ理由並ニ内容ノ不満ナルカ如キ落着ヲ
p23	2	5月		認ムル能ハス。茲ニ飽迄固結ヲ固クシテ決議ノ貫徹ヲハカラントス。……
p23	3	5月	一、	保証人殿 絵画専門学校在校生一同
p23	4	5月	一、	保証人会後、職員中ノ十数人居残り更ニ協議ヲナセリ。
p23	5	5月	一、	当日朝、盟休生徒ハ電報ニヨリ吉田山ニ集合セル為メ、川端警察署ヨリ高等係視察専務山本常
p23	6	5月		蔵来校。事件ノ真相ヲ質問シ取締方法ニツキ相談アリタリ。依テ之ニ對フルニ「本校生徒ハ相当ノ理解
p23	7	5月		力ヲ備ヘ漫リニ暴行ニ出フル事ナキヲ信ス。故ニ警察ノ干渉ナキ方却テ穩カニ進行スヘシ。若シ干渉
p23	8	5月		ヲ加フルトキハ却テ反感ヲ惹起シ事件ヲシテ悪化セシムル事ナキヲ保セス。」ト申入レ置ケリ。
				十一時、市視学吉村辰造氏来校。事件ノ真相ヲ聴取シ午前一時頃退出セリ。

p23	9	5月	一、	盟休生徒ハ午前九時ヨリ午後三時頃迄東洋花壇ニ集会シ、昼食ヲモ取ラスシテ退出セリ。
p23	10	5月		彼等ノ内、総代ヲ拳ケ幾組ニ分レテ欠勤各教授ヲ往訪セリト。
p23	11	5月	一、	保証人会ニ於テ山田新一郎氏ハ正義団ヲ組織シテ健全ナル学校ノ風儀
p23	12	5月		ヲ涵養スルモ一法ナランカト進言セラル。一、沢田誠一郎君来校、薄暮退出セラル。用事ハ今朝生徒盟休ヲ緩和
p23	13	5月		スル様尽力アリタシトノ事ニテ来レリト。併シ氏ハ絵専卒業生ニアラス。
p23	14	5月	一、	大阪都新聞記者笠松時吉郎来校。
p23	15	5月	一、	榊原紫峰ヨリ電話アリ。明日午後二時絵専卒業生大会ヲ開クニ付、学校内ノ一室ヲ借受度
p23	16	5月		申込マル。承諾ス。
p23	17	5月	一、	大阪都新聞記者工藤三鴻氏来校。
p23	21	5月	一、	荒木矩君ヨリ文晁筆龍ノ図預リ倉庫内ニ置ク。同氏私有文庫一個倉庫
p23	22	5月		入レアリシヲ、本日白石小使ニ持タセ返ス。一、同君ヨリノ注意ニ「盟休ノ切崩シ策ハ却テ反感を誘致
p23	23	5月	一、	雑誌美校正昨日来ル。校正ノ上返ス。スル慮アリ。他ノ良法ヲ考案セン事ヲ要ス。自分ニ一策アリ、可
p23	24	5月	一、	清水政義・海北顕英来室。能性アルノ確信ニ達セハ御相談申スヘシト。」
p23	27	5月	一、	盟休生徒総代ハ左ノ如ク新聞ニ記載セラル。大島竹松（本三）・登内微笑（本別三）・三宅義一（本二）
p23	28	5月		・大河内政宣（本別二）・中川正次（本一）・鈴木重蔵（本別一）・三沢正三・仰木磯見（予二）・田ノ口
p23	29	5月		甚作・高梨栄作（予一）。
p23	30	5月	一、	荒木矩氏退職辞令書到達。
p23	31	5月	一、	神坂教諭出校。其談ニ今朝三宅義一氏ヲ説諭ス、併シ盟休脱退ヲ肯ゼス唯委員ヲ辞スヘシト
p23	32	5月		申居レリ。又曰ク昨夜沢田誠一郎氏来リ。二時間斗対談ス。何ノ用向ナルカヲ解スルニ苦シムト。
p23	33	5月	一、	荒木君ヨリノ手紙ノ端ニモ昨夕沢田氏来リ其用件明了ナラサリシト。
p23	34	5月	・	午後三時頃ヨリ卒業生大会ヲ開ク。其通知文次ノ如シ。
p23	35	5月		兼テ紛糾ヲ極メテ居リマシタ母校絵専ハ遂ニ学生ノ同盟休校ヲ見ルニ立至リマシタ。我々ハ之ヲ
p23	36	5月		黙視スルニ忍ヒマセヌ。茲ニ意義アル絵専卒業生大会ヲ開キタイト思ヒマス。左記ノ日時ニ於テ万
p23	37	5月		障繰合セ御来会下サルコトヲ希望シマス。
p23	38	5月		来ル十八日午後二時於絵画専門学校内
p23	39	5月		第一回卒業生
p23	40	5月		小野竹喬 星野空外
p23	41	5月		土田麦仙 村上華岳
p23	42	5月		松宮実 榊原雨村
p23	43	5月		榊原紫峰
p24	1	5月	・	「第十三回、第十四回卒業生ハ理科室へ集ラレタシ」トノ掲示門衛詰所前ニ掲ケラレ、同卒業生
p24	2	5月		等ハ理科室ニ集リテ大会ノ開会前ニ打合会ヲ開ク。
p24	3	5月	一、	二宮一鳩氏ヨリ聞ク所ニヨレハ、本日ノ会合ニツキ昨夜伏見ニ集合シ、大ニ論議セリ。村上震一氏ハ其席上ニ
p24	4	5月		於テ述ヘテ曰ク「自分ハ正義ヲ主張スルニハ手段ヲ選バストノ議ヲ首肯スル能ハサルノ意見ヲ有スルモノ
p24	5	5月		ナレハ、今日ノ場合諸君ノ意見ニ同意スル事能ハス。暫ク熟考セン云々」ト。
p24	6	5月		本日ノ大会ハ生徒ノ盟休ハ理ノ当然大ニ同情スヘキスシナラス至当ノ行動ト認ムル事ヲ決議セントスル
p24	7	5月		ナリト。
p24	8	5月	一、	柴田晩葉氏ノ語ル所ニヨレハ、今朝山元先生ヨリ召サレ参邸セシニ絵専卒業ノ塾生集マル。（誤テ寺久
p24	9	5月		保外一名モ召集セラル）先生ヨリ話サレタル大要ハ「自分ハ校長ト教授トノ間ニ立テ調停スヘキ位置
p24	10	5月		ニアルモノハ市長ノ斡旋ニ一任セル今日ナレハ暫ク傍觀セン。本日ノ会ニ於テ若シ各自ノ信スル所ニ
p24	11	5月		反スル決議ヲ強要セラル事アラハ熟考ノ時間ヲ保留スル事トセラルヘシ云々」ト。
p24	12	5月	一、	新聞記者ハ徳見・松井・藤本来校、徳見氏ト会談ス。
p24	13	5月	一、	卒業生大会ハ午後三時開始午後四時半頃終ル。
p24	14	5月	一、	昨夜八木絹介君校長ヲ訪問シ、本日河野正利ヲ説諭セシニ同氏ハ大ニ悔悟シツ、アリテ此上ハ
p24	15	5月		脱退（同盟休校）スル事ヲ誓フ旨覚書ヲ得テ示サレ、其覚書中ニ柏木・堀杏（以上二年）
p24	16	5月		伊藤・山中・田中・片岡・川勝・平川・中村（以上三年）モ同意ナレハ、其又盟休脱退スル筈
p24	17	5月		ナリト。
p24	18	5月	一、	十五日校長宅ヲ訪問シテ同盟休校ノ本意ニアラサル事ヲ表明セルモノハ左ノ如シ。
p24	19	5月		予科一年、吉田・原田・石田・高梨・鷺野・谷野・藤本・山田・小谷外ニ一人。
p24	20	5月	一、	徳田隣齋・木島桜谷両氏ヲ往訪シテ上記同様ノ申立ヲナセルモノハ左ノ二名ナリ（十五日）
p24	21	5月		予科二年、岡本・吉田。
p24	24	5月	一、	十四日予科一年藤田氏合田助教授訪問。盟休ハ自分ノ本意ニアラサレハ如何致シ可然哉
p24	25	5月		ヲ尋ネラル。依テ学校教務係へ其由申出テ、諒解ヲ得テ欠席セラル、ヲ可トスト伝へ
p24	26	5月		タリ。藤田□□氏ノ話ニ、外ニ高木氏など六人同意見ナリト。
p24	27	5月	一、	昨日第十四回卒業生井倉彌一郎・前野三郎・佐伯茂ノ三氏山元教授ヲ往訪シ、

p24	28	5月	同先生ノ調停ノ為ニ奮起セラレン事ヲ懇願セリト。
p24	29	5月	一、本日ノ卒業生大会ノ概況次ノ如シ。
p24	30	5月	一、午後三時開会。村上華岳開会理由（生徒ノ盟休ニ至レル今ナレハ）ヲ述べ、便宜上。
p24	31	5月	一、座長ニ土田麦僂氏ヲ推ス一同異議ナシ。
p24	32	5月	一、土田麦僂氏議長席ニ着キ所感ヲ述ヘテ日ク、生徒ハ沈静シテ約二ヶ月辛抱セ
p24	33	5月	シヤ事務局益紛糾シテ解ケス。秋ノ美術季節ヲ前ニ控ヘテ此不安ノ状態ヲ続クルニ
p24	34	5月	忍ズトテ茲ニ同盟休校シテ七教授ノ留任運動ヲ起セシハ事情已ヲ得サルモノト同
p24	35	5月	感ノ次第ナリ云々。
p24	36	5月	一、榊原紫峰氏起チテ述ヘテ日ク、生徒カ同盟休校セシハ其形式ハ必スシモ穩当ト云フヘカラサル
p24	37	5月	モ、其運動ヲ起スニ至レル動機ハ芸術ヲ尊重スル心ヨリ出テ、七教授ノ留任
p24	38	5月	ヲ熱心ニ叫フモノナレハ、後進ノ諸君ニモ此ノ心アルヲ見テ大ニ力強ク思フ云々。
p24	39	5月	一、次ニ福田平八郎・中村大三郎・高谷仙外・瓜生修三郎等交々起チテ
p25	1	5月	賛成ノ意ヲ表明ス。
p25	2	5月	一、土田麦僂決議文ノ起筆ヲ諮ル。異議ナシ。別室ニ於中村・井村・福田・村上・紫峰・土田ノ
p25	3	5月	六氏起筆委員トシテ執筆ス。
p25	4	5月	決議
p25	5	5月	一、我々ハ目下紛糾中ノ母校ニ対シ学生ノ同盟休校ヲ止ムヲ得サル行為ト認ム。
p25	6	5月	一、我々モ学生ノ七教授留任運動ニ賛シ之ガ達成ヲ期ス。
p25	7	5月	大正十三年五月十八日 京都市立絵画専門学校卒業生大会
p25	8	5月	内規
p25	9	5月	一、我々ハ之ガ解決ヲ促進スル為ニ運動ヲ継続ス。
p25	10	5月	一、左ノ委員ヲ選ヒ一切ヲ委任ス。土田麦僂・村上華岳・榊原紫峰・中村大三郎・福田平八郎
p25	11	5月	井村啓三以上六名 以上
p25	12	5月	右了ツテ委員等其運動方法ヲ議ス。其協定ニヨレハ、明十九日市長及校長ヲ往訪スヘシト。
p25	13	5月	十九日 美術工芸学校五年生太田敏夫・上島喜代二・中島清蔵・林一雄四氏一ノ決議文
p25	14	5月	ヲ提出シテ去ラントス。左ノ如シ。
p25	15	5月	決議文
p25	16	5月	吾人ハ従来ノ学校当局ノ浮薄ナル態度及ヒ校規ノ退廃セルヲ遺憾トシ、加フルニ
p25	17	5月	今回ノ絵画専門学校ノ紛擾ハ延イテ生等ニ痛切ナル不安ヲ感セシメ滾々トシテ持續
p25	18	5月	セン事ヲ憂へ、速カニ円満ナル解決アラン事ヲ切望シ、茲ニ慎重ナル態度ヲ以テ同級会
p25	19	5月	議ヲ開キ、沈思熟考ノ結果左ノ条項ヲ決議セリ。希クバ生等一同確固タル結束
p25	20	5月	ヲ以テ目的ヲ貫徹スルノ誠意ヲ諒トセラレン事ヲ。
p25	21	5月	一、吾人ハ此際校長ノ辞任ヲ慮リ理由ノ如何ヲ論セス本校ニ留マラン事ヲ希望ス。
p25	22	5月	一、吾人ハ多年情実ニ流レ退廃セル本校ノ改革ヲ敢行セラレン事ヲ希望ス。
p25	23	5月	一、吾人ハ本校ノタメニ三教諭ノ留任セラレン事ヲ希望ス。
p25	24	5月	茲ニ吾人ハ右ノ目的ヲ貫徹ヲ期シ、飽ク迄結束ヲ固メ以テ茲ニ休校ヲ断シ決行ス。
p25	25	5月	大正十三年五月十九日 第五学年生徒一同
p25	26	5月	京都市立美術工芸学校長殿
p25	27	5月	一、右ニツキ自分ハ上島喜代三氏ヲ糾シテ昨朝四条繩手東入目病地藏堂ニ集会セル事ヲ聞く。
p25	28	5月	暫クシテ太田敏蔵・中島清蔵・林一雄ノ三生モ来会ス。依テ之ヲ説諭シテ休校ノ決議ニ至レル
p25	29	5月	経過ヲ聞カント試ミム一語ヲ発セス。漸クニシテ自分等ハ決議ノ上此決議案ヲ提出
p25	30	5月	スルノ用務ヲ来サンノミ、其他ハ答フルノ自由ヲ有セス。又今日午後一同ヲ連行セヨトノ命ナ
p25	31	5月	ルモ彼等ハ従順ニ之ヲ諾スルヤ否ヲ知ラズト。斯クテ前田教諭モ入り来リ自分ト共ニ
p25	32	5月	一同ヲ喚ヒ来ルヘク勧告スルモ何等ノ応答ヲ発セス。遂ニ四人協議スヘク時間ヲ乞フト。
p25	33	5月	斯クテ相談ノ上答ヘテ日ク、明日総代ヲ出校セシムヘシト。」依テ自分ハ注意シテ日ク、惣代不可ナラス。
p25	34	5月	然レトモ相成ルヘクハ全級来レ会セヨト告ケ置ケリ。
p25	35	5月	一、市役所ヨリ午後四時荒木矩君ノ来庁アル様伝ヘラレタシト多久助役ヨリ電話アリ。
p25	36	5月	一、絵専卒業生委員六人ハ本日午前十時市長ヲ私邸ニ訪問ス。約三時間ニ涉ツテ陳情セリ。市長ハ其
p25	37	5月	意ヲ諒トシ、芸術ト云フモノニ対シ十分ノ理解アル積リナレハ近ク諸氏ヲ満足サスル解決
p25	38	5月	ヲ与フヘシト約セリト。尚同委員ハ明日校長ヲ訪問スヘシト。
p25	39	5月	一、美工校第五年級委員ハ本日午前市役所ニ今村助役ヲ訪ヒ教諭ノ留任ヲ懇請セリト。
p26	1	5月	廿日 絵専研究一年井倉・石原・三輪ノ三名欠席届ヲ差出ス。（十八日付）
p26	2	5月	一、同本科予科二年香川福三出席届出テ来室。
p26	3	5月	一、文部大臣江木千之氏明日入洛帝国大学ニ立寄ラルヘシト。又昨日絵専卒業生大会委員五名（一名欠）
p26	4	5月	校長ヲ往訪スヘク来リシ途中ニテ出合ヒタリ。今夕中井教授ヲ来訪ノ答ト。

p26	5	5月	一、	本科二年河野正利氏ヨリ先日ノ覚書取消ヲ八木教諭迄申出タリ。
p26	6	5月	一、	京都日々社記者徳見氏ヨリノ電話ニ、絵専卒業生大会委員ハ市長ノ解決案ハ芸術家ヲ満
p26	7	5月		足セシムルモノニアラサルヘシト観測シ更ニ校長ノ自決并ニ予ニモ他ノ職員ト共ニ辞表ヲ纏メテ提
p26	8	5月		出シ先ツ美工ヲモ休校状態ニ陥レ、校長ノ自決ヲ促進セシメントスル運動ニ開始スルモノト
p26	9	5月		観測セラルト注意アリタリ。之ニヨリテ考フレハ彼等委員ハ徳田・柴原・二宮・佐野
p26	10	5月		ヲ説キ、川本氏ハ敵父重態ノ故ヲ以テ自然欠勤、結局川北氏一人絵画科ニ留マル事ト
p26	11	5月		ナルヘク画策スルナランカ。斯クテハ絵画科ノ授業不可能トナルヘケレハ自然休業ヲ発表
p26	12	5月		セサルヘカラサルニ到ルヘキカ。嗚呼何ハ兎モ角、市長ノ「速ニ解決」セラレン事ヲ望マサルヲ得ス。
p26	13	5月	一、	夕六時太田敏夫・上島喜代蔵・山中正一ノ三氏予ノ私宅ニ来リ日ク、五年ノ有志学校ニ
p26	14	5月		来リテ先生ニ会见セン事ヲ希望セリ。御出校ヲ乞フ。予之ヲ諾シ、直ニ出校ス。前田教諭
p26	15	5月		ニモ之ヲ告ケタリ。同教諭モ出校ニ付、二人ニテ生徒十四名ト会见ス。其氏名次ノ如シ。
p26	16	5月		(絵画科) 太田・上島・津田・中島・三宅・稲垣・東谷
p26	17	5月		(図案科) 林・岸田・山中・中島・三宅・梅村
p26	18	5月		其大要次ノ如シ。林日ク、昨日提出セシ書類ハ校長殿へ御渡ヲ願ヒシモノニシテ他ノ先生方
p26	19	5月		ニ御覽ヲ乞ヒシモノニアラン。且ツ之ヲ校長殿ニ御渡ナキ理由如何ト。
p26	20	5月		上島日ク、今夜先生ト自分等トハ如何ナル資格ニテ会见スルモノト解スヘキヤ。
p26	21	5月		右ニ対シ自分ヨリ答弁ヲ与へ、林氏ノ問ニ対シテハ学校官署ノ事務取扱ノ■
p26	22	5月		ハスクスヘキ規定ナリ。又之ヲ校長ニ手交セサリシ所以ハ昨日四人ノ総代ニ告ケテ
p26	23	5月		其諒承ヲ得タルモノナリ。其理由ハ文中不心得ノ文句アリ。故ニ之ヲ公然取扱フハ
p26	24	5月		不憚ナリト思意セルニ外ナラス。上島ノ問ニ対シテハ君等ハ五年生ハ自分ハ職員ノ
p26	25	5月		一人、尚自分ハ五年ノ担任教師ト解セラレテ宜シ。又今夜ノ来会ハ
p26	26	5月		昨日自分ヨリ四人ノ総代ニ申入レテ諸氏ノ来校ヲ希望シ自分ヨリ訓戒シ度ク予約
p26	27	5月		セシモノト承知アリタシ。次ニ自分ヨリ決議ノ不心得ナル点ト道理アル点トヲ分解シ
p26	28	5月		諸氏ノ現状同情スル事ヲモ述へ、此場合決議文ヲ撤回シ穩ニ校長ト会见シ
p26	29	5月		テ其希望ヲ述フル事、或ハ決議文中ノ結束休校ノ四字ヲ抹消シテ校長手許
p26	30	5月		ニ提出スル事ノ二法ノ内ヲ採ルヲ穩當トスト述ヘタリ。
p26	31	5月		之ニ対シ生徒側ハ自分等ノ決議ハ絵専校ノ盟休ト期日ノ殆ント同シキヲ以テ
p26	32	5月		絵専校ノ盟ニ倣ヘルモノト誤解セラル、ヲ遺憾トスト。山中氏ヨリ述へ且ツ今夜ノ先生ノ御話ハ十分
p26	33	5月		了解シ先生ノ温情ニ感謝スレハ、今夜ハ之ニテ一同
p26	34	5月		退出シ明日全級生徒ニ之ノ旨ヲ伝ヘテ相談セント。津田氏ノ挨拶アリテ一同
p26	35	5月		退散セリ。時ニ午後八時三十分。
p26	36	5月	廿一日	一、
p26	37	5月		江馬務氏ノ談、昨夜片岡芳太郎来訪。盟休ノ趣旨ヲ布衍シテ日ク、校長ノ態度ニ
p26	38	5月		敬服セリ必ス本校ニ踏止ラン事ヲ希望ス、又七教授モ是非留任セラレタシ、専門学校
p26	39	5月		学科目中ニ高二三ノ学科(例へハ英語及第二外国語など)ヲ増サレタシ、他ノ諸先
p27	1	5月		生ニ対シテハ何等ノ意思阻隔ナシ、尚今後モ学校ノ為メニ尽サレン事ヲ望ム。目下ノ
p27	2	5月		現状ニ対シ卒業生及自分等ハ解決ノ促進ニ向ツテ運動ス。在留ノ諸先生モ之ニ一臂
p27	3	5月		ノ力ヲ尽サレタシ等ノ希望ヲ述ヘラレシ。江馬氏ハ休校生徒ハ欠席届ヲ提出シテ
p27	4	5月		事件ヲ穩カナル方ニ向ケラレン事ヲ希望スト告ケラシ。片岡生モ大ニ諒承シ同級友ニモ此事
p27	5	5月	一、	五年生昨日ノ決議文ヲ市長ニ提出シ
p27	6	5月		又三教諭ニ会见シ、昨日ハ各新聞社ヲ訪ヒシ由ニテ、今朝ノ日出、朝日、毎日
p27	7	5月		ノ各新聞本紙面ニ決議文ヲ記載セラル。
p27	8	5月	一、	十九日村上華岳氏ハ廿日榊原紫峰氏各校長ヲ往訪セリト。
p27	9	5月	一、	午後川畑警察署高等係長税所警部補及高等視察係主任原田実治両氏来校。美
p27	10	5月		工校第五年生盟休事件新聞ニ記載セラレタルニヨリ実情取調ニ来校ス。税所警部補
p27	11	5月		ハ十五日朝給専生徒ノ東洋花壇ニ集マレル時警戒ノ為メ出張シ生徒ノ相談相
p27	12	5月	一、	手トナリシ人ナリ。
p27	13	5月	一、	徳田隣齋君ヨリ二宮・柴原・川本ノ三氏ト共ニ連袂辞職スヘキ考ヲ有スル旨話サル。
p27	14	5月	一、	此ノ起原ハ二宮氏ヨリ始レル提議ニシテ入江氏ヨリ勧告セラレタル如シト。
p27	15	5月	一、	佐野一星氏ハ徳田氏ヨリノ勧告ニ対シテハ否ム事能ハサルモ自分ハ不条理ト考フ。徳田氏等
p27	16	5月	一、	ノ連袂辞職ハ廿五日ト推定セラルト。
p27	17	5月	一、	荒木君ヨリ使来ル、往訪ス。一昨日多久助役ノ招キニテ市庁ニ赴シ時市長ヨリ善後策ニ
p27	18	5月		ツキ相談セラル。多久助役トモ此件ニツキ協議セリ、併シ名案ナシ。談話中校長ハ辞
p27	19	5月		表ヲ提出セラレタル様ニ聞ケリ。事実如何ト。予知ラサル旨ヲ答フ。又日ク絵専
p27	20	5月		卒業生大会ハ職員会ノ議決ニ「主唱者ヲ取調ヘテ処罰ス」トアリシ由ニテ、卒

p27	20	5月	業生ハ盟休生ヲ助ケン為メ急キ大会ヲ開キシモノニシテ活版ニ附スルノ暇ナク筆写セシ
p27	21	5月	ナリト。其職員会ノ模様（江馬君ハ主唱者ヲ取調フル任ヲ引受タリト）并自分カ神
p27	22	5月	阪氏ト密談セシ事アリシナト、一々卒業生及盟休生側ニ漏レ居レリト。
p27	23	5月	之レ甚タ誤聞ニシテ主唱者ヲ取調ヘ盟休ヲ緩和セントノ議ヲ決セシモ、処罰ニ関シ
p27	24	5月	テハ今ニ何等ノ問題アリシ事無シ。又予ト神阪君トノ密話ハ五年生ノ盟休ニツキ
p27	25	5月	其状態ヲ報告セルモノニシテ当時ハ之ヲ秘密ニセシナリ。
p27	26	5月	一、五年生総代ヨリ電話ニテノ通知ニ「昨夜ノ訓戒ハ委細報告セシモ、一同ハ依然態度ヲ
p27	27	5月	変セス。決議文ハ其俣校長ニ手交サレタシト。其電話口ノ名ヲ問フモ答ヘス。唯五年
p27	28	5月	生一同ト云フノミニテ左様ナラトテ電話ヲ絶ツ。後ニ聞クトコロニヨレハ、午後五時頃五年生拾一
p27	29	5月	名藤代校長宅ニ至リテ陳情セリト。
p27	30	5月	廿二日 ・ 校長出校ニ付、五年生ノ決議文ヲ手交ス。校長ノ話ニ二宮・柴田両氏午後五時頃岐美氏ヲ往訪
p27	31	5月	シテ辞表提出ノ議ヲ相談セル由ナリト。又日ク、市長ノ調停策モ一頓
p27	32	5月	挫セルモノ、如シト。又日ク市長ハ嘗テ七教授ニ明言シテ必ス退職ヲ許可セスト
p28	1	5月	語レル由。市長ハ人ヲ介シテ某翁ニ解決ヲ相談セリト。
p28	2	5月	一、竹内栖鳳君ヨリ森君電話ニ、昨日使丁ニ御持タセノ俸給ハ毎月ノ例トテ林氏受
p28	3	5月	取預リ置キ今朝栖鳳先生ニ御渡シセシニ、出勤セスシテ俸給ヲ受取ル理由ナキニヨリ
p28	4	5月	本日分及先月分トモ御返シ申渡ニ付、小使ヲ差向ケラン事ヲ乞フト。
p28	5	5月	依テ鈴鹿君ニ謀ル。同君日ク、西山君ハ同様受取ル事ヲ拒マル、併シ今朝電話ニテ同夫人
p28	6	5月	ニ委細ヲ告ケ法規上御受取ルヘキモノナレハトテ御渡セリ、西村君ハ不在ナレハ受取ル事
p28	7	5月	ヲ得ストテ固持セラル。
p28	8	5月	一、金九円七十八銭（高野嘉七氏名前ノ分）中七十八銭ヲ出シテ職員室ニテ一同茶菓ヲ用ユ。
p28	9	5月	一、市視学吉村辰造氏来校。
p28	10	5月	一、竹内栖鳳先生ニ電話シ林平六君告ケテ日ク「先生ノ俸給ハ御出勤ノ如何ニ拘ラス在職中
p28	11	5月	ハ御受取リアルヘキ規則ナル事ハ御承知ノ事ト存シマス。今之ヲ御返アルモ学校ニテハ如
p28	12	5月	何トモ致様ナク、市役所へ返還ストモ市役所ハ勿論受取ラサルヘク、去リテ理由ナク
p28	13	5月	学校ニ預ル事能ハサルノミナラス学校ニハ金庫モナキ事ナレハ会計書記モ迷惑致ス
p28	14	5月	ヘケレハ、何率其俣ニ願マス」ト申入レシニ、「西山・西村等ノ諸氏ハ如何ナサレシヤ」トノ問ニ
p28	15	5月	対シ上記ノ通り答ヘシニ先生ノ御話ニ「然シ諸氏ハトモアレ自分ハ受取ルヘキモノニアラスト
p28	16	5月	思フニヨリ、此意ヲ御承知下サレ度、現金ハ当分御預リ置申ス」ト話サル。
p28	17	5月	一、市視学吉村辰造氏来校。五年生盟休ニ付取調ヘラル。
p28	18	5月	廿三日 ・ 校長ヨリ電話ニ、内貴翁ノ談話モ未タ最後ノ案ニ到達セス市長ト内貴翁トノ間モ
p28	19	5月	連絡ナキモノ、如シト。
p28	20	5月	一、教育之日本社記者松尾忠治氏来校。目下ノ問題ニ関シ聴取セン事ヲ求メラル。概略
p28	21	5月	ノ日記ノ一部分ヲ語り、他ハ何等私見ヲ避ケタリ。
p28	22	5月	一、吉村視学ヨリ電話ニ、美工校ノ四年以下モ動揺ノ模様アリト京華日報？ニアリ
p28	23	5月	ト事実如何。又五年生ニ対シテハ此際手厳シク警告シ、若シ服セサレハ嚴重
p28	24	5月	ニ処罰セラレタシ。万一、文部省或ハ府庁ヨリ警告ヲ受クル如キ事アラハ悔ユトモ
p28	25	5月	及ハサルヘシト思フ。絵専校ハ欠席ストモ写生等ニテ自修スルノ方便アルモ、美工校ハ
p28	26	5月	到底休業欠勤ヲ寛暇スル理ヲ認メスト申込タル。
p28	27	5月	若シ職員ニ対シテ世間ノ反感ヲ受コトアラハ、市当局ト十分ニ辯護ニ当ルヲ辞セスト。
p28	28	5月	一、午前十時頃ヨリ荒木矩君来校。辞職ニツキ挨拶セラル。同君ハ昨日モ本日モ多久助
			役ト会見セラル、由、話ノ中ニ聞ケリ。
p28	35	5月	一、明後廿五日（日曜日）午前九時美工五年生保証人ヲ召集スル事ニ決セリ。
p28	36	5月	一、夜、校長ノ出校ヲ請ヒ、江馬・八木・平野・前田・西海及堀ノ六教諭ト五年生盟休
p28	37	5月	ニ関シテ次ノ通り協議セリ。
p29	1	5月	二、保証人会ニハ校長ヨリ左ノ意味ノ話アル事。
p29	2	5月	一、目下美工五年生受持教師中、辻・西村二氏教諭受持ノ絵画実習ハ川北教諭ニ
p29	3	5月	代理セシメ、中井講師受持ノ美術工芸史ハ千熊教諭ニ代講セシメ居レルヲ以テ生徒ニハ
p29	4	5月	何等ノ不利ヲ与ヘス。殊ニ図案科彫刻科漆工科ノ如キハ唯一週ニ二時間ノ中井講
p29	5	5月	師ノ美術工芸史ノミ補講セルノミナルニモ拘ラス不安トカ学校風紀頗廢ノ改
p29	6	5月	革トカノ名ノ下ニ盟休スルハ甚タ不穩当ナル行動ナリ。
p29	7	5月	二、之ニ対スル保証人ノ御考如何。又生徒ノ本意如何。
p29	8	5月	三、明廿六日午前八時出校平常ノ通り授業ヲ受クル様取斗アリタシ。
p29	9	5月	四、万一病氣若クハ差支アラハ盟休ニアラサル旨ヲ記入セル欠席届ヲ差出サレタシ。
p29	10	5月	五、右ニ述ノ何レカノ方法ヲ取ラサルモノハ已ムヲ得ス相当ノ処分ヲナス考ナリ。

p29	11	5月		六、出校ノ途、他生徒ノ為ニ阻止セラル、事アラハ其顛末及強迫セル生徒ノ氏名ヲ本校ニ届出ラレタシ。
p29	12	5月		七、校則第廿四条第三十条ハ此際御一読ノ上生徒ニ御訓戒アリタシ。
p29	13	5月		八、懇話会。
p29	14	5月		一、保証人会ニ於テ校長ヨリ盟休ニ関スル経過ノ概略ヲ話サル、モ必要ナランカ。
p29	15	5月	一、	保証人会ノ効果如何ニ氣遣ハシ。依テ次ノ覚書ヲ議定セリ。
p29	16	5月	三、	一、廿六日五年生全部ハ多数出校ヲ肯セサル時ハ此等ノモノニ対シテ無期停学ニ処スル事。一、校内ニ掲示。二、停学通知書ハ小使ヲシテ配達セシメ認印ヲ取ル事。
p29	17	5月		二、停学中ニ改校ノ望ナキモノハ(約十日間位?)退学処分ニス。
p29	18	5月		三、退学処分後卒業生或ハ四・三年等在校生ヨリ退学取消運動ヲ起ストモ本人ニシテ真ニ改校ノ実ヲ挙ケサル限り決シテ復校ヲ許サス、場合ニヨリテハ全校生徒ニ退学ヲ命ジ一時閉校スル事モ止ムヲ得サルヘシ。
p29	19	5月		四、職員中、正当ト認ムヘキ理由ナク(實際ニ)欠勤セルモノ、若クハ連袂辞職セルモノハ速ニ退職許可ノ方法ヲ執リ、一時閉校スル事モ亦止ムヲ得サルヘシ。
p29	20	5月		
p29	21	5月		
p29	22	5月		
p29	23	5月		
p29	24	5月		
p29	25	5月	廿四日	・ 市視学吉村氏ヨリ召喚ニ付、市役所へ出頭。(十一時半)五年生盟休ニ対スル打合ヲナス。
p29	26	5月	一、	午後猪飼・岐美・柴田・二宮・伊吹ノ各氏ト協議シ諸氏ノ名ヲ以テ図案科五年生ヲ召集シテ懇談シ絵画科ノ行動ヲ分ツ事ニ尽力スル事ニ協議ス。
p29	27	5月		
p30	4	5月	廿四日	・ 市視学亀田氏ヨリ学校移転改築ニ付、本校ノ希望スル条項ハ来ル廿六日午前十時ニ市建築課長安立氏迄申出アリタシトノ電話アリ。依テ校長ニ諮ル。
p30	5	5月		校長ノ話ニ、先般移転改築案議決ノ節、本校ヨリ委員ヲ出シテ市ノ関係者ト協定スル様申出ヲシニ、市長ハ当方ヨリ何分ノ申出アル迄委員ノ撰定ヲ見合ハセラレタシトノ事ニテ今日迄来レルナリト。依テ安立氏ニ電話シ、校長ト市長トノ申合せ及目下休校ノ状態ナレハ当分延期アル様申入レ承諾ヲ得タリ。
p30	6	5月		
p30	7	5月		
p30	8	5月		
p30	9	5月		
p29	28	5月	廿五日	・ 午前九時保証人会ヲ開ク。(午前十時)来会者廿五人。(外ニ欠席届三人)
p29	29	5月		五年生盟休ニ対スル善後策ヲ諮ル。横田・荒木・五辻・岡本(磯田ノ保証人)等ノ各氏ノ動議ニテ明日午後二時生徒同道三者懇談スル事ニ決セリ。
p29	30	5月		依テ本日欠席ノ保証人へ此旨ヲ通知ス。校長・江馬・八木・平野・前田・堀出席。
p29	31	5月		一、 絵画科受持徳田・川本・柴原・佐野及国安・江馬長閑・千熊ノ諸氏へ葉書ヲ出シ、明日協議会ヲ開ク事ヲ通知ス。
p29	32	5月	一、	保証人会後、三宅・江本(理ノ兄)ヨリ明日生徒同道ノ無理解(人格ヲ無視スルト)ニツキ異議ヲ申入ラル。併シ保証人会退散後ニテ致方ナシ。三宅氏ノ日ク、明日生徒ニ盟休ノ理由并主張ノ説明ヲ聞カントノ保証人ノ希望ナルモ、是レ不可能ノ事ニテ斯クノ如キ席上ニ生徒ヲ連れ来ル事ハ可哀想ヲ取扱ナリ云々。尚明日ハ生徒ノ決議要項ニ対スル学校当局ノ意見ヲ承ラン云々ト。
p29	33	5月		
p29	34	5月		
p29	35	5月		
p30	1	5月		
p30	2	5月		
p30	3	5月		
p32	19	5月	廿五日	・ 美工五年生ハ保証人会ニ出席ノ保証人ニ対シテ「パンフレット」ヲ配布セリ。其要点点次ノ如シ。
p32	20	5月		
p32	21	5月		私達ガ此度事ヲ為シマスノハ決シテ輕拳妄動ニ出タ事テハナク・・・私達ハ正義ノためニ自己ハナイモノダト覚悟シテ居ルノデ御座イマス・・・
p32	22	5月		余リニ当局ノ話ニノミ耳ヲ傾ケラレナイ様ニ御願申上マス・・・
p32	23	5月		然ルニ今迄ノ学校ノ教授法ノ中ニハ世に云フ間ニ合ハセ主義ガ往々アリマシテ生徒ニ対シテ懇切ナル教師デハナカッタ様ニ思ハレマス。
p32	24	5月		
p32	25	5月		
p32	26	5月		五月廿四日 五年級一同
p32	27	5月		父兄並保証人殿
p30	10	5月	廿六日	・ 市視学城野氏ヨリ美工校五年生ノ盟休ハ今明日中ニ解決セサレハ監督官庁ヨリ何等ノ方法ヲ取ルヤモ斗ラレス、依テ至急解決ヲ講セラレタシト。
p30	11	5月		依テ昨日今日ノ保証人会来ル水曜日ノ図案科生徒ト図案実習受持トノ会見ノ計画及本日ノ職員会ノ催ヲ告ク。
p30	12	5月		
p30	13	5月		
p30	14	5月	一、	吉村視学ヨリ昨日ノ保証人会ノ模様ヲ尋ネラル。
p30	18	5月	一、	午後一時ヨリ職員会ヲ開キ五年生盟休ハ絵画科ハ絵画実習教師ニテ、図案科図案実習教師ノミ、彫刻漆工兩科モ同様各別ニ明後十八日受持生徒ヲ召集シテ説諭スル事トモ夫々葉書ヲ発セリ
p30	19	5月		
p30	20	5月		
p30	21	5月	一、	保証人会ハ午後二時ヨリ開会。各自生徒(被保証)ヲ同道シ講堂ニテ其意見ヲ聴取スル事トセリ。来会者ハ殆ント五年生全部ト保証人ハ上島・林・山中等四五人ヲ除ク外全部参集ス。生徒側ヨリハ上島・林一雄等?夫々意見ヲ述へ、保証人側ヨリハ岡本猶吉・江本軍太郎・大八木春暁・五辻健吉・木村捨次郎・梅村浅太郎ノ六氏。
p30	22	5月		
p30	23	5月		
p30	24	5月		

p30 25 5月
p30 26 5月
p30 27 5月
p30 28 5月
p30 29 5月
p30 30 5月
p30 31 5月
p30 32 5月
p30 33 5月
p30 34 5月
p30 35 5月
p31 1 5月
p31 2 5月
p31 3 5月
p31 4 5月
p31 5 5月
p31 6 5月
p31 7 5月
p31 8 5月
p31 9 5月
p31 10 5月
p31 11 5月
p31 12 5月
p31 13 5月
p31 14 5月
p31 15 5月
p31 16 5月
p31 17 5月
p31 18 5月
p31 19 5月
p31 20 5月
p31 21 5月
p31 22 5月
p31 23 5月
p31 24 5月
p31 25 5月
p31 26 5月
p31 27 5月
p31 28 5月
p31 29 5月
p31 30 5月
p31 31 5月
p31 32 5月
p31 33 5月
p31 34 5月
p32 1 5月
p32 2 5月
p32 3 5月
p32 4 5月
p32 5 5月
p32 6 5月
p32 7 5月
p32 8 5月
p32 9 5月
p32 10 5月

廿七日

之ヲ辨疏訓戒シテ遂ニ該六氏ハ保証人会交渉委員トシテ斡旋セラル。

生徒側ノ申分ハ所謂校風刷新ト称スル陳情書ノ各項ヲ述ヘ、且ツ盟休ハ決議文第一項ト背馳スルモノニ非スト信ス校長ハ決シテ辭職スル決心ナシト明言セラレ又盟休ノ為ニ校長ノ引責辭職ナドハ決シテ有リ得ヘキ事ニアラス。唯校長ハ表面的ニハ苦シキ立場ニ立ツノミニテ職務上ニハ何等ノ御迷惑ナシ。却テ吾々ノ結束ハ校長ヲ後援スルカアルモノト信スト。陳情書ハ廿三四日頃校長ノ手許ニ郵送サレシモノ(?)ニシテ其要点左ノ如シ。

- 一、荒木教諭ハ多年自由主義ヲ標榜セラレナカラツトシテ実行ヲ見ズ、却テ当面主義間ニ合ハセ主義デス。
- 二、実習ノ先生ニハ一種ノ型ガアリマス。一例セハ欠席多キ事又教ユル人ト採点スル人ト別人ナル場合モアリマス事等。
- 三、運動ハ庭球擊劍ノ二種ノミデソレモ圧迫セラレ、他ノ運動器具ヲ携帯セハ直ニ没取セラル、事モアリマス。
- 四、教師ト生徒トノ間ニ隔リガアリマス。故ニ卒業スレハ全ク他人ノ如キ疎遠トナリマス。学科教師トハ常ニ親ミカケテ居リマスカラス、自分等ハ常ニ不安ナ氣持ニテ教場ニ居リマス。唯一ノ望ミトシテ実習ノ為メニ学校ヘ出席シテ居リマス。
- 五、絵專教授及自分等ノ三教諭ガ辞表提出シテ欠席サレテモ何等自分等ニ語り聞カセズ、私等ノ人格ヲ無視セルモノト考ヘルノ外ナイ。
- 六、以上ノ学校ノ校規頗廢ニ関シテ学校当局ハ何等ノ反省モナサズ其假ニセラル、ハ私等ノ不安ヲ感スル所以ナリ。故ニ藤代校長ヲ信賴シテ革清ヲ望ム。而シテ之ヲ達成スルニハ休校スルヨリ外ナシト。

・保証人側ヨリ之ヲ説明シテ、休校ハ校長ヲ窮地ニ陥レ学校ニ在任スル事ヲ妨クモノナリ。故ニ校長ノ留任ヲ欲セハ休校ヲ思ヒ止マラサルヘカラス。又校規ノ革清ハ校長ヲ信賴シテ今後ノ達成ヲ托セラレヨ。又間ニ合ハセ主義トカノ問題ニ至ツテハ一応学校側ト交渉スヘシトテ、委員六氏ハ校長室ニ来リ。校長并江馬・八木・平野・前田・西海・堀ノ列席ノ間ニテ以上ノ報告アリ。

・学校側ヨリハ所謂間ニ合ハセノ学科即美術史及法政經濟ノ三時間ハ当分休講シテ実習時間トスル事ニ承諾ヲ与ヘタリ。(一委員五辻氏ハ、五年ノ学科全部ヲ当分休講スル様生徒側ノ希望ナリ。其理由ハ学科目中生徒ガ快ヨク受クル能ハサル学科アリ。之ヲノミ休講トスル希望ヲ提出スルハ不穩当ト思フニヨリ学科全部ト申スナリト。生徒ノ希望ヲ伝ヘラレ折角妥協点ニ近キシモノヲ此点ニテ再ヒ不調ニ終ラシムルハ残念ナリト述ヘラル。併シ之ハ採用シ難シト学校側ヨリモ他ノ委員ヨリモ主張セリ。)次ニ保証人ヨリ休校生徒ノ処罰ニツキ学校ノ御考如何ト。自分ハ之ニ答ヘテ、今日迄ハ之ノ件ニツキテ何等考ヘ居ラス、追テ協議ノ上御考スヘシト。保証人(岡本氏)之レハ今回ハ穩便ニ願ヒ度シ。生徒側モ之ニ対シテ一人ノ処罰ヲ受クル者無キ様確保ヲ得タシト希望セリ。故ニ此点ハ学校ヨリモ御談歩セラレタシ。然ラスハ妥協覚束ナシト。以上ニ学科ヲ当分休講スル事、処罰セサル事ノ二点ヲ校長ヨリ生徒ニ明言セラルレハ、明日ヨリ出校スル事二十分ノ尽力ヲナサント。

・スクテ生徒側ハ全学科ノ休講及五年生ノミナラス他ノ学年ヘモ同様ニセラレタキ旨主張(他学年云々ノ意味不明)セルモ、岡本氏ハ之ヲ叱シテ其無礼ヲ戒メ、漸ク妥協点ニ入ル。

・校長ハ五年生ニ対シテ、二学科ノ休講并ニ陳情書中ノ各条ハ自分ノ在任中ニハ十分力ヲ尽スヘシト述ヘ、明日ヨリ出校ノ事ニ相談纏マル。

・但シ、生徒ノ申ニハ、明日ハ市長及新聞記者ニ盟休解散ノ理由ヲ通知スル等ノ為全部ノ出校ハ明後日ヨリ実行スル旨ヲ話サレ、之ヲ諒トシテ閉会ス。(午後八時ナリ)

- 一、荒木氏来校。明日ヨリ痔病治療ノ為入院スヘシト。

・市視学ヘ昨夜ノ結果ヲ通知ス。吉村視学日ク、大ニ生徒ヲ褒メテ遣リ給ヘ」ト。

- 一、川上英明氏辭職ニ付挨拶ニ来校。 一、高畑彦次郎君来校。
- 一、午前校長ヨリノ電話ニ、昨夜ノ妥協案ノ項中、生徒ヲ一団ト見做シ其中ヨリ主謀者ヲ提ケテ処罰スル事ヲ為サル事ニ同意ヲ与ヘタルハ教諭諸君ノ大ニ不備トセラル、所ナランモ、保証人ノ面目ヲ保ツ上ニ於テ已ムヲ得サル条件ナル事ヲ諒トセラヨ、又昨夜十時半頃市長ヨリ問題解決ノ一端ニ着キケル旨報知アリト。

解決ノ程度ハ如何固ヨリ秘密ナリト雖モ、二宮氏ヨリノ内話ニ栖鳳君ト校長トノ二者ノ退職ヲ以テ一段落結フモノ、如シト。嗚呼。

- 一、午後井村啓三氏ヨリ電話アリ。明日午後二時卒業生大会ヲ開キ大会委員ヨリ

p32	11	5月	経過報告ヲナシ度キニヨリ講堂ヲ借用致度ト。承諾ヲ与フ。同氏ノ話
p32	12	5月	ノ中ニ問題モ解決ニ近キシニヨリ云々ト。
p32	13	5月	一、之ヲ校長ニ報告シ其同意ヲ得タリ。校長ノ話ニ、只今毎日新聞記者（小林？）
p32	14	5月	ノ話ニ問題ハ愈栖鳳氏引退ニヨリテ終結ヲ告グル事トナレリト卒業生大
p32	15	5月	会委員ノ報告アリ。之ニ対する貴下ノ御意見如何ト申入ラル。併シ自分ハ之ニ対
p32	16	5月	ヘテ日ク。市長ニ一任セル以上之ニ意見ヲ述フル事ノ不穩当ト思フト。
p33	20	5月	廿八日 一、荒木矩氏来校。明日ヨリ痔ノ手術ヲ受ケル予定ナリト。
p33	21	5月	一、本日午前？絵専生徒ハ吉田山東洋花壇ニ集合シ盟休ヲ解ク事ヲ決シ、校長
p33	22	5月	及市長ヘ書面ヲ以テ通知セリト。
p33	23	5月	一、本日午後二時ヨリ卒業生大会ヲ開ク。（講堂）辞表提出教授モ留任ヲ承諾セラレタル
p33	24	5月	ニ付其経過ヲ報告スル為ナリト。
p32	28	5月	廿九日 ・ 午前八時、五年生ニ対シテ訓戒ヲ与ヘ、盟休ノ不心得ヲ自覚セルヤ否ヲ尋ネ一同其不
p32	29	5月	都合ナリシ事ヲ確認セルヲ見、次ニ之ニ対シテ校長ニ謝罪ヲ申出ツル意
p32	30	5月	者ナキヤヲ問ヒ、一同之ヲ承セリ。午前十一時校長ノ出校ニ付、五年生一同ヲ校長
p32	31	5月	室ニ導キ上島氏總代トシテ謝辞ヲ述ヘ、校長ヨリ訓戒アリ。
p32	32	5月	・ 校長ノ話ニ、山元春拳氏ニモ市長ヨリ辞書勧告アリテ同意セラルト。
p32	33	5月	又本日午後、両校盟休生徒及七教授（実ハ三教授、一助教授、三教諭）ヲ集メ、
p32	34	5月	市長代理多久助役ヨリ訓示アル旨ニ付、其時間ノ都合如何ト。
p32	35	5月	右ニ付、榑原紫峰ニ電話シ、午後二時ニ一同来校ノ事ニ取斗ヒツ、アル旨ヲ聞き、
p33	1	5月	其旨校長ヨリ多久助役ニ報告セララル。
p33	2	5月	・ 午後三時過、多久助役ヨリ六氏ニ辞表ヲ返却セラレ引續キ講堂ニ於テ市長ノ
p33	3	5月	訓示ヲ聞ク為メ、盟休生徒・卒業生總代・在校職員・都路・中井・菊池・西山
p33	4	5月	・西村・入江ノ六氏及多久助役・城野視学列席。（神阪教諭列席ヲ差控ラル）
p33	5	5月	一、市長ノ訓示（多久助役演述）（生徒ノ盟休ニ付訓戒。六氏留任ト卒業生ノ尽力ヲ謝シ、竹内山元兩
p32	6	5月	教授ノ退職ハ已ムヲ得サル旨トヲ述ヘラル）
p33	7	5月	二、中井教授ノ謝辞（再ヒ諸君ト此講堂
p33	8	5月	ニ会スル事能ハサルモノト確信シタルモ、生徒并卒業生ノ熱心ナル御希望ニヨリ再ヒ出校ス。今後ハ
p33	9	5月	一層勉強スル積リナリ云々）
p33	10	5月	三、土田麦僊ノ謝辞。
p33	11	5月	四、大島竹松氏ノ謝辞（校長ニ謝罪、六教授ニ感謝、卒業生委員ニ感謝）
p32	12	5月	五、堀教諭ノ謝辞并歓迎ノ辞（市長ノ斡旋ヲ感謝シ、次ニ六氏ノ復職ヲ歓迎スルノ意、并
p33	13	5月	竹内教授引退ノ遺憾ナル事及機ヲ見テ復職ノ為メニ御尽力
p33	14	5月	ヲ乞フ旨ヲ述フ）
p33	15	5月	右午後三時四十分閉会。
p33	16	5月	一、川本修君嚴父告別式アリ不参ス。 一、勝田哲三氏ヨリ六月一日講堂ヲ借用。卒業生大会委員
p33	17	5月	及ヒ絵専生徒ノ慰勞茶話会ヲ開キタシト。
p33	18	5月	一、午後五時、城野視学ト同道。市役所ニ多久助役ヲ訪フ。
p33	27	5月	三十日 ・ 本日ヨリ中井教授出勤。授業セララル。
p33	28	5月	一、午後川端署刑事（原田氏？）来校。両校生徒ノ盟除ヲ解ケル
p33	29	5月	理由并ニ確實ニ出席セルヤ否ノ質問事、主謀者ニ対スル
p33	30	5月	処罰ニツキ学校ノ方針、竹内・山元兩教授引退ノ實際ノ事情、第二次ノ紛擾ヲ
p33	31	5月	惹起スル所ナキヤ等ヲ尋問セララル。
p33	32	5月	之ニ対シ、美工五年生ハ、盟休ハ校長ヲ後援スルニ有力ニシテ、決シテ校長ニ迷惑ヲ掛クルモノ
p33	33	5月	ニアラスト信セシノ誤ヲ悟リテ出校。絵専生徒ハ、六教授ノ復職承諾ニヨリテ出校。
p33	34	5月	主謀者ヲ処罰セサル方針、其理由ハ盟休ノ目的ハ校長援護、此校長ニヨリテ
p33	35	5月	校風刷新ノ希望、辞表提出教授ノ留任ニアリテ一点ノ排他主義ヲ見認メサルニヨル。
p33	36	5月	竹内・山元兩氏ノ引退ハ他動的ニアラスト、全ク自発的ナリ。第二次ノ紛擾ハ万起ル
p33	37	5月	事ナカルヘシト答ヘ置ケリ。
p33	38	5月	一、荒木矩氏ノ特別慰勞金給与ニ付、内申ヲ起草ス。校長ヘ差出ス。
p33	39	5月	一、美工校五年生ノ保証人会ニ於ケル委員六氏ヘ礼状ヲ起草ス。校長ヘ差出ス。
P34	1	5月	一、合田一峰君・徳田隣齋君ヨリ必親展ノ書類ヲ受取ル。
P34	2	5月	一、市視学亀田氏ヨリ竹内栖鳳・山元春拳兩氏ノ履歷書及栖鳳氏ノ勲記番号
P34	3	5月	ヲ至急シテ送附セル（本日中ニ）ト。早速竹内先生ニ申入ル。夜九時ニ至ルモ勲
P34	4	5月	記ノ所在明カナラス。
P34	4	5月	三十一日 ・ 竹内・山元兩氏ノ履歷書ヲ亀田視学ヘ送ル。

P34	5	5月	一、保証人会委員へ礼状ヲ送ル。 一、城野視学午後二時半来校都路西村両氏絵専校
P34	6	5月	教授ニ転任ノ手續中ナル旨ヲ話サル又土田
P34	7	5月	麦隣、福田平八郎・中村大三郎三氏任用ノ
P34	8	5月	予定ノ由話サル。
P34	9	5月	一、新任書記未タ辞令ニ接セス。依テ金五円ヲ贈ル。
P34	10	5月	一、本校職員全部ノ履歴書ヲ徴セラル。(六月六日迄ニ提出ノ事)本日提出。(事務所へ)
P34	11	6月	六月二日 一、豊岡子爵ヨリ依頼ノ華族会館備品、卓・香炉・香合ニ付督促セラル。依テ
P34	12	6月	岩村氏ニ照会シ。「本月中ノ見込ナルモ七月十五日迄ナレハ確実ニ出来」ノ旨返事ス。
P34	13	6月	一、徳田隣齋君ヨリ若冲鶏模本返納セラル。又三十日夜接手ノ書類ハ校長へ提出
P34	14	6月	セル様申入ラル。
P34	15	6月	一、木村重次郎氏五月三十一日付ニテ本校書記兼絵専校書記ニ任セラル。
P34	16	6月	一、川上英明氏来校。一、松元道夫氏来校。
P34	17	6月	三日 一、校長出校。西山・西村出勤。木村重次郎氏へ辞令書手交ス。
P34	18	6月	一、藤本京一生(日出新聞)及雑誌「国画」主幹中村喜美、校長ニ面会ス。
P34	19	6月	四日 一、亀田視学ヨリノ電話ニ、藤代校長依頼免職ノ辞令并竹内・山元両教授ノ依
P34	20	6月	願退職ノ辞令書并多久助役ニ両校々長事務取扱ヲ命セラル辞令書ハ何
P34	21	6月	レモ五月三十一日附ヲ以テ発令セラル。右ニ就テ校長事務引続ハ成ルヘク速ク
P34	22	6月	取斗ヒアリタシ。其日時ハ藤代博士ト打合セ通知ヲ乞フト。
P34	23	6月	依テ藤代博士ニ電話シ、何日ニテモ差支ナキ旨返答セルニ、多久助役ヨリ明日五日
P34	24	6月	午後一時出校引続ヲ受クヘシト。此旨藤代博士へ通知ス。
P34	25	6月	一、藤代博士校長用電車券返納セラル。直ニ市後藤秘書課長へ送付ス。
P34	26	6月	一、岡崎金二氏来室。一、修学旅行ニツキ協議ス。
P34	27	6月	一、絵画五年生へ千葉県大喜マタ中学校展覧会ニ出品スヘキ作品ノ提出ヲ求
P34	28	6月	メ置ケリ。
P34	29	6月	一、鉄道省図書館ヨリ「この位は全国民皆知れ小中学で教へよ鉄道ノ知識」一冊寄贈。
P34	30	6月	五日 ・ 午後一時前、校長藤代博士来校。同半、校長事務取扱多久助役及吉村視学
P34	31	6月	来校事務引継アリ。多久校長事務取扱及吉村視学ハ校内巡覧ノ上
P34	32	6月	午後四時頃退出セラル。来週木曜日新旧校長ノ披露式ヲ行フ事ト決セリ。
P34	33	6月	一、絵専生徒京橋博市外一名ヨリ竹内・山元・荒木ノ三教授送別会ヲ七月一日
P34	34	6月	本校講堂ニ於テ開キ余興トシテ生徒ノ演劇ヲ催シ度ト申入ラル。
P34	35	6月	一、美工五年生へ修学旅行挙行ノ事ヲ話ス。
P34	36	6月	六日 一、文部省普通学務局佐々木豊治郎氏来校。
P34	37	6月	一、合田一峰氏ヨリ退職願提出セラル。
P35	1	6月	六日 ・ 多久校長出校ニ付、合田氏辞表ヲ提出ス、転任ノ途ナキヤト。当分手許ニ預ル様ニ申付
P35	2	6月	ケル。
P35	3	6月	一、修学旅行ノ件承認ヲ受ク。一、京都駅へ団体旅行ヲ申込み。
P35	4	6月	一、六月十日「時」ノ記念日ニ付、時間尊重ノ宣伝、訓話等ヲナスヘク、京都府ヨリ
P35	5	6月	内達アリ。当日ハ府ニ於テ天智天皇陵前祭執行後「時」ニ関スル講話アル
P35	6	6月	ヘシト。
P35	7	6月	一、七月一日ヨリ「メートル」系度量衡実施ニ付、当日講話等セラルヘシトノ本府
P35	8	6月	ヨリ通牒アリタリ。
P35	9	6月	七日 一、修学旅行予定案、校長ノ同意ヲ得タリ。
P35	10	6月	一、千葉県立大多喜中学校校長小野寺精一郎氏へ出品目録ヲ送ル。
P35	11	6月	一、神坂雪佳氏ト前校長藤代博士送別会ノ件ヲ協議ス。
P35	12	6月	一、校長送迎式ヲ来ル十日午前十一時トス。
P35	13	6月	一、来ル十日午後一時「時」ニ関スル講演会ヲ開ク事、并ニ講師ハ江馬務氏
P35	14	6月	ノ仲介ニテ喜田貞一博士ノ承認ヲ得タリ。
P35	15	6月	一、同日午後二時半ヨリ両職員会ヲ開ク事、席上市建築課長安立
P35	16	6月	氏ノ新築校舎設計図ニツキ説明アル。
P35	17	6月	一、以上ノ三項ヲ職員ニ通知スヘク回章ヲ出ス。(明日使丁ニ持タセ
P35	18	6月	廻ハス事。
P35	19	6月	九日 一、藤代博士ヨリ府市立学校校長氏名取調へ送付方申入ラル。直ニ送ル。
P35	20	6月	一、修学旅行申請書ヲ市役所ニ送ル。一、両校職員慰勞金調ヲ作製ス。
P35	21	6月	一、多久校長不参ニ付電話ニテ明日ノ新旧校長送迎式時間ヲ午後零時半ニ
P35	22	6月	変更ノ件ヲ打合ハセ、藤代博士へ此趣ヲ伝フ。

P35	23	6月	一、	明日午後二時半ヨリ職員会開会ノ件電話ニテ職員へ通知ス。
P35	24	6月 十日	一、	午後0時半新旧校長迎送式ヲ挙行ス。
P35	25	6月	一、	午後一時二十分ヨリ喜田博士ノ時ニ関スル講演会ヲ開ク。
P35	26	6月		本日ハ天智天皇漏刻ヲ創メラレタル記念日ナレハ時ヲ尊重スヘク記念講演会ヲ開ケルナリ。博士ノ講演ハ時ニ関スル歴史上ノ話ニシテ先ツ鶏ハ
P35	27	6月		古代ニ於ケル時計ナリトテ天窟戸ノ話
P35	28	6月		ヨリ、最後ニ博士ガ最近石川県大聖寺駅ニテ三分間遅刻セシ為メ
P35	29	6月		帰洛時間二十時間余後レタル失敗談等アリ。
P35	30	6月		約一時間ニテ閉会。
P35	31	6月		
P35	32	6月	一、	午後二時半ヨリ職員会ヲ開キ安立市建築課長出席。新築校舎
P35	33	6月		設計図ヲ示シテ説明アリタリ。学校側ニテハ設計委員ヲ左ノ六氏
P35	34	6月		ニ囑托セラル。中井・入江・八木・国安・江馬長・堀ノ各氏。
P36	1	6月	一、	右終ツテ絵専校職員会アリ。同時ニ図案科ニテハ同教師室ニテ教授
P36	2	6月		上ノ打合会アリ。神阪教諭以下全図案科職員出席。自分モ招カレ出席。
P36	3	6月	一、	上田竹泉堂へ絵巻物并日野壁面表装ヲ催促ス。十五日中ニ納入ノ約。
P36	4	6月	一、	安原表具師へモ卒業製作表装ヲ催促ス。
P36	5	6月	一、	修学旅行ニ付、長野・日光・中禅寺へ宿舍ヲ申込み。
P36	6	6月 十一日	一、	千葉県立大多喜中学校へ絵画三点、図案七点ヲ送ル。(運賃二十四銭、荷造用筒三十銭)
P36	7	6月	一、	午後、新築校舎設計案ニ付、委員会ヲ開ク。
P36	8	6月	一、	夕、荒木矩君来校、寄附画及寄附金募集ノ件ヲ依頼セラル。
P36	9	6月 十二日	・	中外出版社ヨリ法然上人行状絵図第五輯一部受取、請求書添。
P36	10	6月	一、	午後、美工校ノ建築委員会ヲ開ク。
P36	11	6月	一、	中井君ヨリノ話ニ、来ル七月一日創立記念式後卒業生ト現生徒ト合同ニテ竹内・山元・荒木三教授ノ謝恩
P36	12	6月		会を開ク事、其費用ハ主トシテ生徒
P36	13	6月		及卒業生ニ一人ニ金二十銭位ノ菓子ヲ与フル事トシ、卒業生ヨリ実費位ヲ
P36	14	6月		徴収シ生徒ノ分ハ校友会費ノ記念式費及他ヨリ流用(前年度余剰)
P36	15	6月		スル事、并生徒ノ余興ヲ許ス事、場所ハ本校講堂。
P36	16	6月	一、	校舎改築案委員会ヲ廿一日午後早々開ク事。
P36	17	6月	一、	美工五年生ハ十三日午後0時三十分発汽車ニテ、長野・日光・中禅寺・
P36	18	6月		塩原・平泉・木島・仙台・東京ニ修学旅行。廿三日朝帰校ノ予定、
P36	19	6月		付添ハ堀・佐野。
P36	20	6月	一、	同四・三年生ハ八木・国安・岐美付添。大阪ヨリ汽船ニテ宮島・広島・
P36	21	6月		岡山・姫路ニ。二・一年ハ平野、前田、西海付添。同様宮島・広
P36	22	6月		島へ旅行。何レモ十五日午前十一時京都発。四・三年十九日夜
P36	23	6月		帰校。二・一年ハ十八日朝帰校。
P36	24	6月	一、	堀・佐野二人分旅行費各五十円、外五十円合計百五十円鈴鹿君ヨリ借入ル。
P36	25	6月 十三日	・	午前0時五十分京都駅発汽車ニテ修学旅行ニ上ル。(五学年)
P36	26	6月 十五日	・	午前十時半京都駅集合。修学旅行ニ上ル。(一、二、三、四学年)
P36	27	6月 十八日	・	第一・二学年帰校。十九日、第三・四学年帰校。
P36	28	6月 廿一日	・	堀教諭帰校(正午)。午後、建築設計委員会ヲ開ク。
P36	29	6月	・	多久校長ヨリ合田助教授ヲ本市小学校図画指導教員ニ任用ノ儀ヲ相
P36	30	6月		談セラル。廿二日同君ヲ訪ヒ此旨ヲ伝フ。
p37	1	6月 廿三日	一、	七月一日ニハ「メートル」法系度量衡実施ノ期日ニ付、当日其便利ナル理由等ニツキ
p37	2	6月		講演会ヲ開キ、十分徹底スル様取斗フヘキ旨、市学務課ヨリ申来ル。
p37	3	6月	一、	校長ノ話ニ、都路・西村両教諭ハ専門学校教授ニ転任シ、西村氏ハ美工校
p37	4	6月		兼任トシテ五学年受持トシテ、中村大三郎氏ヲ任用其助手トスル事、
p37	5	6月		福田平八郎氏ヲ絵専校助教授ニ任用シ、合田一峰氏ヲモ学校図画
p37	6	6月		指導教員ニ転任ノ事、并川村氏ノ助手ニ案本一洋氏ヲ任用ス
p37	7	6月		ル事、但シ案本・中村ハ美工校教諭ヲ本務トスル事ヲ決定セル
p37	8	6月		旨話サル。
p37	9	6月	一、	七月一日ニハ創立記念式ニ於テ「メートル」系施行講演(多久校長)
p37	10	6月		ヲナス事ヲ引受ケラル。式後卒業生及在校生ノ聯合ニテ竹内・山元・
p37	11	6月		荒木三氏謝恩会ヲ開ク事ヲ告ケテ同意ヲ得タリ。尚余興
p37	12	6月		演劇アル筈。
p37	13	6月 廿日	一、	都路・西村両氏ハ絵専校教授ニ転補セラル。

p37	14 6月	廿四日	帝大司書藤堂祐範氏ヨリ為恭筆延年舞ノ図写真撮影
p37	15 6月		ヲ依頼セラル。承諾ス。
p37	16 6月		一、 午後、支那広東学生廿 名（内四名女性）参観。京都府属奥田源之助氏案内
p37	17 6月		トシテ付添。一、上田竹泉堂ヨリ日野法界寺天人図表装三幅、四季繁盛絵巻上巻一、表装出
p37	18 6月		来シ持参ニ付受取ル。
p37	19 6月	廿五日	・ 欠勤。叡山へ登ル。
p37	20 6月	廿六日	一、 上村松篁氏ヨリ卒業製作借用（届書トアリ）書ヲ受取ル。
p37	21 6月		一、 午前、荒木矩君来校。一、今夜校長東上スヘシト。官途ニ就ノ噂アリ。
p37	22 6月		一、 午後、校友会役員会ヲ開ク。一、職員会ヲ開ク（美工校）。校長ヨリ西村・都路両
p37	23 6月		氏ノ絵専校転任、并ニ中村大太郎・案本一洋ノ両氏ヲ本校ニ採用ノ儀ヲ話
p37	24 6月		サル。尚西村五雲氏ハ美工校兼務として絵画五年生担任セラルヘシト。
p37	25 6月		又絵専校ニハ福田平八郎氏ヲ任用スヘシト。之ニヨリ絵専校ノ受持割ヲ発表シ
p37	26 6月		各教授へ通知セリ。
p37	27 6月		一、 校友会役員会ニテ前年度決算報告ヲナシ、剰余金参百四拾六円余
p37	28 6月		ヲ次ノ如ク議決セリ。即内金百円ハ藤代博士へ紀念品、金百円ハ来ル七月一
p37	29 6月		日三教授送別式ノ節菓子代金、四拾六円余ハ余興費補助、又金
p37	30 6月		百円ハラケット新調并参考品陳列会費トニ宛ツル事。
p37	31 6月		一、 七月一日ニハ創立記念式及メートル法実施記念講話及竹内・山元・荒
p37	32 6月		木三教授ノ送別式ヲ行ヒ、後余興劇ヲナス？。三氏へハ紀念品各
p37	33 6月		金百円ノ予定ヲ以テ適當ナル品物ヲ贈呈スル事。其金ハ別途金七
p38	1 6月		百円中ヨリ支出スル事。当日ハ目錄ヲ以テ現品ノ代リトスル事。
p38	2 6月		七月二日午後、庭球・擊剣大会ヲ開ク事。
p38	3 6月		七月三日午後、参考書籍及参考品ノ陳列会ヲ開ク事。右ニ付委員十五名
p38	4 6月		ヲ生徒ヨリ撰出スル事。
p38	5 6月		以上ヲ議定セリ。
p38	6 6月	廿七日	・ 午後亀田視学来校。案本・中村両氏任用ノ手續ヲ打合ハセタリ。合田一蜂
p38	7 6月		君来校。亀田視学へ小学校視察ノ概要ヲ告ゲ、図画指導教員タル事ヲ
p38	8 6月		承諾セラル。之ニ就キ亀田視学ハ明日無試験検定願イノ手續ヲナスヘク述ヘラル。
p38	9 6月		一、 案本一洋氏来校。履歴書ヲ持参セラル。昨日電話ニテ申入レシナリ。直ニ吉村
p38	10 6月		視学ノ手許へ送ル。
p38	11 6月		一、 七月一日 謝恩会ニハ生徒ト卒業生トノ聯合ニテ開催スル事トシ、往復はがき
p38	12 6月		三百五十枚ヲ発送ス。
p38	13 6月	廿八日	・ 午前九時、建築設計委員会ヲ開ク。十一時、安立建築課長来校。都路・中井・
p38	14 6月		入江等諸氏ト共ニ協議ス。追テ図面ヲ作製スル事トシ、本日ハ大体安立氏ノ
p38	15 6月		意見ヲ聴取スル事ニ止メタリ。
p38	16 6月		・ 午後亀田視学来校。合田一蜂氏ノ教育学学修証明書（明治四十四年
p38	17 6月		六月ヨリ四十五年三月迄講師野上俊夫氏ニ就キ）ヲ命セラル。作製ノ上渡
p38	18 6月		ス。尚案本・中村両氏ヲ美工校教諭トシ、月報八十円支給トシ、二宮氏ヲ
p38	19 6月		教諭ニ進メ、八拾円ニ増俸ノ事ニ定メ、夫々手續ヲ履マル。多分三十一日附ニテ辞
p38	20 6月		令ヲ発セラルヘシト。
p38	21 6月		一、 かきやへ一箱二十銭ノ菓子五百個ヲ注文ス。（一日九時迄ニ）
p38	22 6月		一、 職員へ七月一日ノ式并二日午後庭球擊剣ノ試合ヲナス事及三日午后
p38	23 6月		本校参考品展覧ヲ通知ス。
p38	24 6月	廿九日	一、 竹内栖鳳・山元春拳・荒木矩三氏へ送別式挙行ニ付御来校
p38	25 6月		アリタキ案内状ヲ送ル。堀氏持参。亀末へ二円五十銭宛ノ菓子三箱注文ス。
p38	26 6月		一、 小使ヲ中井教授ノ宅ニ遣ハシ、左ノ書籍（奥州ヨリ購入ノ分）ヲ受取ラシム。
p38	27 6月		一、 ルノアール画集（二十枚入）、近代絵画集二冊、複製名画二枚
p38	28 6月		外ニ彫像写真一葉（是ハ複製名画三枚ノ内一枚ト取違ヘラレタルモノ？）
p38	29 6月		以上
p38	30 6月	三十日	一、 林貨物店へ折畳椅子百五十脚ヲ借入ル事。（損料一脚ニ付金拾銭ノ割）
p38	31 6月		一、 中井教授ヨリ受取ヘキ複製名画不足分一枚ハ、複写ノ為メ借受ケ度旨申入ラル。
p38	32 6月		近日返納アル筈。
p38	33 6月		一、 案本謹之助氏美工校教諭ニ任セラル。一、中村大太郎氏美工校教諭ニ任セラル。
p39	1 7月	七月一日	・ 午前八時半、創立記念式ヲ挙ク。卒業生校中ノモノ約百名列席ス。
p39	2 7月		多久校長事務取扱勅語捧読セラレ、次ニ訓示アリ。次ニ

p39	3	7月	本日ハ「メートル」系度量衡施行第一日ナレハ紀念講演アルヘキモ便直上此席
p39	4	7月	ニテ一言スヘシトテ「メートル」法ノ便利ナル意并ニ能率ノ増進
p39	5	7月	上多大ナル利益アル事ヨリ国家ノ実力ヲ増サ、レハ名ハ世界ノ一等国ト称スル
p39	6	7月	ル米国ヨリ排斥セラルル如キ屈辱ヲ蒙ル云々。
p39	7	7月	午前十一時ヨリ竹内・山元・荒木三教授ノ送別式并ニ謝恩会ヲ開ク。
p39	8	7月	午前九時開会ノ予定ナリシモ、竹内栖鳳氏来校遅カリシ為メ自然時間
p39	9	7月	後レタリ。先ツ会長トシテ三教授ノ多年本校生徒教養ニ多大ノカヲ効サレ
p39	10	7月	タルヲ謝シ、今後モ直接間接ニ御尽力アララル事ヲ乞フト。次ニ記念品贈呈アリ。(記念品ハ単ニ目録) 次ニ卒業生村上華岳・
p39	11	7月	馬島香春ノ二氏ノ惜別ノ辞アリ。次ニ
p39	12	7月	竹内・山元・荒木ノ三氏順次ニ挨拶アリ。最後ニ生徒総代大島竹松氏ノ
p39	13	7月	謝辞アリ。之ヲ以テ閉会ス。参列卒業生百八十五人、生徒約三百五十人。
p39	14	7月	之ヨリ別室ニテ三氏ニ昼食(洋食)ヲ饗シ、菓子(亀末製二円五十銭)一箱
p39	15	7月	ヲ贈リ、卒業生及在校生徒ニハ菓子一箱(一箱金貳拾銭)ヲ配レリ。
p39	16	7月	此日卒業生ヨリハ金貳拾五銭宛ヲ徴収セリ。其内訳、金貳拾銭菓子代、
p39	17	7月	金參銭往復はがき代金、貳銭欠席者ノ欠損填補。
p39	18	7月	卒業生ハ控室ニテ茶菓ヲ喫シ、各自昼食ヲ取りテ日本室ニ休憩中ノ
p39	19	7月	竹内・山元・荒木ノ三氏ト懇話ス。
p39	20	7月	午後一時、余興劇開始七時半終ル。
p39	21	7月	二日 一、先月七日ニ修繕ノ為渡セル製本、八冊出来持参。(田中平安堂)
p39	22	7月	一、修繕ノ為メ次ノ書ヲ田中平安堂ヘ渡ス。
p39	23	7月	アニマルズ イン モーション一冊。エ ラウンド ゼ ウオールド二冊 以上
p39	24	7月	一、絵専本科三年生一同ハ校長ト会見シテ学科教授ヲ受クル件ニ付
p39	25	7月	意見ヲ申出タリ。其要ヲ側聞スルニ、生徒等ハ江馬務氏ト意気合ハズ、江馬
p39	26	7月	氏ハ芸術家ヲ理解セズ云々ト。又聞ク他ニ煽動者アルニ非スヤト。
p39	27	7月	一、絵専二年生ハ、江馬務氏ニ本学学期試験ヲ廢シテ第二学期末トナサレン事ヲ
p39	28	7月	要求セリト。
p39	29	7月	一、修学旅行精算書ヲ提出ス。
p39	30	7月	一、午後撃剣大会及庭球大会ヲ挙行ス。(曇天ニテ時々雨フル)
p39	31	7月	一、寮本一洋氏美工校教諭ニ任セラル。(八級俸) 六月三十日附。
p39	32	7月	一、中村大三郎氏 同様 (同) 同。
p39	33	7月	右辞令書ハ寮本氏出校ニ付渡シ、中村氏分ハ小使ニ為持遣ハス。
p40	1	7月	一、二宮一鳩氏教諭ニ昇任、八級俸。(六月三十日)
p40	2	7月	一、入江幾次郎氏月俸金九拾円支給。(同日付ノ筈)
p40	3	7月	一、明日参考品陳列会ニ付其準備ヲナス。
p40	4	7月	一、校長ハ絵専本科三年生ト会見シテ後、予ニ電話ニテ更ニ詳細ニ事情ヲ取調見分命
p40	5	7月	セラル。依テ大島竹松氏ヲ喚ヒ、其真意ヲ問フ。同氏曰ク、江馬先生講義ニ於テモ常
p40	6	7月	ニ功利的口吻アリ。吾等ハ之ヲ聞ク毎ニ不快ヲ感ス。吾等ハ同先生ノ教授ニ於テ其功利
p40	7	7月	的人格迄モ感化セラル、ヲ虞ル。同先生ハ芸術家ヲ理解セズ。嘗テ戯談?
p40	8	7月	自分ノ実子ハ決シテ芸術家タルヲ欲セス。芸術家ハ感情ニ偏シテ思想上ニモ偏リアリ。
p40	9	7月	且ツ感情ニ激シテ常軌ヲ逸スルヲ常トス。畢竟円満ナル人格者ヲ望ムヘカラス云々ト。
p40	10	7月	之レ吾等ヲ理解セサル言葉ナリ。同先生ハ吾等ハ僅々ニケ年半ノ授業ヲ受ク、併シ他ノ美
p40	11	7月	工校ヨリ来レル生徒ニ就テ聞クニ、彼等ハ美工校ニテ数年間授業ヲ受ケシニ拘ハラズ、十三年
p40	12	7月	勤続ノ先生タルニ拘ラス生徒等ノ心ニハ何等ノ印象ヲ残サズ、聊カモ追慕敬慕ノ念起
p40	13	7月	ラスト語ルヲ聞ク。更ニ同先生ノ率ユル風俗研究会同人ニ就キテ聞クモ、同様何等敬
p40	14	7月	慕ノ跡ヲ認メス。之レ先生ノ人格ニ欠クル所アルノ致ス所ナルヤ明ナリ云々。
p40	15	7月	授業ヲ受クル欲セスト結束セルハ何等カノ動機アリシナラン。其動機如何ノ問ニ答ヘ
p40	16	7月	テ曰ク、自分等ハ一年生以来之ヲ心附キ其授業ヲ受クルヲ不快ニ感セシモ、之ヲ
p40	17	7月	発表スル機会ナク、唯自分等同級生ハ三年生時代ニハ斯クノ如キ事業ヲナシテ後進ノ為
p40	18	7月	ニ裨益スヘキ紀念ヲ残サント考ヘ居タリ。其事業トハ学校内容ノ改良策
p40	19	7月	其他参考図書ノ複製出版ナリ。本校学科目ノ効果ニ就キテハ吾等ハ
p40	20	7月	大ニ疑ヲ抱キテ、之ニ不賛意ノ点アリシモ其改革ノ機会ナク、唯実習ノ教師ノ
p40	21	7月	手腕ノミヲ尊崇シ他ヲ顧ミルヲ断念シ来レルニ、今回実習教授上ニ一大改変起
p40	22	7月	リシヲ以、此機運ニ於テ学科ノ上ニモ改善策ヲ実現セシメ度、一同ノ意志自然ニ
p40	23	7月	一致シテ江馬先生ニ対スル問題ヲ起セルナリ。

p40	24	7月	此原因ハ決シテ江馬先生ガ盟休主謀者取調ヘテ之カ切崩シニ着手スヘク
p40	25	7月	提案セラレシヲ嘸ムモノニアラス。此件タル勿論吾等ニ不快ヲ感セシメタリ。何トナレハ
p40	26	7月	吾人ノ盟休ハ退職申出ノ六教授留任ノミ関スル運動ニシテ、他ノ諸先生ニハ何等
p40	27	7月	ノ敵対行為ヲ採リシ事ナシ。然ルニ職員会ハ吾等ニ挑戦ノ態度ヲ採ラレタ
p40	28	7月	リ。八木先生ノ河野正利ヲ威嚇シ又欺瞞ヲ以テ彼ニ謝罪状ヲ認メシメ
p40	29	7月	之ヲ持帰ラレシ如キハ甚タ其意ヲ得サル成サレナリ。併シ今日ハ一切之ヲ水ニ
p40	30	7月	流シ、之ヲ忘レント努力シツ、アリ。故ニ江馬先生ニ対スル運動ハ、全ク之ニ関係
p40	31	7月	セサル事ヲ諒トセラレヨ云々。
p40	32	7月	以上ノ概略ヲ考フルニ、生徒等ハ一面ニハ風俗史ナドハ歴史画ニ必要ニシテ彼等ニハ
p40	33	7月	目下何等ノ必要ヲ認メス、学校トシテ之ヲ本科三年迄強ユルハ不当ナル配当方
p40	34	7月	ナリ、自分等画家ハ常識ノ程度（画家トシテノ程度）ニ研究スルニ止メ
p41	1	7月	夫レ以上ハ歴史画専門ノ画家ノ研鑽ニ任スラ適當ト考フルモノ、如シ。或ハ極端ナル
p41	2	7月	生徒ハ、美術ニハ故実ナド必要ナシト叫フモノモアラント考ヘラル。
p41	3	7月	又他面ニハ、他ヨリ江馬努氏ヲ排斥スヘク煽動少クモ、生徒等ニ江馬氏ヲ輕蔑
p41	4	7月	スヘキ材料ノ提供（談話ノ端々ニ於テ）セシ結果ニアラスヤ。
p41	5	7月	先月末ノ日曜日ニ荒木矩氏ヲ往訪セン時、同氏談話中ニ先般復職ヲ承諾セ
p41	6	7月	シ五氏中ノ一人（西村氏？）ノ語ニ「絵専改革ハ山元先生ヲ引退セシメ次ニ
p41	7	7月	木島ノ引退ヲ見ル位ノ程度テ終ルトスレハ吾等ノ目的ハ大ニ
p41	8	7月	相違スルナリ。若シ此位ニテ終ルナラハ自分等ハ再ヒ連袂辞表ヲ提出セン。今回
p41	9	7月	ノ改革ハ少クモ今後学科教師ニモ大交迭ヲ必要トス云々」トアリシト話サル。
p41	10	7月	又荒木氏ハ予テ江馬氏ノ言動ニ対シテ批評シテ「馬鹿ナヤツダ」ト繰
p41	11	7月	返サル、事稀ナラス。又江馬氏ハ「錢儲ハ上手ナ男ダ」ト驚嘆セラシ事モ度々
p41	12	7月	アリ。成ル程江馬氏ハ雑誌「風俗研究、染織研究等から種々ノ単行本
p41	13	7月	ナド功利ニハ中々巧ナルハ予モ感知スル所。又江馬氏ハ先日モ話サル、一
p41	14	7月	節ニ「若林書房ヨリ預リ居レル三十六番歌合絵詞（代三百五十円）ハ若シ学校
p41	15	7月	ニ購入ヲ得サルナラハ、預レル間ニ窓ニ松元氏ニ模写セシメテ学校ニ残
p41	16	7月	サレテハ如何」ト。予ハ之ニ対ヘテ若林氏ノ許可ヲ求メシテ窓ニ模写スルハ予ノ
p41	17	7月	同意スル能ハサル所ナリト。是等ヲ見テモ江馬氏ノ功利ニ巧ナルハ或ハ然ラン。
p41	18	7月	高調シテ其人格ヲ疑ヒ、之ノ授業ヲ受ケサル迄ニ結束セシタル黒幕モ亦罪
p41	19	7月	深キ業ナラスヤ。
p41	20	7月	三日
p41	21	7月	午前十時頃ヨリ参考図書展観ニ着手ス。第一室図書室ニハ
p41	22	7月	張月川山水画卷・訥言文永加茂祭・上官伯達十六羅漢・英一蝶
p41	23	7月	年中行事二卷・興以外五氏ノ扇面八枚・漆器（金馬塗炭取、光琳
p41	24	7月	下絵盆・唐物箔絵丸盆・塩見政誠作印籠・花車図香枕・馬図蒔絵硯箱・
p41	25	7月	源氏蒔絵茶箱・堆朱食籠・同曲輪香合・蜜陀絵角盆・存星作茶箱・
p41	26	7月	挿映蒔絵香盆・角赤小箱・堆黒香合・黒波蒔絵香合 以上十五点）
p41	27	7月	陶器（光琳乾山合作茶碗・乾山作水指及皿附皿二種・祥瑞皿・角倉一方堂
p41	28	7月	猿置物・抹茶茶碗・木米作急須二・乾山作抹茶々碗 以上十点）
p41	29	7月	フリ、々、鶉籠・經帙・這子・加茂社用龍鬚・紺綾平緒
p41	30	7月	（吉野大夫小袖裂同帯・廣東・朝鮮錦・紙子衣裳裂・唐織
p41	31	7月	等其他硝子挟ノモノ 2.4.12.21.26.29.31.34.38.39
p41	32	7月	40.44.45.46.48.51.53.56.62.69.71.73.75.76.80
p41	33	7月	81.94.96.97.98.99.100.101.102.103.104.405.112.113.120.121.123
p42	1	7月	114.115.116.117.119.以上）
p42	2	7月	第二室、北教室西ヨリ三室。古佛画及本校職員筆扇面等全部（但シ本校職員筆
p42	3	7月	画卷四卷ハ陳列場所ナキヲ以テ陳列セズ）ヲ壁間ニ掛ケ、中央ノ卓子ニハ
p42	4	7月	デュラー画集・セザンヌ画集・仏国ニ於ケルゴシック芸術・デッサン集
p42	5	7月	及欧州名画写真四十三葉（栖鳳氏将来ノモノ）ヲ陳列シ、
p42	6	7月	第三室、講堂ニハ、ルノアール画集・ゴッホ色摺・ルソー色摺・スタイン千仏
p42	7	7月	洞図集・其他額面ニ挟メル写真及色摺画全部。
p42	8	7月	午后四時半閉会ニ取掛ル。六時絵専本科三年生一同（展観係）茶話会ヲナシ、
p42	9	7月	盟休時代ヨリノ精算減金ヲ以テ其費用ニ当タルトノ申出アリタリ。依テ夕食弁当
p42	10	7月	料五円ヲ提供シ図書給仕ニモ弁当料五十銭ヲ与ヘタリ。
p42	11	7月	一、 本日絵専本科二年生ヨリ校長ノ出席ヲ請ヒ学校内容改善ニ関シ十数条ノ意見ヲ校長ニ告
			ケタリ。其動機ハ江馬努氏受持ノ風俗史学期試験

p42	12	7月		ヲ第二学期末ニ延期セン事ヲ申出テ江馬氏ヨリ同意ヲ得サリシニ因
p42	13	7月		セルナラン。之ニ就キ校長ヨリ自分ヘノ話ニ、絵専校ニ第二外国ヲ加ヘサル
p42	14	7月		ハ不当ナリ、哲学概論ヲ加フルモ宜シカラス云々。何レ是等ニ関シ熟考ノ上、来
p42	15	7月		年度予算ニ適当ナル費用ヲ請求スヘク考慮サレタシ、美工校ニモ相当一考
p42	16	7月		アリタシト。
p42	17	7月		一、絵専本科三年ハ校長ヨリノ慰撫ニヨリ兎モ角本日ヨリ江馬君ノ授業ヲ受ク。
p42	18	7月		校長ノ談ニ何レ暑中休暇ニ近付ケルヲ以テ、九月ヨリハ相当ノ方法ヲ講スヘシト。
p42	19	7月		一、中村大三郎氏本日ヨリ出勤。一、加藤仁平君嫡子肇ツラル。職員一同ヨリ祝フ。
p42	20	7月	四日	一、森守明氏へ葉書ヲ出ス。美工会役員会ノ件ナリ。
p42	21	7月	五日	一、午前荒木矩氏来校。養老寄贈金品募集ニツキ相談アリ。
p42	22	7月		一、午後美工校職員会ヲ開ク。神坂・川北以下十数名出席。西村五雲氏モ列席。
p42	23	7月		本年度予算案ニツキ評議ス。絵画科運筆手本調製ニツキ其原本ヲ
p42	24	7月		竹内栖鳳氏ニ其副本ヲ「プロマイド」写真或ハ玻璃版スル希望アリ。其所要数
p42	25	7月		ハ先ツ絵画一年級ニ15種ノ原本ト各種十五枚ツ、ノ副本ヲ、又絵二年級
p42	26	7月		ニハ原本8種各五枚ツ、ヲ要スト。一、又美工校生徒使用ノ写生品ハ各自ノ
p42	27	7月		負担トシ每学期間終リニ計算シテ生徒ヨリ徴収スル事希望アリ。
p42	28	7月		一、美工校ニモ毎年参考品費五百円ヲ計上シテ新旧ノ美術工芸品ヲ買入ル、事。
p42	29	7月		一、教授用備品ヲ増加シテ、絵画科一〇〇円、図案科一〇〇円、彫刻漆工科各
p42	30	7月		五十円ヲ計上シテ参考上重要ナル古画新画工芸品ヲ買入ル、事等ノ
p42	31	7月		希望アリ。今日ハ宿題トシテ本月中旬再会合決定スル事トセリ。次ニ
p42	32	7月		一、新築校舎設計図ヲ提出シテ協賛ヲ求ム。午後六時退出。
p42	33	7月	七日	一、美工会役員会開会（十日午後七時円山公園あけぼの亭）ノ通知ヲ発送ス。
p43	1	7月	七日	一、鈴鹿君ヨリノ話ニ、谷愛之助ハ一兩日中ニ画料ヲ持参セラルヘシト。
p43	2	7月		一、川上拙以氏ヨリ電話アリ。右ノ画ニツキテナリ。一兩日中ニ往訪一覽スヘク答ヘ置ケリ。
p43	3	7月		一、荒木矩氏来校。一、丸善ヨリ洋書二部持参リ。
p43	4	7月		一、中村幸男（四年）川島昇太郎氏（四年）ハ先年若杉鑑三氏ト共ニ丸太町不識
p43	5	7月		洞書店ニテ数学書等ヲ窃取セル事発覚セルカ。警察云々電話ニテ出頭ヲ請求セ
p43	6	7月		ラル。中村氏ハ先月ノ旅行中ニモ他人金ヲ窃シト。
p43	7	7月		一、佐藤武平次、宇崎衛ノ二人ノ何レカ山下節ノ保管セル音楽（ハモニカ）会券及金約拾数円
p43	8	7月		ヲ窃取セシ疑アリ。又佐藤氏ハ同宿生徒訓覇氏ノ墓口ヲ窃シ（金貳円在中）テ
p43	9	7月		錠アリ上柳氏、佐野繁雄氏ハ宇崎氏ノ参考人トシテ警察署ニ召喚セラルト。
p43	10	7月		一、本日ハ気温九十七度五分。其酷烈実ニ堪ヘ難シ。
p43	11	7月	八日	午後絵専校教授会開会。建築案并予算案ヲ協議。
p43	12	7月	九日	午前美工校操行査定会議。絵専校学科試験開始。職員増俸申請。
p43	13	7月		一、工業能率研究講演集第二編一冊、大阪市立工業学校ヨリ寄贈。礼状ヲ送ル。（十日）
p43	14	7月		一、明後十一日夜本講講堂ニ於テ欧州風景等ノ映画活動写真ヲ生徒一同ニ観覧セシム
p43	15	7月		ル事トセリ。
p43	16	7月		一、神阪雪佳氏ヨリ六兵衛造万曆模香炉一個預ル。藤代博士ヘ贈呈スヘキ分ナリ。
p43	17	7月		一、操行査定会ニ於ケル問題次ノ如シ。
p43	18	7月		一、東方康雄 停学後少シモ悔悟ノ迹見エス。論旨退学トスル事。
p43	19	7月		一、山沢貞男 自分ノ画箱ヲ売却シテ小遣錢トセリ。（十分ノ小遣錢ヲ家庭ヨリ受クル上ニ）
p43	20	7月		昨年山沢宅ニテ吉川・東方等二三人ト修学旅行費徴収通知書ヲ偽造シ（謄写版摺）
p43	21	7月		父兄ヨリ多分ノ旅行費ヲ欺取セリ。本年修学旅行中広島ニテ昼食弁当二人分
p43	22	7月		窃取セリ、漆工科ニテ蒔絵香合三点、巻簾筥、棗ノ紛失モ山沢ト吉川トノ
p43	23	7月		間ニ売買セラレシニアラスヤト疑フ人アリ。
p43	24	7月		山沢ノ宅ハ不良学生ノ陰謀策源地ノ観アリ。 論旨退学トスル事。
p43	25	7月		一、吉川俊郎 山沢ト結託シテ夜遊ヲナシ、漆工科教室ニ出入シ、嚴禁スルモ守ラス
p43	26	7月		平常ノ態度甚放縱（此頃ハ手拭ヲ頸部ニ巻付ケ或ハ実習室内ニテシャツ一枚ト
p43	27	7月		ナル或ハ外出ノ際ハ贅沢ナル洋服ヲ着用シ高価ナル写真機其他遊戯品
p43	28	7月		ヲ所持シ他生徒ヲ悪ニ導ク。柴田可寿馬ノ「ナイフ」ヲ取りテ鈴木茂ノ
p43	29	7月		筆洗ヲ突き毀ツ等。今回ハ嚴重ナル条件ノ下戒飭シ悔悟セサ
p43	30	7月		レハ遂ニ論旨退学トスヘキモノナリ。
p43	31	7月		一、宮崎九蔵 放縱不羈、粗暴ニシテ礼節ヲ知ラス。他生ニ悪影響ヲ
p43	32	7月		与フ。今回ハ嚴重ニ戒飭、次ハ論旨退学。
p43	33	7月		以上漆工科ノ風儀ヲ改良スル事。江馬長閑氏モ同意、岩村氏モ同意。

p44	1	7月	一、早崎衛 本年三月後ニ於テ丸太町書店ニテ書籍ヲ窃取スル事三回、之ヲ河原町荒神下ル
p44	2	7月	書店ニ売却、六月初旬ニモ一ニ回窃取セル由。
p44	3	7月	山下節氏保管ノ「ハモニカ」演奏会切符及金拾 円入財布紛失ノ際、佐藤、上柳
p44	4	7月	等ヨリ忠告セラレ旧悪ヲ隠蔽スル目的ヲ以テ財布窃取ノ実罪ニ首伏セリ併シ
p44	5	7月	残念ニ堪ヘス隣家ノ刑事警部ニ密告セリ云々ト自白セリ 諭旨退学
p44	6	7月	トスル事（七日日記セリ）
p44	7	7月	一、佐藤武平次 七日日記セル事実并ニ本年六月修学旅行中広島ニテ昼弁当二個窃
p44	8	7月	取セリ。下宿屋女主人ヲ召喚事実ヲ取調へ（訓覇氏ノ談話等ニツキ）、又保証
p44	9	7月	人ナル牧師ニ相談ノ上諭旨退学トスル事。
p44	10	7月	一、中村幸雄・川島昇太郎（七日日記セリ） 中村氏ハ本年六月修学旅行ノ節
p44	11	7月	岡山ノ旅館ニテ彫刻科生薦田文彦ノ財布（金五円在中）ヲ窃取セル疑アリ
p44	12	7月	此二人モ諭旨退学ニスヘキモノ。
p44	13	7月	一、富森早次郎・中村博衛 裸体ニテ実習室内ヲ徘徊ス。富森ハ柴原教
p44	14	7月	諭ニ無礼ナル悪戯ヲナシ停学ニ処セラレタル事（近頃）アリ。
p44	15	7月	兩人及小倉重雄ハ銃器室ノ窓ヨリ潜入シ、軍刀ヲ取出教室内ニ持
p44	16	7月	来リテ弄ヒ破損用ニ堪ヘサラシム。依テ三人ニ弁償ヲ命スル事。
p44	17	7月	富森・中村ヲ諭旨退学トスル事。小倉ニ停学ヲ命スル事。
p44	18	7月	中村ハ学力劣等、富森ハ実習ハ優良学科ハ劣等ニシテ非常識
p44	19	7月	ナリ。是迄度々警告ヲ与ヘテ奨励セルモ聊カノ効無シ。
p44	20	7月	一、田中輝男 膳所中学ノ半途退学生ナリ。成績不良。
p44	21	7月	他人ノ皿ヲ投ケテ破壊ス。之ヲ糺問スレハ円盤投ノ真似ヲナセル
p44	22	7月	トテ平然タリ。中野泰之ハ其破片ヲ取ツテ又其真似ヲナセリ。
p44	23	7月	弁償ヲ命シテ厳戒スル事。
p44	24	7月	一、山本邦太郎・大音秀雄 兩人トモ本年三月末ニ実習成績未完ニ付
p44	25	7月	七月迄ニ不足分ノ作成ヲ約束セシメ、若シ其終迄ニ出来セザレハ第
p44	26	7月	三年ヘ戻ス事ヲ警告セリ。然ルニ大音ハ本月中旬迄ハ不足分ヲ
p44	27	7月	補充スヘキ見込アルモ山本ハ到底不可能ト自ラ語ル。
p44	28	7月	山本ハ毎年実習不足ノ俛ニテ涙ヲ以テ哀願シテ進級セシメ
p44	29	7月	タルナリト。依テ今回ハ嚴重ニ取扱ヒ、若シ第一期終業式（十六日）
p44	30	7月	迄ニ不足分ノ完成ヲ見サレバ実習室ハ三年ニ戻シ、学科ハ四学
p44	31	7月	年（本籍）ニ置ク事。尚三学年実習ハ他生徒ト同様ニ第一学
p44	32	7月	期第三学期ノ実習ニ従事セシメ、不足補充ノ恩典ハ消滅セルモノ
p44	33	7月	トス。
p44	34	7月	一、 学校新築設計案ハ南北並行ニ両校々舎ヲ置ク事ヲ評議、昨日ノ絵専校職員会ニ上ル。
p45	1	7月 十日	安原表具師へ卒業制作、三浦・木下・吉田ノ三幅受取。
p45	2	7月	華山花鳥六枚。唐画帖（筍、叭々鳥、薔薇ニ小禽、菓子桃、花鳥、梅雀、立葵、馬上
p45	3	7月	人物、海棠、酔蓮、郷千筆山水、竹、鮎、曲欄望月）拾四枚、
p45	4	7月	伴大納言二、若冲貝図一、光琳四季草花三、若冲鶏二枚、春日現記二、源氏物語一、
p45	5	7月	栄華物語一、綱川図巻一外ニ卒業製作、湯浅、上村、高井、清水ノ四枚。
p45	6	7月	以上表装ヲ命ス。九月廿日受取。
p45	7	7月	一、宇都宮誠太郎君へ原稿料金五円ヲ持遣ハス。
p45	8	7月	一、昨夜佐藤武平次ハ訓覇・早崎・山下等へ遺言ヲ残シテ他出セリト。然ルニ午前十時頃自
p45	9	7月	転車ニテ走レルニ出會ヒシ生徒アリ。佐藤氏之ニ告ケテ曰ク、死ナウト思ツテ出懸ケタガ
p45	10	7月	死ナレナカツタカラ是カラ又死場所ヲ捜シニ行ク」ト。
p45	11	7月	一、大阪興信所々長坂口武正氏来校。児玉文夫ノ友人ヲ取調スル為ナリト。
p45	12	7月 十一日	本日ヨリ美工校学期試験ヲ開始ス。本日付ニテ合田一峰氏梅屋小学校ニ転勤。
p45	13	7月	本日付ニテ福田平八郎氏絵専助教授ニ任セラル。
p45	14	7月	一、千葉県立大多喜中学校ヨリ先月十一日貸与セシ生徒作品返送シ来ル。
p45	15	7月	千熊教諭ニ渡ス。
p45	16	7月	一、佐藤武平次ノ保証人及実父来校ニ付其非行ヲ告ゲ此際退学シテ父母ノ膝
p45	17	7月	下ニテ嚴重監督アリタシト申入ル。
p45	18	7月	一、中村幸男・川島昇太郎兩名諭旨退学ニ処スヘク校長ノ同意ヲ
p45	19	7月	得タリ。
p45	20	7月	一、 午後四時ヨリ新築校舎設計委員会開ク。
p45	21	7月	一、 午後八時ヨリ活動写真（市社会教育課）ヲ映写シ、職員生徒

p45	22 7月		ニ参観セシム。
p45	23 7月	一、	藤田写真師来り。朝鮮瓦拓本ヲ写サシム。一、国華六月号到来。
p45	24 7月	一、	絵専卒業生上村・三輪・清水・湯浅・高井ノ五氏へはがきヲ出シ、卒業製作買上料ヲ渡スヘク通知セリ。
p45	25 7月		
p45	26 7月	一、	種子島講師ヲ訪問シテ美工校受持時間ノ交渉ヲナス。第四年ハ金曜日ニ、第五年ハ絵専予科一年ト合同教授スヘク協定シ、手当年百円位増加ノ事ヲ伝ヘ置ケリ。
p45	27 7月		
p45	28 7月		本科二年用器画ハ教科書全部修了ノ旨生徒ヨリ聞ケリ。故ニ絵専予科一年ニ合同スルモ差支ナカルヘシト。
p45	29 7月		
p45	30 7月	一、	福田平八郎氏絵専助教授ニ任セラル。(八〇円) 合田一覚氏梅屋尋常小学校ニ転任セラル。
p45	31 7月	十二日	太田喜二郎君へ原稿料金拾円ヲ贈ル。又同君カラ豊岡子爵へ次ノ通り伝達ヲ依頼セリ。
p45	32 7月		
p45	33 7月		華族会館御依頼ノ卓等一式ハ本月中旬ニ出来ノ御約束致セルモ、八月二十日迄御猶予アリタシト。
p45	34 7月		
p46	1 7月	十二日	美工会葉書百五十枚注文ス。
p46	2 7月	一、	上村松篁氏ニ卒業製作買上料金ヲ支払フ。又同人ハ湯浅源三氏ノ依托ヲ受ケ、同人分ヲモ受取り帰ラル。十四日湯浅氏ヨリ受取ノ通知来ル。
p46	3 7月		
p46	4 7月	十四日	一、高井誠氏来校。卒業製作買上料金ヲ支払渡ス。
p46	5 7月	一、	福田翠光氏ヨリ図案「翠光」一部寄贈。礼状ヲ出ス。
p46	6 7月	一、	豊岡子爵へ華族会館ノ御注文品ハ八月廿日迄ニ上納ノ様、延期ヲ願フ手紙ヲ出ス。
p46	7 7月	一、	沢田誠一郎氏へ美工会ノ相談ノ結果ヲ通知ス。
p46	8 7月	一、	美六月号到達(六百部)ス。
p46	9 7月	十五日	一、福知山中学校ヨリ図画教員(月俸百弍十円)任用ノ照会アリ。依テ岡山聖徳氏及中川房一氏ニ手紙ヲ出ス。
p46	10 7月		
p46	11 7月	一、	上田青雲堂ヨリ西陣尺五絹一反ト岐阜尺五絹四匹トヲ買入ル。先日各一匹ツ、買入レタリ。西陣一匹四十五円、岐阜一匹二十五円ノ割。
p46	12 7月		
p46	13 7月	十六日	一、市技師寺岡氏来校。校舎新築ニツキ中井教授ト共ニ打合ヲナス。
p46	14 7月	一、	午後三時美工校建築委員会ヲ開ク校舎ヲ四階建トシテ設計ス。
p46	15 7月	一、	午前十一時終業式挙行。一、大音・山本邦太郎ノ両氏ニ第二学年へ引戻ス事ノ警告ヲ与フ。昨年来ノ実習補足不可ニヨル。
p46	16 7月		
p46	17 7月	十七日	一、前校長藤代博士送別会挙行ノ相談ヲ纏メ、賛成者へ通知ス。
p46	18 7月	一、	吉村視学ヨリ阿部某氏ニ臨模手必用ノ際備入レラレタシト依頼アリ。阿部氏ハ東京?高等師範学校ニテ臨模従事セル熟練ノ人ナリト。
p46	19 7月	一、	岩村貞蔵氏ヨリ平卓出来持参ニ付、代金五拾円本人へ渡ス。
p46	20 7月	一、	右平卓ハ目錄ヲ添へ藤代博士宅へ為持、別ニ香炉一個ハ自分持参ス。送別紀念品トシテ贈呈スルモノナリ。此代金各五拾円、合計金百円。
p46	21 7月	一、	荒木矩氏退職紀念品寄附ニツキ、美工会ヨリ図案科卒業生へ葉書ヲ出シ、金貳円ツ、寄贈ヲ勧誘セリ。
p46	22 7月		
p46	23 7月	一、	中村幸雄ノ父及川島昇太郎ノ保証人ヲ喚ヒテ退学ヲ論ス。
p46	24 7月	十八日	
p46	25 7月	一、	合田一峰君来校。本月十一日附ヲ以テ梅屋校訓導ニ転任ノ辞令書ヲ受取レル事ヲ告ケラル。
p46	26 7月	十九日	
p46	27 7月	一、	第一学期成績ヲ発表ス。(午后一時)
p46	28 7月	一、	午後五時ヨリ滋賀県大津市石場魚善樓ニテ前校長藤代博士ノ送別会ヲ開ク。神阪・川北・江馬長閑・同務・国安・猪飼・千熊・岐美・伊吹・岩村・徳田・平野・八木・前田・柴原・東・鈴鹿・堀ノ十八氏出席ス。十時半散会シ、自動車ニテ藤代博士ヲ送ル。(同乗セルモノ川北・江馬長・前田・堀)
p46	29 7月		
p46	30 7月		
p46	31 7月		
p46	32 7月		
p46	33 7月	廿日	一、成績表ヲ保証人ニ発送ス。
p46	34 7月	廿一日	一、中村幸雄ノ父来校、退学願ヲ提出ス。且ツ日ク、修学旅行中ニ紛失セシ財布(金五円在中)ノ犯人トシテ嫌疑ヲ受クルハ全ク冤罪ナリトテ弁解セリ。日ク、十六日ハ自分(父ノ言)ハ下関ヨリ商用ノ帰途宮島ニ参詣シ、生徒松尾氏ニ遇ヒ、自分ノ息ノ来島セルヲ知り、面会シテ其無断ニ修学旅行ニ加ハリシ事ヲ語りシモ、家族ノ同意及勧告ニテ来リ小遣錢五円ヲ姉ヨリ受取り只今尚三円余所持スル旨本人ヨリ聞ケリ。依テ不足アラハ小遣錢ヲ渡スヘク申入レシニ、本人ハ是レ丈アラハ不足ヲ感セサルヘシト申セシニヨリ同夕八時半汽車ニテ帰レリ。(紛失ハ岡山旅館ニ起リシモノナリ) 又日ク、書籍ヲ窃取セル事三十九冊、其回数十二三回ニ及フベシ。其内二十一冊ハ代金弁償ト現品返戻トニテ処理セリ云々。
p47	1 7月		
p47	2 7月		
p47	3 7月		
p47	4 7月		
p47	5 7月		
p47	6 7月		
p47	7 7月		

p47	8	7月	一、岡本利雄ノ父来校。 一、坂口武正来校。 一、管谷保三氏ヨリ金貳円受取ル。(紀念品代) 荒木君へ贈ルヘキ
p47	9	7月	一、丸善ヨリ支那陶磁器(八九円一〇銭)及原始人ノ芸術(一九円二〇銭)ノ見積書到
p47	10	7月	来ス。各別紙ニ記スル様訂正ヲ申送レリ。(電話ニテ)
p47	11	7月	一、安田千代太郎氏来室。荒木氏贈呈スヘキ紀念品ニ付相談アリ。川辺巖氏等ノ同級生ハ
p47	12	7月	画帖ヲ作ル企アリト。併シ要員ノ希望ハ如何ト。依テ尺五絹本或ハ金員(五円位)
p47	13	7月	ヲ希望スル旨答ヘ置ケリ。
p47	14	7月	一、岡田紫郊氏ヨリ葉書ニテ金貳円送ル旨通知アリ。
p47	15	7月	廿三日 一、前野三郎氏ヨリ履歷書ヲ受取ル。入江助教授ニ二五日朝迄ニ新築設計
p47	16	7月	図ヲ確定シ提出アリタシト通知ス。校長ハ同日出校ノ通知アリ。
p47	17	7月	一、午后四時ヨリ絵画・図案ノ実習打合せヲ開ク。夜職員会(美工校)ヲ開
p47	18	7月	キ新築設計図ヲ協定ス。一、杉山信三氏ヨリ金貳円受取。
p47	19	7月	廿五日 一、午前十一時、中井宗太郎・入江波光、両氏ト市役所ノ自動車ニテ多久助役室ニ赴ク。
p47	20	7月	新築設計図及明年度予算ヲ手交シ、安立建築課長ト商議シテ帰ル。
p47	21	7月	廿八日 一、都路・西村両教授出校。
p47	22	7月	一、全羅南道光州公立小学校鈴木莊太郎来校。見学ヲ申込マル。
p47	23	7月	一、荒木矩君寄贈金品左ノ如シ。
p47	24	7月	金貳円宛 田中俊雄・児島巳千祐。金貳拾円 香川龍三。
p47	25	7月	絵画横物一点ツ、塩見青嵐・林司馬。鍛銅製茶 大久保鼎湖。
p47	26	7月	福田耕一郎・浅見柳三 金貳円ツ、井上正一 金参円。(以上受取証ヲ送)
p47	27	7月	一、香川龍三氏ハ一兩日前ニ金参円ヲ学校ヘ送付シ荒木矩君ヘ贈呈スヘク申出テ、一
p47	28	7月	昨日又金貳拾円自分宅ヘ持参シ前同様ノ贈呈ヲ依頼セラレ、今朝又来訪
p47	29	7月	シテ第一回金参円ヲ出金セシ後実父ヨリ金貳拾円ヲ贈呈スヘク手紙ニ接シタリ。
p47	30	7月	依テ第一回分ヲ取消シ第二回ニ出金セシモノヲ以之ニ代ヘント申出ラル。依テ
p47	31	7月	金参円ヲ返戻ス。
p47	32	7月	一、使丁ニ池田桂仙及卒業生九名ヘ手紙ト尺五絹本トヲ配附セシム。
p47	33	7月	三十一日 一、月影帖(箱入)荒木君ヨリ返納。一、二宮一鳩氏ヨリ光琳筆玉川之図
p47	34	7月	模本一卷返納、又模写(手本用)二枚受取。
p48	1	7月	一、尾道市西新濱邑、東洋研美協会ヨリ同会発行日本現代画伯名鑑
p48	2	7月	寄贈希望ノ有無照会ニ付、無代寄贈ヲ申込み。
p48	3	7月	一、昨日青谷鷹之助ヲ京都府都市計画課ニ推薦ノ手紙ヲ出ス。
p48	4	8月	八月三日 一、福知山中学校長田中常憲氏ヨリ前野三郎履歷書返戻シ来ル。
p48	5	8月	日ク、教授ニ経験アル人、年老ケタル人ヲ希望スト。
p48	6	8月	一、右ニ付田中校長ノ手紙ヲ添ヘテ前野三郎氏ヘ此旨ヲ通ス。
p48	7	8月	一、右ニ付中井宗太郎君ヘモ通知ス。
p48	8	8月	一、鈴木信太郎(大正十年卒業)ヲ京都府都市計画課ヘ推荐ス。
p48	9	8月	八月八日 一、岩村真次郎君ヨリ蒔絵莖笥ヲ受取ル。
p48	10	8月	一、佐野一星君ヘ右ノ蒔絵莖笥及小川博士ヨリ借入タル山水図巻ノ
p48	11	8月	二箱ヲ持タセ遣リ小川博士ヘ返納セシム。巻莖箱ハ礼意ナリ。
p48	12	8月	一、昨日藤島助成死亡スト。依テ花一對ヲ美工会ヨリ贈ラシム。
p48	13	8月	一、弔辞ヲ藤島助成君ノ遺族ヘ贈ル。
p48	14	8月	一、絵専及美工職員増俸ノ辞令公報ニ記載セラル。
p48	15	8月	八月十五日 一、昨日福知山中学校長ヨリ電報ニテ前野三郎氏ニ面会ヲ申入ラル。
p48	16	8月	先日前野氏履歷書返戻ニ付再考ヲ求メシ結果ナリ。
p48	17	8月	依テ同学校長ヘ返電并ニ前野氏ヘモ電報召喚ス。
p48	18	8月	一、午前十時前野氏来校。福知山中学校ヘ赴カシム。
p48	19	8月	一、前野氏ノ話ニ、一昨日瓜生修三郎氏死去、本日告別式アリシト。依テ
p48	20	8月	弔辞詞ヲ郵送ス。
p48	21	8月	一、小杉翠坡氏及外一人来室。
p48	22	8月	八月廿二日 一、瓜生氏ヘ送レル弔詞返送シ来ル。(転居先不明配達不能)
p48	23	8月	一、工夫創作展覧会出品概況報告七月三十一日迄ニ届出ツヘキ
p48	24	8月	処、昨日マテ該会ニツキ小生ニ通知ナシ。今更致シ方ナシ。
p48	25	8月	本月十三日付ニテ催促到達ニツキ九月一日以後ニ報告スヘク申送
p48	26	8月	レリ。(届出置ケリ)
p48	27	8月	八月廿三日 一、東原方儀氏ヨリ尺巾絹本画寄附(荒木君ヘ)受取ル。

p48	28	8月		一、 美八月号原稿ヲ送ル。尺五巾絹返戻セラル。日ク、出品製作
p48	29	8月		後ニテモ宜敷クハ尺五ニ揮毫スヘシト
p48	30	8月		附言セラル。
p49	1	8月	八月廿四日	一、 鉄道省運輸局ヨリ羽越線案内一冊寄贈セラル。礼状ヲ送ル。
p49	2	8月		一、 小杉翠坡女史来校。春日現記ヲ閲覧セラル。
p49	3	8月	八月廿五日	一、 市建築課ヨリ電話アリ。依テ出頭ス。用件ハ新築校舎図面ニツキ
p49	4	8月		建坪ノ減セラル、方案ナキヤヲ問ハル（二十万円斗リ予算ヨリ超過スヘシト）、
p49	5	8月		并ニ市ニテ作成セル平面図ノ検閲ヲ乞ハル。意是ヲ述ヘ少々ノ訂正ヲ申
p49	6	8月		込シ、且ツ建坪ハ東端ト西端ノ建物ハ東西五間トシテ三尺ツ、減スル
p49	7	8月		事ハ忍ヒ得ヘシト申入レ置ケリ。
p49	8	8月	同廿八日	出校ス。
p49	9	8月	同卅日	一、 市学務課ヨリ電話アリ。出頭ス。来年度予算ニツキ説明シテ帰ル。
p49	10	8月	同卅一日	一、 明日ノ始業式ノ準備ノ為メ出校ス。